

平成 29（2017）年度

「栃木県の家庭教育支援に関する実態調査」
報 告 書

栃木県総合教育センター

はじめに

家族構成の多様化や地域社会の変化により、家庭が抱える課題は複雑化しており、現代社会は、家庭教育が困難な時代ともいわれています。そのような背景を受け栃木県教育委員会では、「地域全体で支える家庭教育への支援」を基本施策の一つとし、家庭教育支援者の計画的な養成と地域全体で家庭教育を支援する環境づくりを推進しています。

今後、家庭教育支援体制の整備を進め、特に、家庭教育に関する学習機会の充実を図るに当たり、まず、これまで県で行ってきた事業（プログラム開発や研修）の普及、定着状況等の現状を把握するとともに、家庭教育支援に関する保護者の意識等を把握するため、6月～7月に県内の各地区で行われた PTA 指導者研修の場で保護者と教職員を対象にアンケート調査を行いました。

また、切れ目のない支援等について、市町教育委員会生涯学習課等や公民館等における家庭教育支援事業の状況を把握するため、担当者にアンケート調査を行い、その中で特色ある取組を行っているところへはヒアリング調査も行いました。

本報告書では、保護者が、家庭教育に関する学びについてどのような経験や意向があるのか、市町教育委員会生涯学習課等、公民館等でどのような家庭教育支援に関する取組を行い、どのような課題を感じているのか、また成果を上げている取組はどのようなものがあるかをまとめました。

本調査研究を行うにあたり、調査に御協力いただいた関係の皆様、お忙しいところ誠にありがとうございました。また、宇都宮共和大学特任教授牧野カツコ氏におかれましては、御多用の折、お時間をいただき貴重な御助言を賜りました。改めて御礼申し上げます。

県総合教育センターとしても、今回の調査結果を参考に今後の研修事業や情報提供事業の充実に取り組んでいきたいと思いますが、関係機関、団体の皆様にも、これからの家庭教育に関する学習機会の充実に役立ててもらえれば幸いです。

平成 30 年 3 月

栃木県総合教育センター 所長 軽部 幸治

目次

はじめに

第1章 調査研究の概要

1 調査研究の背景と目的	1
--------------	---

第2章 P T A指導者研修における家庭教育に関するアンケート調査の結果

1 調査方法等	2
2 回答者の概要	3
3 結果	5
4 まとめ	15

第3章 市町における家庭教育支援事業に関する取組状況調査の結果

1 調査方法等	18
2 結果	18
3 まとめ	33

第4章 公民館における家庭教育支援事業に関する取組状況調査の結果

1 調査方法等	36
2 結果	36
3 まとめ	63

第5章 市町、公民館における家庭教育支援事業に関するヒアリング調査の結果

1 調査方法等	65
2 結果	66

第6章 まとめ

1 まとめ	88
2 課題と今後に向けて	92

資料

1 P T A指導者研修における家庭教育に関するアンケート調査票	96
2 市町における家庭教育支援事業に関する取組状況調査票	98
3 公民館における家庭教育支援事業に関する取組状況調査票	105

第1章 調査研究の概要

1 調査研究の背景と目的

平成 29 年 1 月に文部科学省が設置した家庭教育支援の推進方策に関する検討委員会から、報告書「家庭教育支援の具体的な推進方策について」が出された。そこでは、冒頭で「家庭教育支援の意義」や「家庭教育支援を進めるための課題」について確認している。「家庭教育支援の意義」では、家庭教育は全ての教育の出発点であり、家庭に教育の基盤をしっかりと築くことがあらゆる教育の基盤として重要であるとしている。一方で、家族構成の変化や地域における人間関係の希薄化、家庭環境の多様化などに対応して、個々の事情に寄り添う支援の必要性についても触れている。また、「家庭教育支援を進めるための課題」については、行政の縦割りの問題、家庭教育支援に携わる人材の確保等が挙げられている。

本県では、「教育振興基本計画 2020—教育ビジョンとちぎ—」の基本方針に「育ちあえる絆をつくる」を掲げ、地域の中で豊かな人間関係を築くことによって互いに育ちあうことのできる絆づくりを進めていくとしており、基本施策は、「地域全体で支える家庭教育への支援」として、家庭教育支援の基盤づくりを進めている。また栃木県生涯学習推進計画五期計画「とちぎ輝き『あい』育みプラン」では、生涯学習推進における重点施策の一つに、県民の学習機会の充実として、家庭教育や子育てに関する学びの充実を掲げている。これまでも本県では、他県に先駆けて家庭教育支援に携わる地域住民の養成や学習プログラム作りを行ってきた。例えば、昭和 62 年度から家庭教育オピニオンリーダー養成研修を行っており、研修修了者が栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会を立ち上げて、県内各地で地域に根ざした活動を継続的に行っている。また、教育委員会事務局生涯学習課が平成 17 年度に作成した「親学習プログラム」は、保護者同士が身近なエピソードを用いたワークショップを通して話し合い、交流しながら主体的に学ぶことが出来る参加型学習で、各学校や公民館等で実践されている。さらには、そのプログラムを実践する人材養成も家庭教育支援プログラム指導者研修として継続的に行っている。

栃木県総合教育センター生涯学習部は、家庭教育支援に関する調査研究として、平成 13 年度に「家庭教育支援方策に関する研究調査—家庭教育に関する学習機会を中心として—」を行った。その内容は、各市町村で行われている家庭教育学級の実施状況についてが中心であった。今回の調査研究は、17 年ぶりのものになる。そこで本調査研究では、これまで栃木県家庭教育委員会が継続的に家庭教育支援者の養成研修を行ってきたり、親学習プログラムの活用を進めてきたりしたことへの検証を含めて、県内の家庭教育支援に関する実態を把握し分析することで、今後の効果的な支援のあり方について考察していく。

第2章 PTA 指導者研修における家庭教育に関するアンケート調査

1 調査方法等

(1) 調査対象

栃木県では、昭和 46 年度から県内の PTA 活動をより一層促進するため県教育委員会が主催して、栃木県市町村教育委員会連合会、栃木県 PTA 連合会・栃木県高等学校 PTA 連合会と共催で PTA 指導者研修を行っている。PTA 指導者研修にはⅠとⅡがあり、今回、調査を行った PTA 指導者研修Ⅰは、教育事務所ごとに 7 会場で行われるもので、単位 PTA の会長等の指導的役割を果たしている保護者及び教職員等を対象として、PTA の在り方、PTA の活動、保護者と学校の連携、PTA の果たすべき役割、今日的な課題等について研修を重ね、指導者としての資質向上を図る目的で行われている。その参加者を対象にアンケートを行った。

(2) 調査内容

家庭教育に関する学びの経験等について下記の内容を調査した。

研修参加者個人の考えに関する内容

- ・子育てに関する学びの場への参加経験の有無や子育てに関して学んでみたいこと
- ・親学習プログラムの認知と参加経験の有無
- ・栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の認知と活動参加経験の有無

所属する単位 PTA に関する内容

- ・家庭教育に関する学びの場の提供の有無とその協力団体
- ・所属する PTA の会員同士のつながり作りの有無
- ・所属する PTA の会員同士のコミュニケーションを増やす活動の有無
- ・所属する PTA 活動における父親参加について
- ・PTA 活動における家庭教育支援を充実させるための工夫や学習したい内容、効果を上げるために協力したい団体

(3) 調査方法

ア 調査票の配布等

PTA 指導者研修Ⅰの会場で研修参加者に調査票を配布し、回答を得た。

対象者	対象者数	回答数	回答率 (%)
PTA 指導者研修Ⅰ参加者	1404	992	70.7

イ 調査期間

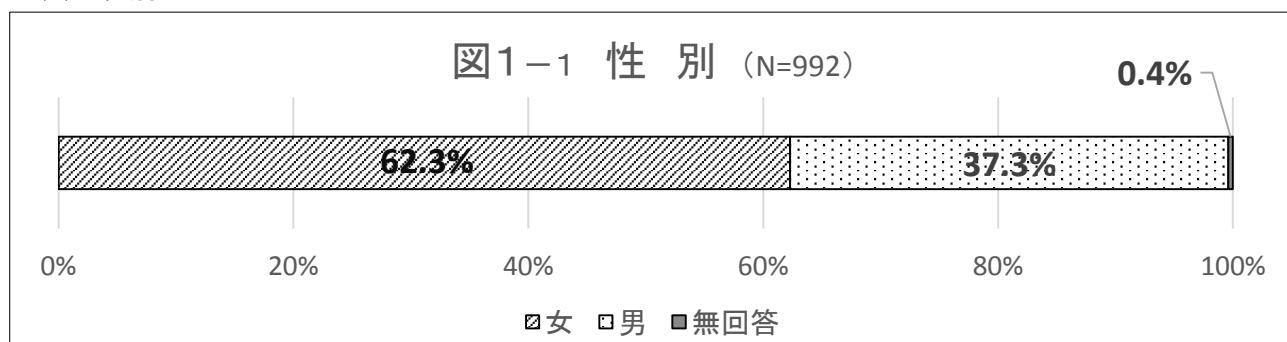
平成 29 年 6 月から平成 29 年 7 月

(4) 集計の表現について

回答率（各回答の百分率比）は少数第 2 位を四捨五入した。単数回答の百分率の合計は 100% であるが、四捨五入のために合計が見かけ上 100% にならないことがある。

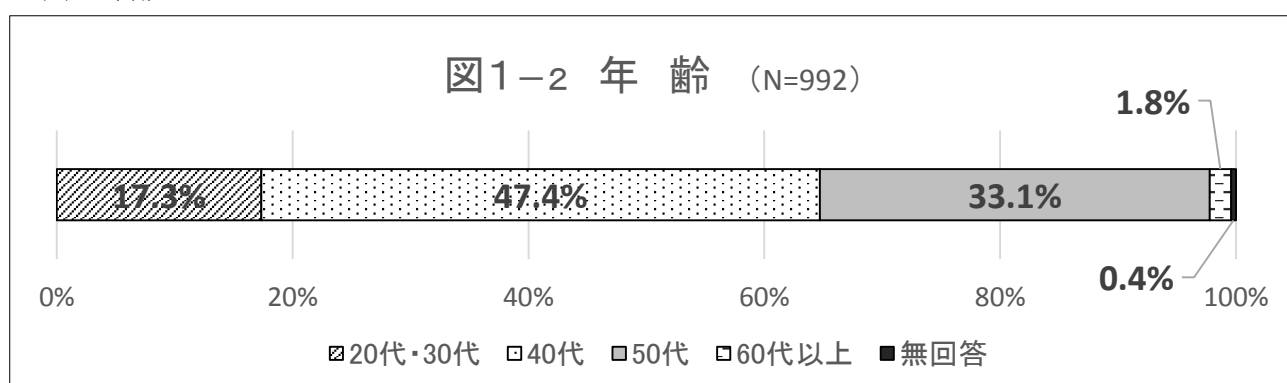
2 回答者の概要

(1) 性別



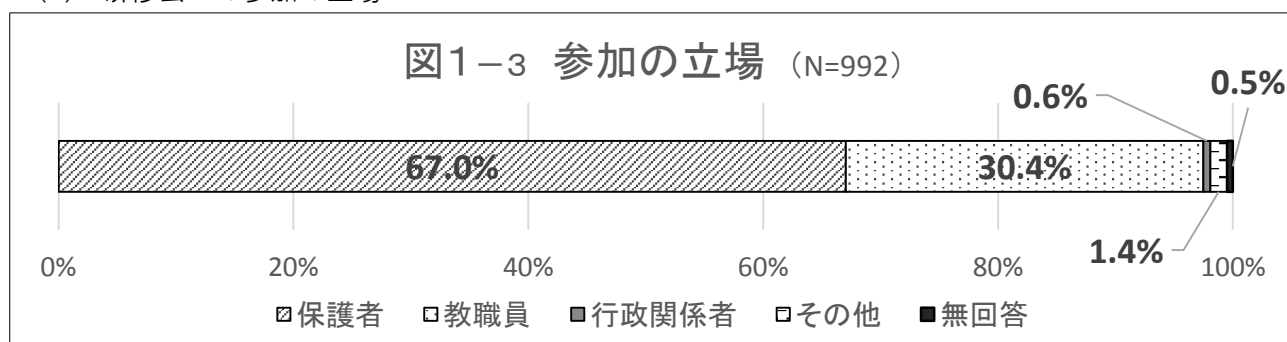
女性の参加が60%を超えている。【図1-1】

(2) 年齢



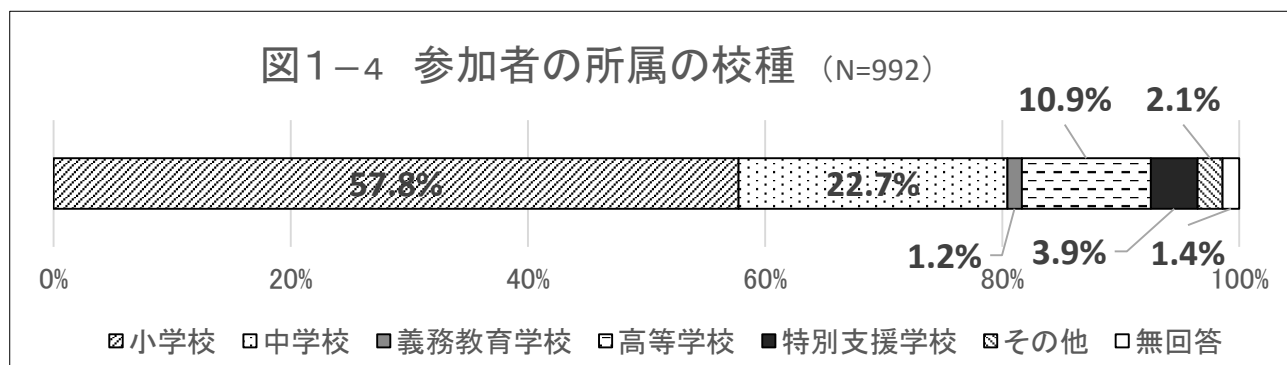
小学校から高校までのPTAの役員を中心とした方々が主な参加者であり、40～50歳代が全体の約8割を占めた。【図1-2】

(3) 研修会への参加の立場



保護者会員および、教職員の外、行政関係者が業務として参加していることから、どの立場として出席しているかを回答してもらった。保護者は67.0%、教職員が30.4%であった。【図1-3】

(4) 参加者の所属の校種

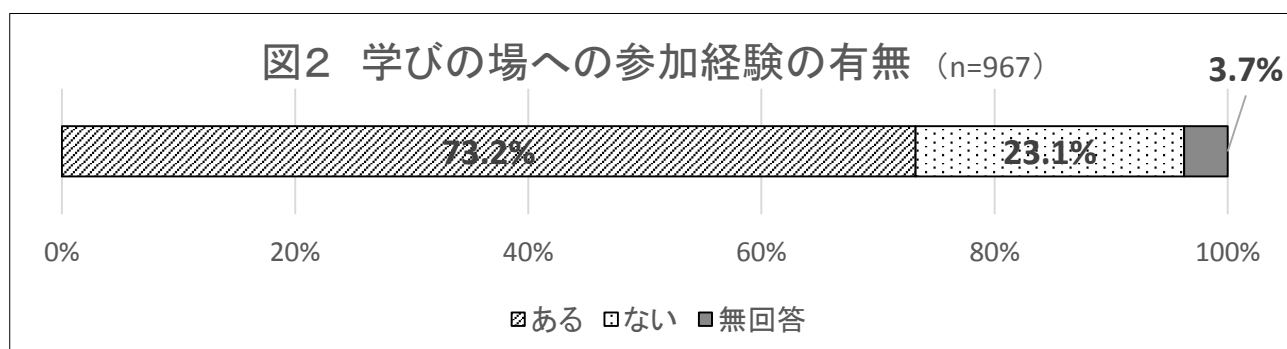


参加者の所属の校種を回答してもらった。小学校 57.8%、中学校 22.7%、義務教育学校 1.2%、高等学校 10.9%、特別支援学校 3.9%であった。【図1-4】

3 結果

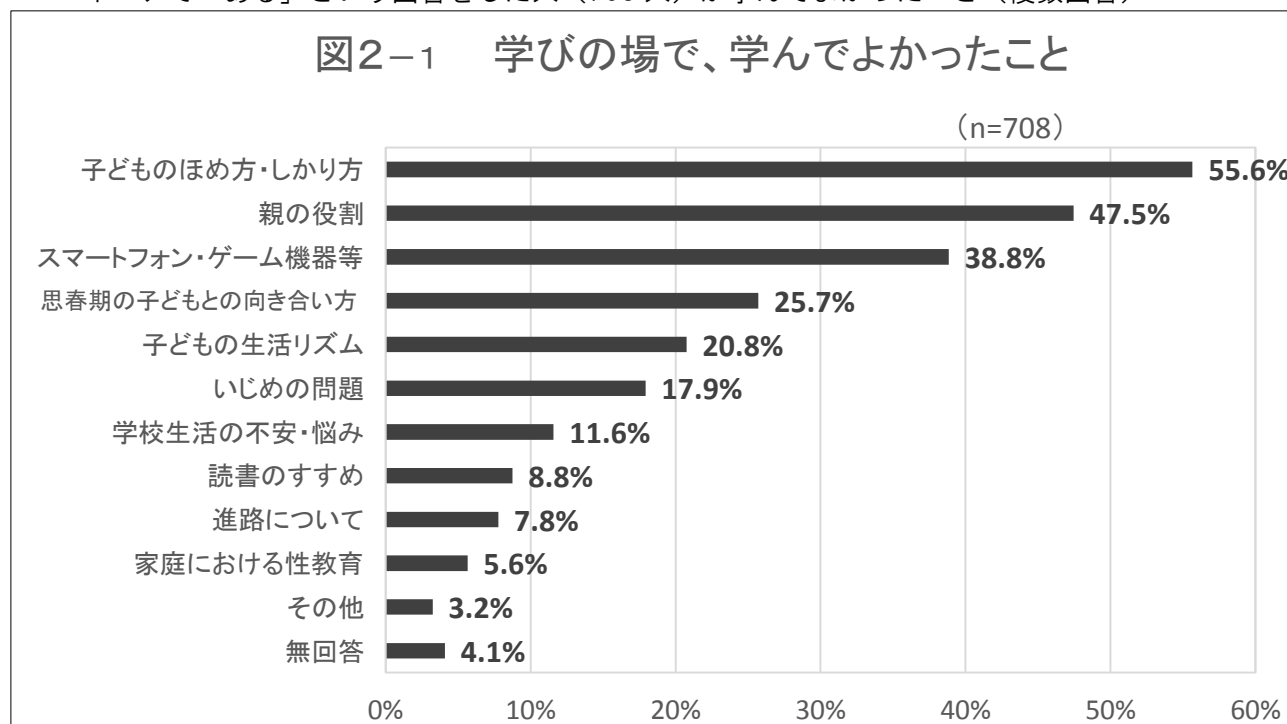
(1) 子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）へ参加した経験について

ア 行政、その他の立場の回答者を除いた保護者と教職員（967 人）の学びの場への参加経験の有無



「参加したことがある」と回答した割合は、73.2%であった。【図2】

イ アで「ある」という回答をした人（708 人）が学んでよかったこと（複数回答）



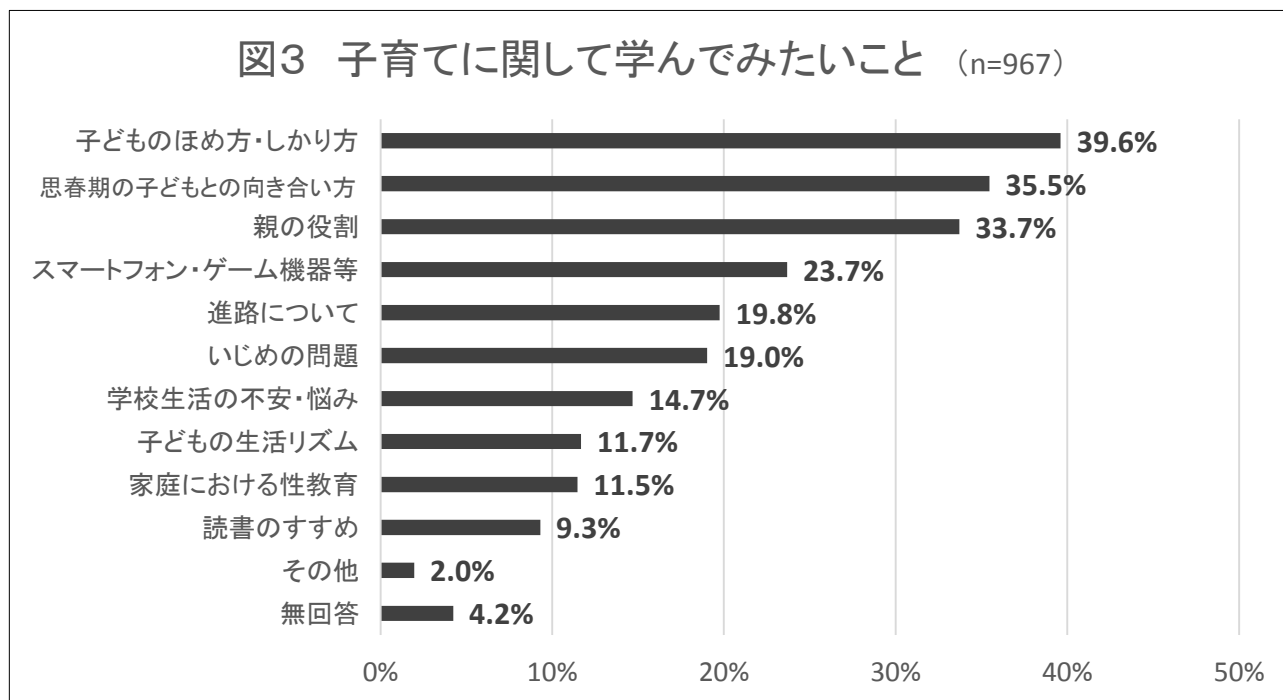
(1)で子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）に参加した経験が「ある」とした回答者に、「学んでよかったこと」を聞いたところ「子どものほめ方・しかり方」が最も多く、次いで「親の役割」だった。3 番目には、「スマートフォン・ゲーム機器等」と続いた。【図2-1】

【資料1】その他の主な記述（カッコ内は回答数）

・食育(5) ・心理学(4) ・コーチング(2) ・障害に関すること(2) ・ネットに関する講座(2)

(2) 現在、子育てに関してもっと学んでみたいことについて

ア 行政、その他の立場の回答者を除いた保護者と教職員（967人）が子育てに関して学んでみたいこと



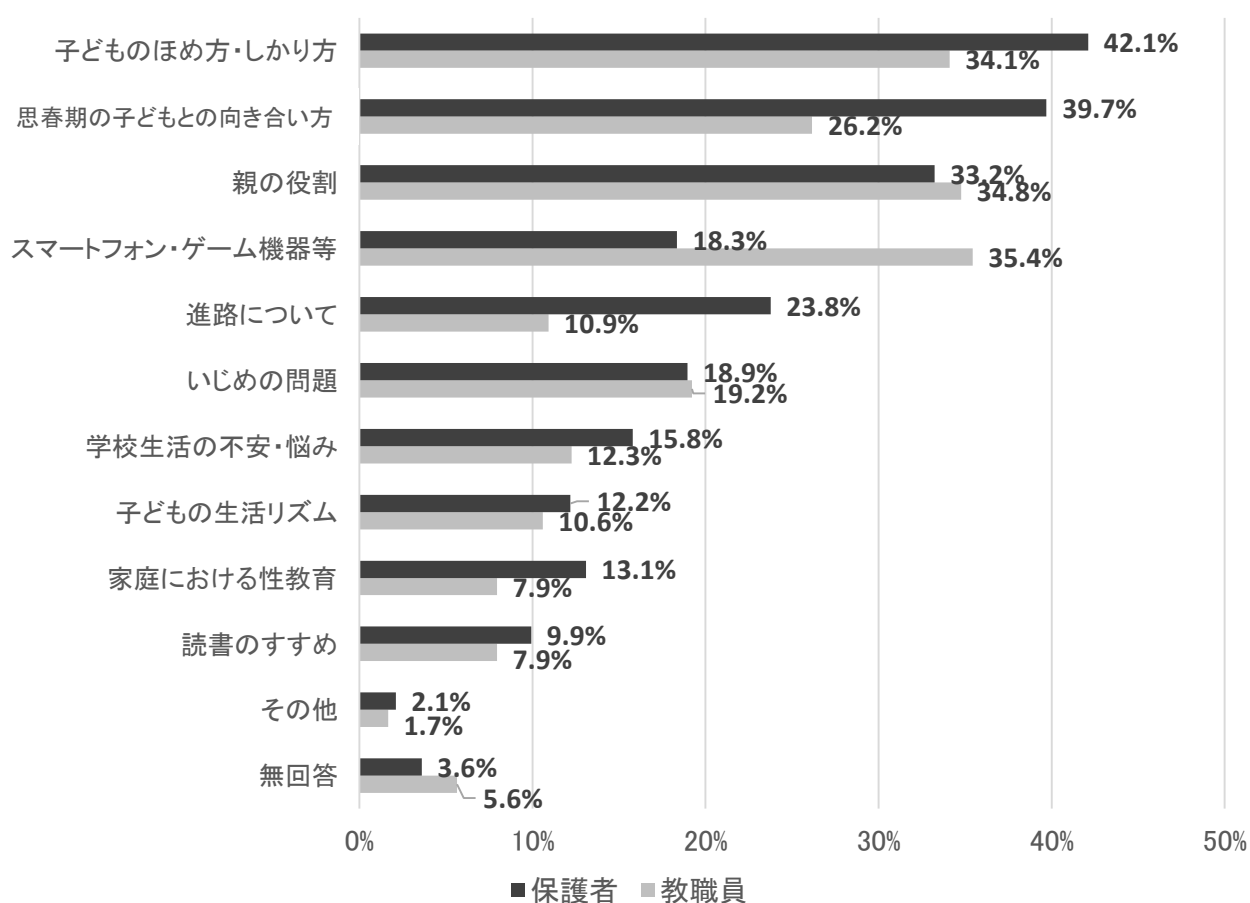
子育てに関してもっと学んでみたいことについて聞いたところ、「子どものほめ方・しかり方」が最も多く、次いで「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」と続いた。【図3】

【資料2】その他の主な記述（カッコ内は回答数）

- ・子どもとの接し方(4) ・自分の力で生きる、自尊心の育て方(2) ・子育て全般(2)
- ・子どもの貧困、犯罪の年少化(2)

イ アについて保護者（665 人）、教職員（302 人）別、子育てに関して学んでみたいこと

図3-1 子育てに関して学んでみたいこと〔保護者・教職員別〕



同じ回答を保護者と教職員別に集計したところ、次のような特徴が見られた。保護者は、多い順に「子どものほめ方・しかり方」42.1%で、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」、「進路について」と続く。一方で教職員は、多い順に「スマートフォン・ゲーム機器等」35.4%、「親の役割」、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」となり、保護者とは異なった。【図3-1】

ウ アについて保護者の校種別（小：384、中：159、高：77、特支：26）、子育てに関して学んでみたいこと

【表1】 保護者の校種別集計、上位5テーマ

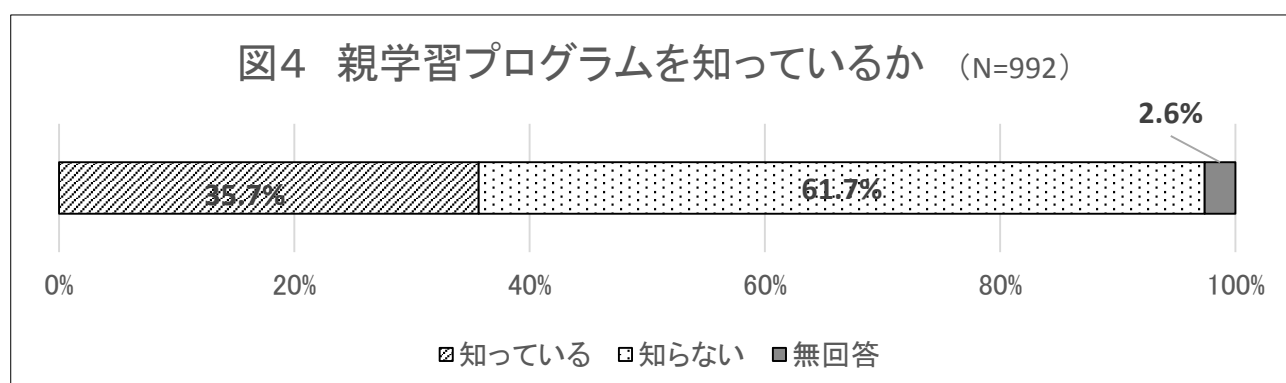
順位	小学校		中学校		高校		特別支援学校	
	テーマ	%	テーマ	%	テーマ	%	テーマ	%
1	子どものほめ方・しかり方	48.4	思春期の子どもとの向き合い方	40.9	思春期の子どもとの向き合い方	36.4	思春期の子どもとの向き合い方	38.5
2	思春期の子どもとの向き合い方	39.8	子どものほめ方・しかり方	35.8	親の役割	35.1	子どものほめ方・しかり方	34.6
3	親の役割	34.1	親の役割	28.9	子どものほめ方・しかり方	24.7	親の役割	34.6
4	進路について	24.0	進路について	25.8	進路について	18.2	進路について	34.6
5	いじめの問題	21.6	スマートフォン・ゲーム機器等	20.8	いじめの問題	14.3	学校生活の不安・悩み	26.9

保護者を校種別に見ると、全ての校種において割合や順番に違いはあるものの、上位3つのテーマは、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」だった。

小学校は、「子どものほめ方・しかり方」が最も高く48.4%だった。中学校、高校、特別支援学校は、「思春期の子どもとの向き合い方」が、それぞれ最も高くなった。【表1】

(3) 栃木県の「親学習プログラム」について

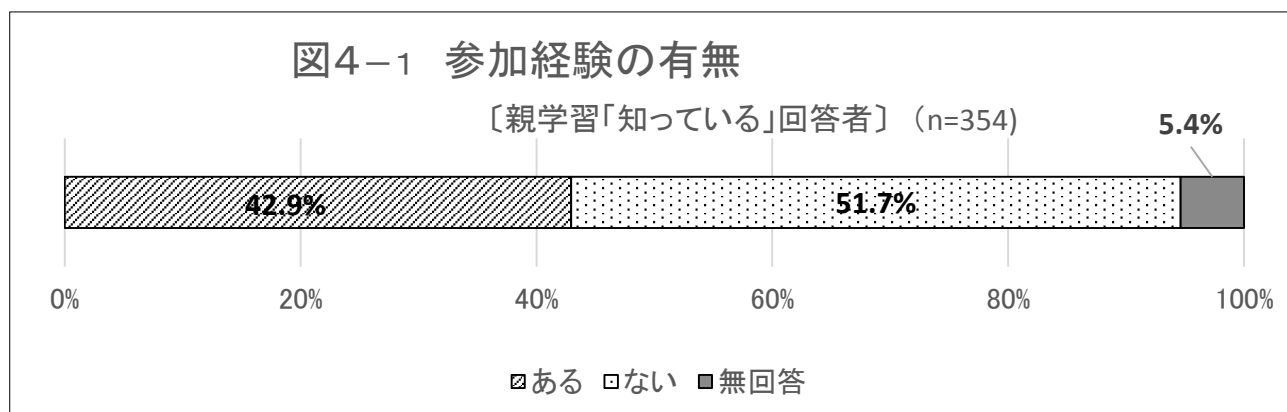
ア 親学習プログラムを知っているか



「知っている」と回答した割合は、35.7%で、「知らない」と回答した割合は、61.7%であった。

【図4】

イ アで「知っている」と答えた(354 人)が親学習プログラムを活用した学習への参加経験の有無

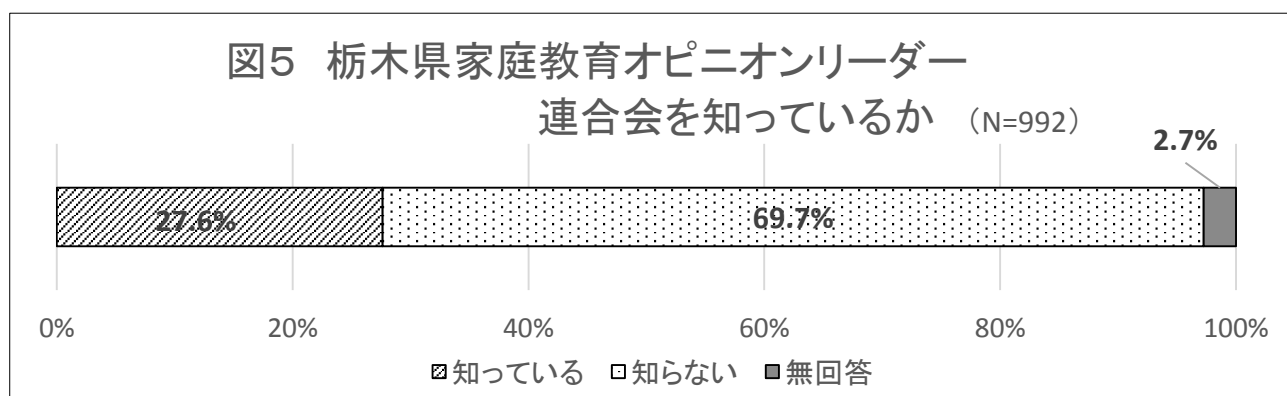


「参加したことがある」と回答した割合が 42.9%、「参加したことはない」は 51.7%であった。

【図4-1】

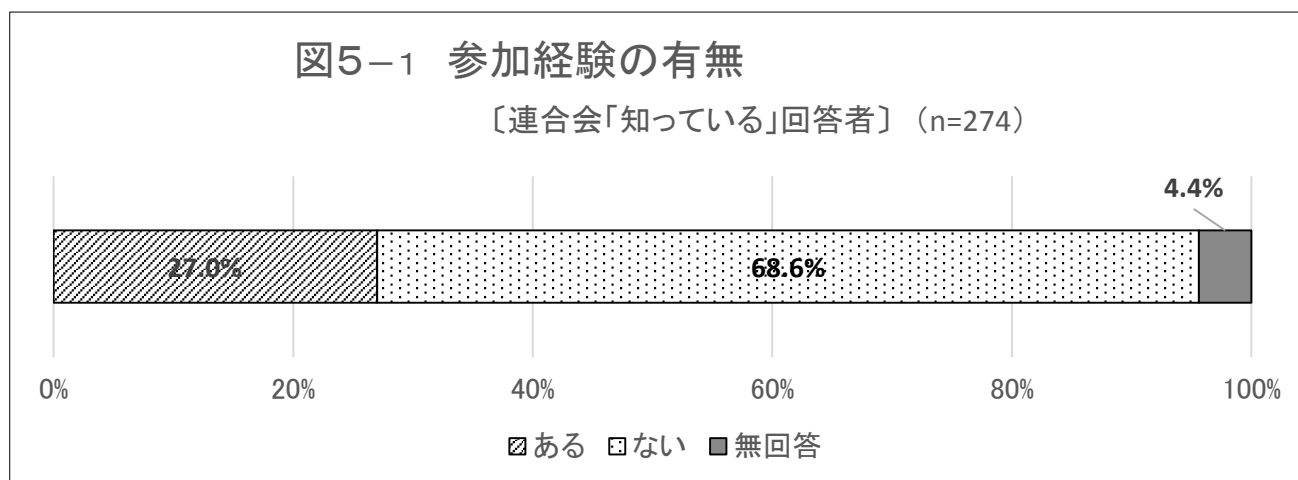
(4) 「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」について

ア 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会を知っているか



「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」について聞いたところ、「知っている」と回答した割合は 27.6%、「知らない」と回答した割合は、69.7%であった。【図5】

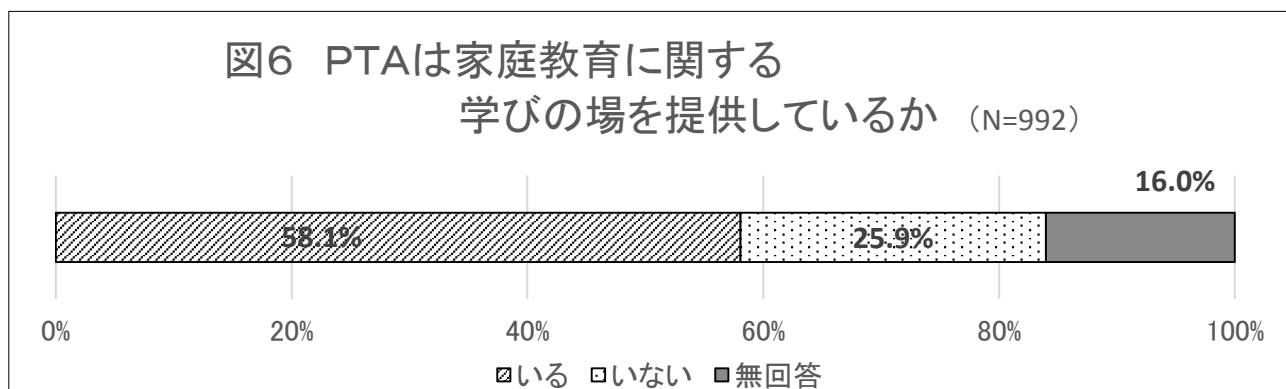
イ アで「知っている」と答えた(274 人)が、オピニオンリーダーが行う活動への参加経験の有無



「参加したことがある」27.0%、「参加したことはない」が 68.6%であった。【図5-1】

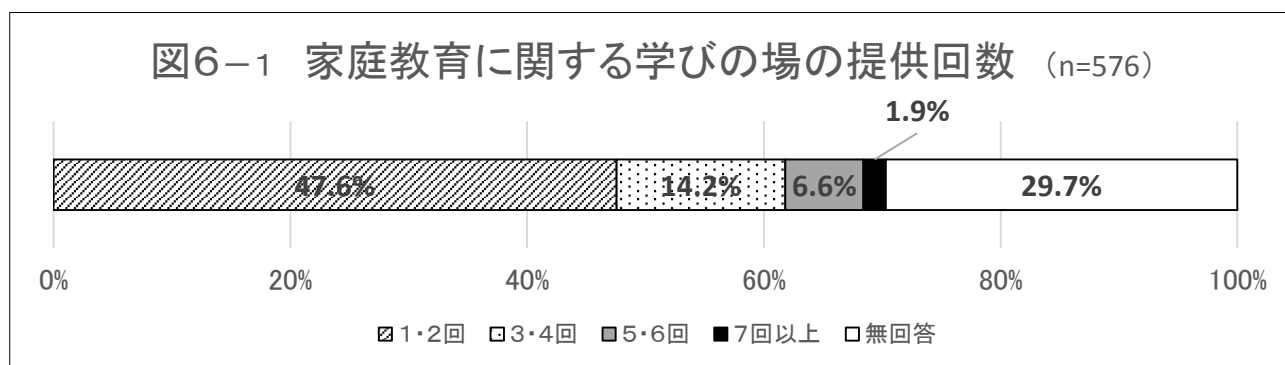
(5) 所属している PTA の家庭教育に関する学習の場の提供について

ア 所属の単位 PTA における家庭教育に関する学びの場の提供の有無



「提供している」と回答した割合は 58.1%で、「提供していない」は 25.9%であった。【図6】

イ アで「提供している」と答えた(576 人)が、家庭教育に関する学びの場の提供回数



実施回数は 1・2 回が 47.6%であった。【図6-1】提供している内容は、資料3のとおりである。

【資料3】所属 PTA の家庭教育に関する学習の場について主な自由記述（カッコ内は回答数）

○「提供している」内容

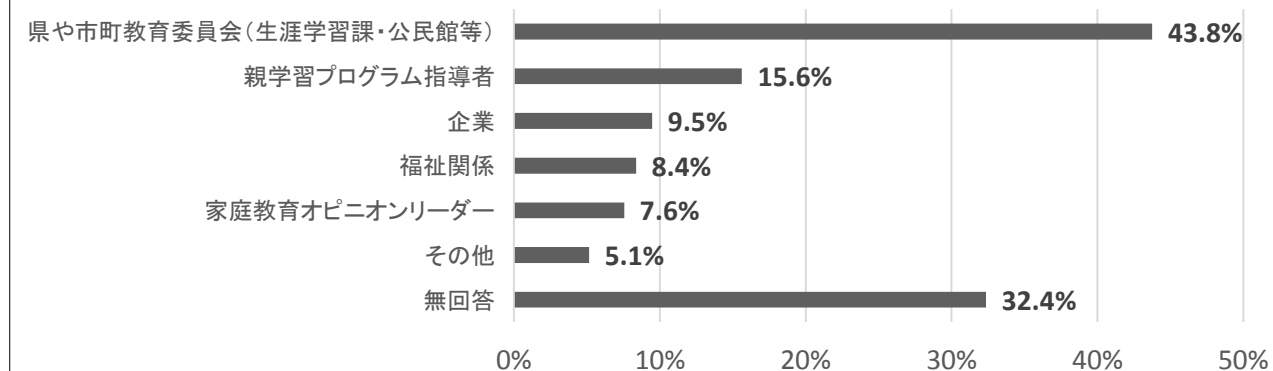
- ・ PTA 教育講演会（いじめ、LGBT、スマホ・SNS、食育、子どもとの関わり方、思春期）(276)
- ・ 家庭教育学級などの研修会（料理、手芸等を含む）(38) ・ 視察研修(23)
- ・ 子どもと一緒に活動する(17) ・ 地域や公民館と連携しての活動(7)
- ・ 研修等報告だよりや報告会(5) ・ 親学習プログラム(2)

○「提供していない」ので、やってみたいこと

- ・ 講話（SNS、いじめ、思春期、勉強に関する事、生活リズム、子どもへの接し方、親の経済学、家事、教職員と保護者の協力について）(27)
- ・ 親子で活動（料理、ボランティア、泥こね）(7)
- ・ 保護者同士が悩みを話し合うことで安心するプログラム(1)

ウ 「どのような団体等と連携して行っているか、または行いたいのか」について

図7 協力している・協力したい団体 (N=992)



「県や市町教育委員会（生涯学習課・公民館等）」が最も多かった。他には、「親学習プログラム指導者」を選択している回答が多かった。【図7】

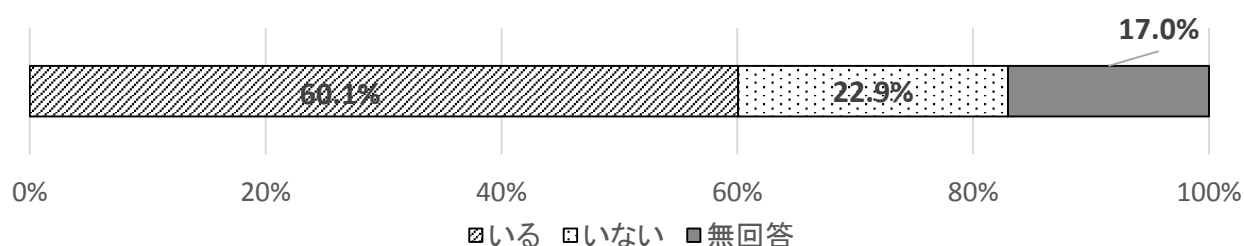
【資料4】その他の主な記述（カッコ内は回答数）

- ・学校（近隣小学校、中学校ブロック）(8)
- ・地域（開業医や協力隊、卒業生の保護者）(5)
- ・行政（役所、教育委員会、消防、交番）(4)
- ・ボランティア団体(2)
- ・専門家(2)
- ・福祉関係(1)
- ・家庭(1)
- ・テーマに即した団体(1)

(6) 所属している PTA の会員同士のつながり作りについて

ア 所属している PTA は、会員同士のつながり作りに力をいれているか

図8 PTAは会員同士のつながり作りに
力を入れているか (N=992)



会員同士のつながり作りに「力を入れている」と回答した割合は 60.1%であった。「力を入れない」と回答した割合は、22.9%であった。【図8】

【資料5】会員同士のつながり作りについて、自由記述（カッコ内は回答数）

○行っている内容

- ・スポーツ大会(ソフトバレーボール、レクリエーション、イベント) (129)
- ・PTA 行事、活動全体（専門部、学年部会、支部会、委員会活動等）(69)
- ・懇親会、懇談会、茶話会、食事会(61)
- ・学校行事（学校祭、文化祭、マラソン大会、運動会など）(52)
- ・研修会（料理、手芸、心肺蘇生法の実習、情報教育など）(51)
- ・研修視察旅行（親子の場合も含む）(46)

- ・奉仕作業、労力作業、廃品回収等(38)
- ・親子学習会、親子活動（清掃、レクリエーションなど）(24)
- ・講演会（教育、学校について、食育、コミュニケーションづくり）(16)
- ・地区懇談会、地区別会合、地域活動など(15)
- ・広報活動による情報の共有（メール、SNS、口コミ、HP など）(13)
- ・バザー等(11)
- ・家庭教育学級(9)
- ・保護者の集まる機会や場をつくる（おやじの会、親カフェ等）(7)
- ・PTA への積極的参加の呼びかけ（参加率の高い行事、総会、授業参観等）(6)
- ・ボランティア活動（清掃、読み聞かせ、学習支援など）(5)
- ・親学習プログラム(4) ・普段の中でつながりはできている（4）
- ・運営委員会時のグループワーク、組織作り(3)
- ・市P連への参加による交流など(1) ・先生方を含めて情報交換(1) ・部活等の活動を通して(1)

○「やっていない」ので、やってみたいこと

- ・懇親会、親睦会、交流会など(7) ・保護者の集まる機会をもうける(3)
- ・親子でのレクリエーション活動等(2) ・ワークショップで思いを語り合う(2)
- ・PTA 同士のレクリエーション(1)
- ・何かテーマを決めて、一緒に話し合ったり、活動したりしたい。(1)
- ・保護者と教員の連携・懇親会など(1)

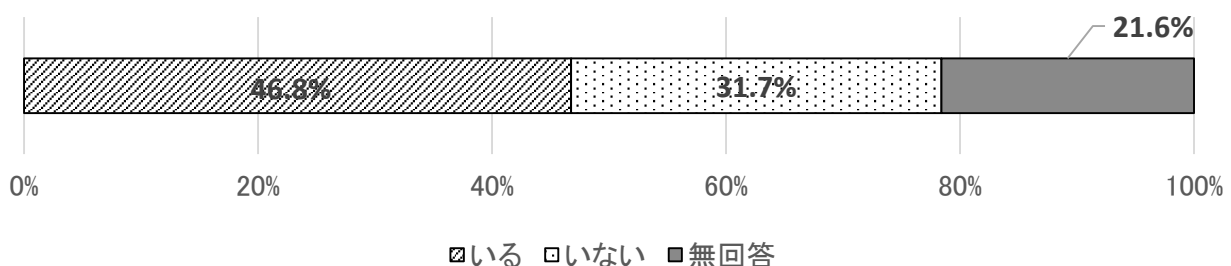
○その他

- ・地域が狭いので、そもそもつながっている(5) ・やっているが、参加者が集まらずに中止(4)
- ・時間がとれないので難しい人もいる(2)

(7) 所属している PTA の会員同士のコミュニケーションを増やす活動について

ア 所属している PTA の会員同士のコミュニケーションに力を入れているか

図9 PTAは会員同士のコミュニケーションに
力を入れているか (N=992)



「力を入れている」と回答した割合は、46.8%であった。「力を入れていない」と回答した割合は、31.7%であった。【図9】

【資料6】会員同士のコミュニケーションを増やす活動について、自由記述（カッコ内は回答数）

○行っている内容

- ・レクリエーション(スポーツ含む) (76) ・研修会（料理、手芸等の趣味系）、講演会の開催(62)
- ・懇親会（食事会等も含む）(56) ・PTA 行事や活動全体(38)
- ・研修視察旅行（大学見学等）(36) ・運動会等の学校行事を通して(22)
- ・奉仕活動（廃品回収、清掃等）(15) ・地区懇談会、地域集会(11)
- ・広報活動による情報提供（HP、メール、広報紙など）(9)

- ・活動というよりは、努力をしているといったところ(9)
- ・ボランティア（教材整理等を含む）を企画(7) ・親学習プログラム(4)
- ・コミュニケーションアプリなどでグループを作っている(4) ・家庭教育学級(2)
- ・PTA とは関係なくコミュニケーションの場が多くある(1)
- ・地域的にコミュニケーションをする場所、PTA が学校に協力的だから自然にコミュニケーションしている。(1)
- ・部活動育成会などでは、先生方も含む場を設けて、子どもたちの様子や親の悩みを伝えられる。(1)
- ・高校なので、特に必要性を感じない(1)

○つながり作りをしていないので、やってみたいこと

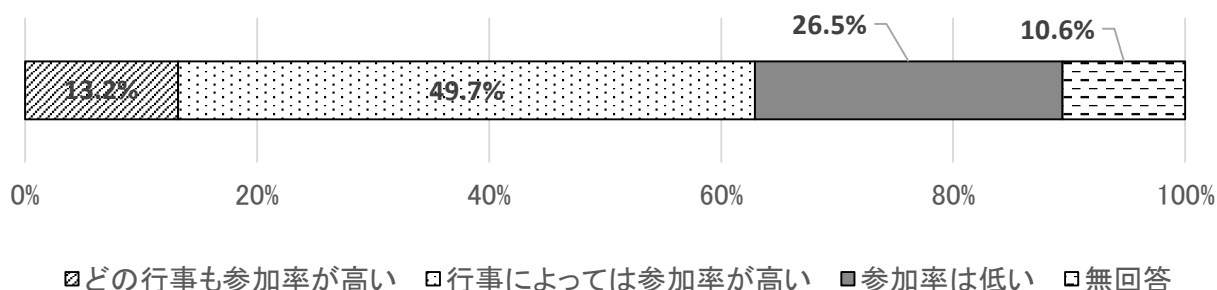
- ・懇親会、放課後のお茶会など(11) ・レクリエーションなど(10)
- ・子どもと一緒に参加する行事の実施(7)
- ・親同士、小グループで話す場や顔を合わせる機会を作る(6)
- ・研修旅行(2) ・廃品回収、勉強会(1)

○その他

- ・小規模な学校なので、会員の方がほとんど行事等に参加したり、大体顔もわかり話したりするので、親睦を増やす必要は今のところない。地域でのつながりは強い。(5)
- ・集まるのが難しい（共働き世帯の増加や学区の拡大等）(5)
- ・重要な課題として考えているが、具体的な方策はない。(3)
- ・PTA 活動も少なくなりつつあるからこそ、PTA 同士のつながりが必要だと思う。(1)

(8) 所属している PTA の父親の行事等への参加の程度について

図10 PTAの行事等への父親の参加率 (N=992)



ア 所属している PTA の行事等への父親の参加率

「行事によっては参加率が高い」49.7%、「参加率は低い」26.5%、「どの行事も参加率が高い」13.2%となった。【図 10】

【資料7】父親の行事等への参加について、自由記述（カッコ内は回答数）

○参加率が高い行事名

- ・運動会、球技大会、スポーツ大会(316) ・奉仕活動、資源物回収(137)
- ・文化祭、学校祭、音楽発表会、学習発表会、芸術鑑賞会(55)
- ・授業参観、家族参観、オープンスクール(40) ・学校行事全体(18)
- ・育成会や地域のイベント等(17) ・力仕事や体力の必要な内容のものなど(13)
- ・入学式、卒業式(12) ・バザー(6) ・親子ふれあい活動、親子レク(5) ・PTA 総会(5)
- ・PTA 役員会、支部会等(4) ・懇親会(2) ・親学習プログラム(1) ・登校時の見守り(1)
- ・部活の試合、大会(1) ・5 S（整理・清掃・整頓・清潔・しつけ）活動（PTA）(1)

- ・PTS（P：保護者、T：教員、S：生徒）話し合いの会(1)

○参加が増えるようなテーマ

- ・父親の〇〇というように限定してしまう(19) ・親子での活動(17)
- ・父親が得意とすること(14) ・体力が必要な活動や力仕事など(7)
- ・健康、食育(3) ・おやじの会をつくる(2) ・子育ての中での父親の役割等(2)
- ・母親だけではなく、夫婦での参加により、父親の協力を受ける。(2)
- ・PTA の役職に父親が就くこと(1) ・懇親会(1) ・奉仕活動、廃品回収(1)
- ・ロールプレイで相手の立場が実感できるようなワークショップ（平田オリザさんなど）(1)
- ・今年の試みとして花火大会の様なものを企画し、父親の参加アップをねらっている。(1)

○その他

- ・父親が参加できる日時を検討した方がよい（土日など）。(19)
- ・父親が向いている活動を行う(12) ・PTA 全体の人数が少ないので、参加率は高い(3)
- ・行事ではないが部活の練習・試合等はお父さん方の協力が欠かせず、協力的である。(2)
- ・参加率より何が必要かを考えた方がよい(2) ・地域力だと思います(1)
- ・母子家庭も多く難しい(1)

- (9) 今後、PTA 活動における家庭教育支援の充実のための学習内容について

PTA 活動における家庭教育支援を充実させるために、どのような内容を会員みんなで学習したいかについては、【資料8】のとおりである。

【資料8】学習内容について、自由記述（カッコ内は回答数）

○保護者

- ・親子の関係、親の役割などについて(23) ・人権教育（体験型）(13)
- ・子どもの生活リズム（健康に関する心理や食育を含む）(12)
- ・子どもとの接し方（思春期を含む）(11)
- ・スマートフォンやゲームを通じてのソーシャルネットワークの問題(8)
- ・家庭学習について(7) ・内容によっては子どもにも参加し一緒に学べる工夫(7)
- ・子どもの成長の為に、保護者が学校などどのようにかかわっていくべきか(6)
- ・進路について、職業の選び方(6)
- ・地域で子育てを考えること（つながり、文化や歴史を学ぶなど）(6)
- ・学校における学校行事へのPTA や地域住民のあり方（運営の仕方）(3)
- ・家庭が望むのであれば可能であるが、PTA から家庭へというのはどうなのか(3)
- ・福祉(2) ・保護者の意識改革、勉強会を開催し定期的に行う(2) ・ちらし配布(1)

○教職員

- ・子どもに対する接し方（思春期含む）(27)
- ・スマートフォンやゲームを通じてのソーシャルネットワークの問題（親同士なども含む）(23)
- ・子どもとの関わり方（子どもとの距離感の取り方）(14)
- ・親の役割(13) ・学校の役割と親の役割(13) ・生活リズム(11)
- ・子どものしつけ、規範意識の高揚など(8) ・家庭学習(7) ・保護者と学校の連携(6)
- ・キャリア教育(5) ・親子でふれあうことができる活動プログラムを学びたい。(5)
- ・PTA のあり方(負担のかからない充実した活動や土日や長期休業を活用した開催の工夫)(5)
- ・地域と子のつながり(5) ・子育て支援(4)
- ・講演会等で親の姿を学んで欲しいが、なかなか参加されない現状(3)
- ・特別支援教育(2)
- ・アンガーマネジメントなど、実際のワークショップ型のもの(1)
- ・現代の子どもたちの現状に関する内容(1)

(10) PTA 活動における家庭教育支援の効果をあげるために協力したい団体等について

PTA 活動における家庭教育支援の効果をあげるために協力したい団体等については、【資料 9】のとおりである。

【資料 9】協力したい団体等について、自由記述、(カッコ内は回答数)

・ NPO 団体等(5) ・ 県、市町教育委員会(5) ・ コミュニティ、自治会、企業(4) ・ 親学習プログラム、家庭教育オピニオンリーダー(3) ・ (子ども) 福祉課(2) ・ 社会福祉協議会(2) ・ 食育を行っている団体、特に農業体験を行っている団体、JA など(2) ・ 青少年巡回指導員、青少年指導員、青少年育成市民会議(2) ・ アシストネットボランティア、おやじの会(1) ・ 学校評議員(1) ・ 警察(1) ・ 障害者(児)団体(1)
--

4 まとめ

ここでは、PTA 指導者研修で行った調査から明らかになったことをまとめる。

(1) 子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）での学びの内容について（行政、その他の立場の回答者を除く）

子育てに関する学びの場に 7 割を超える参加経験者がいた。参加経験者は、学んでよかったこととして、「子どものほめ方・しかり方」、「親の役割」、「スマートフォン・ゲーム機器等」の順で意見が多かった。一方、保護者と教職員をあわせた、子育てに関して学んでみたいことは、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」の順で意見が多かった。さらに、保護者、教職員別で見ると、違いが出た項目が「思春期の子どもとの向き合い方」と「スマートフォン・ゲーム機器等」であり、「思春期の子どもとの向き合い方」は保護者が、「スマートフォン・ゲーム機器等」は教職員が学んでみたいと思う割合が高かった。保護者を校種別に見ても、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」は順位に違いはあるが、どの校種でも学んでみたいことであった。

【図 2-1】【図 3】【図 3-1】【表 1】

(2) 栃木県の「親学習プログラム」の認知度について

アンケート結果から、親学習プログラムを知っていると回答した人は、35.7%であった。更に、「知っている」と回答した人でも、「参加したことがある」と回答した人は 42.9%であった。

多くの市町で就学時健康診断時に、保護者向けに「親学習プログラム」を活用した学習の機会を提供していて、保護者が既に体験をしていると考えられる。しかし、実際に体験したプログラムと「親学習プログラム」という名称が、保護者の中で合致していないということが明確になった。

【図 4】【図 4-1】

(3) 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の認知度について

アンケート結果から、家庭教育オピニオンリーダー連合会を知っていると回答した人は、27.6%であった。更に、「知っている」と回答した人でも、「参加したことがある」と回答した人は27.0%だった。

なお、栃木県家庭教育オピニオンリーダーは、旧市町単位で支部を作り30年近く活動をしてきている。各支部では、「よもぎの会（西那須野支部）」や「さくらんぼの会（市貝支部）」などの名称を付けて活動しているところがほとんどである。【図5】【図5-1】

(4) PTA 活動について

所属しているPTAによる家庭教育に関する学びの場の提供の有無について質問したところ「提供している」という回答は、6割弱であった。「提供していない」という回答は2割強である。さらに、「提供している」と回答した人に提供回数を聞いたところ、「1・2回」が5割弱であった。提供している内容は、「PTA教育講演会」が最も多かった。また、件数は2件だったが、親学習プログラムを行っているところもあった。さらに、「提供していない」と回答した人に、提供していないのでやってみたいことを聞いたところ、「講話」が最も多かった。【図6】【図6-1】【資料3】

所属しているPTAが家庭教育に関する学習の場をどのような団体と連携して行っているか、または行いたいかについては、「県や市町教育委員会（生涯学習課・公民館等）」が最も多くあげられていた。【図7】【資料4】

所属しているPTAは会員同士のつながり作りに力を入れているかについては、「力を入れている」という回答は6割で、内容は「スポーツ大会」が最も多く、「PTA行事や活動全体（専門部、学年部会等）」、「懇親会や懇談会等」、「学校行事（学校祭、文化祭等）」があがっていた。【図8】【資料5】

所属しているPTAは会員同士のコミュニケーションに力を入れているかについては、5割弱が「力を入れている」と回答した。「レクリエーション（スポーツ含む）」が最も多く、次いで「研修会や講演会」、「懇親会」があがっていた。【図9】【資料6】

所属しているPTAの行事等への父親の参加率については、「どの行事も参加率が高い」、「行事によっては参加率が高い」を合わせた回答は、6割だった。「どの行事も参加率が高い」、「行事によっては参加率が高い」と回答した人に、「参加率が高い行事名」を聞いたところ、「運動会、球技大会、スポーツ大会」が最も多く、「奉仕活動、資源物回収」、「文化祭、学校祭、音楽発表会、学習発表会、芸術鑑賞会」と続いた。また、「参加率は低い」と回答した人には、「父親の参加が増えるようなテーマ」を記述してもらったところ、「父親の〇〇というように限定する」、「親子で活動」などがあがっていた。【図10】【資料7】

これらのことから、「学びの場」で行われているのは、いじめ問題等現代的課題をテーマとした「講演会や講話」が多く、「会員同士のつながり作り」や「会員同士のコミュニケーション」、「行事等への父親の参加率が高いもの」については、体を動かす「スポーツ大会」や「レクリエーション」が多いことがわかった。

(5) PTA 活動における家庭教育支援について

今後、PTA 活動における家庭教育支援を充実させるために、どのような内容を学習したいかについては、保護者と教職員とで記述内容に差があることから、立場に分けて集計した。保護者の記述は、「親子の関係、親の役割」、「人権教育（体験型）」などが多かった。一方、教職員の記述は、「子どもに対する接し方（思春期を含む）」、「スマホやゲームを通じてのソーシャルネットワークの問題（親同士なども含む）」などが多かった。【資料8】

PTA 活動における家庭教育支援の効果をあげるために協力したい団体等については、「NPO 団体等」、「県、市町教育委員会」などがあげられていた。【資料9】

第3章 市町における家庭教育支援事業に関する取組状況調査の結果

1 調査方法等

(1) 調査対象

県内の25市町教育委員会生涯学習課等

(2) 調査内容

生涯学習課等（市町の教育委員会において、家庭教育支援を担当する課について、市町によって名称が異なるため生涯学習課等と表記する。以下同じ）が中心となって教育委員会で実施している平成29年度の家庭教育支援事業（今後、実施予定分も含む）について、次の内容を回答してもらった。

学習機会の提供の有無、相談機会の提供の有無、親子の体験の有無、保護者同士の交流機会の提供の有無、異世代間の交流機会の提供の有無、困難を抱える子育て中の家庭への支援の有無、子育てに直接関わらない世代への家庭教育支援に関する事業や働きかけの有無、情報提供の方法、特色ある事業、家庭教育支援に関する施策（以下、施策）を展開する上での課題、施策の立案や実施への県の支援、施策を展開する上での事業所との連携の有無と内容や理由などである。

(3) 調査方法

ア 調査票の配布・回収

対象者	対象者数	回収数	回収率（％）
市町教育委員会生涯学習課等	25	25	100.0

イ 調査期間

平成29年9月～平成29年10月

(4) 集計の表現について

回答率（各回答の百分率比）は少数第2位を四捨五入した。

2 結果

(1) 家庭教育担当者数

【表2】

担当者数	0	1	2	3	4	5
市町数	1	7	7	4	5	1

担当者が1～2人で行っている市町が多かった。また、市町によっては首長部局が家庭教育を担当している所もあり、そのため生涯学習課では担当者なしという回答だった。

(2) 家庭教育支援関係事業予算

【表3】

金額 (千円)	0	1～500	501～ 1,000	1,001～ 1,500	1,501～ 2,000	2,001～ 2,500	2,501～ 3,000	3,001～ 3,500	3,501～ 4,000
市町数	1	7	6	2	3	1	2	2	1

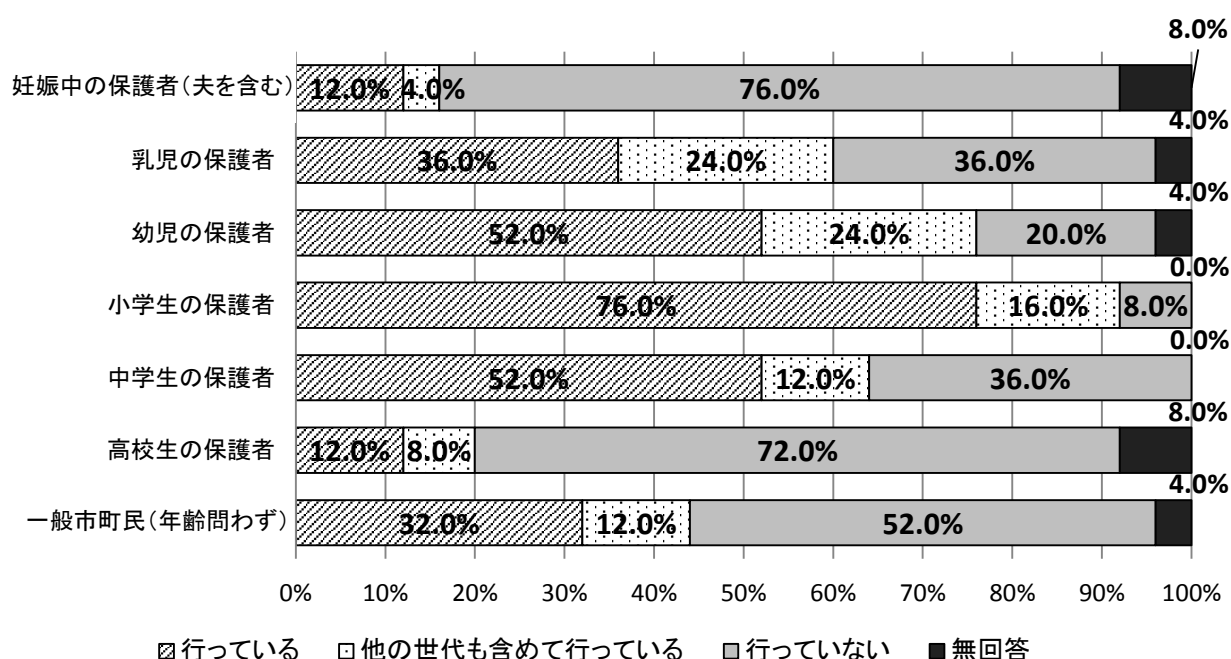
ここで回答してもらった予算とは、生涯学習課の家庭教育支援事業（公民館等、出先機関の予算

も含む)に関する予算の総額になる。1千～50万、50万1千～100万円という市町が全体の半数を占めた。また、(1)と同様に首長部局が家庭教育を担当している所は、生涯学習課では予算もゼロという回答だった。

(3) 市町での家庭教育支援事業について

ア 学習機会の提供について

図11 子どもの年代別保護者への学習機会の提供状況 (N=25)



「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、小学生の保護者を対象にした学習機会の提供が最も多い。妊娠中の保護者(夫を含む)対象は、16.0%で最も少なかった。高校生の保護者に対しても20.0%である。【図11】

実施している内容やテーマについては、【資料10】のとおりである。

【資料10】子どもの年代別保護者の学習機会の提供状況(主な記述内容、年代別、順不同)

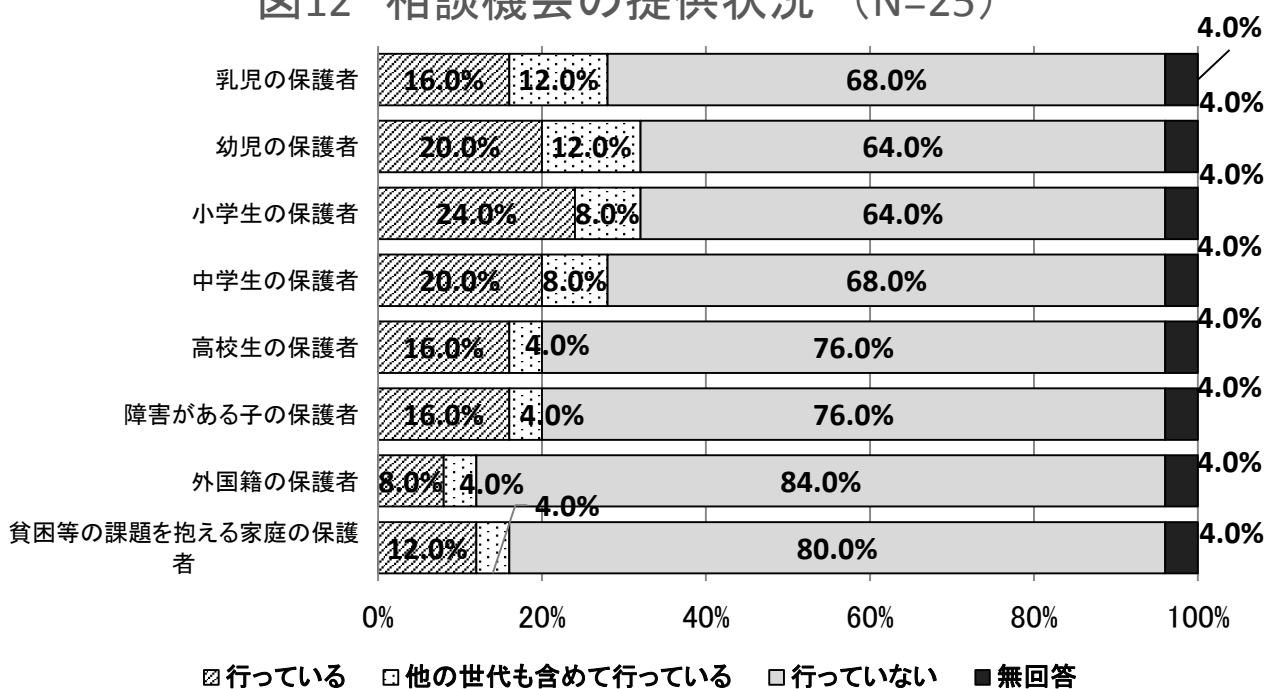
妊娠中の保護者(夫を含む)	
市町名	実施している内容やテーマ
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
市貝	各研修会 例: 子どもの健康と食事
那珂川	男女共同参画講演会
那須塩原	母親学級「産後の生活をイメージしよう」
乳児の保護者	
宇都宮	みんなであそぼ 子どもと年中行事 他
鹿沼	子育てサロン
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
市貝	各研修会 例: 子どもの健康と食事
芳賀	ランチ&カフェタイム交流会
壬生	月齢に応じた、生活リズムの話
小山	認定こども園での出前講座

栃木	親と子の関わり、子育ての不安や悩み、生活習慣や生活リズム、健康と運動、食育、しつけや学び、人や社会との関わり、人権、地域に根ざした子育て、就学・進学、思春期、情報社会のルールやモラルの学び
さくら	絵本の読み聞かせ、普通救命講習、熱中症への対応
塩谷	ブックスタート
高根沢	親子で楽しむふれあい交流会
那珂川	男女共同参画講演会
那須	4 か月児健康診断に合わせて、親同士の交流や那須っ子子育て 9 ヶ条の普及啓発
幼児の保護者	
宇都宮	小学校入学に向けて 子育てのホンネ 他
上三川	親と子どもとの関わり方について
鹿沼	親の愛情や子どもの発達に応じたしつけのあり方
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
益子	家庭教育学級、幼児教室モンテッチ
市貝	各研修会 例：子どもの健康と食事
真岡	家庭教育学級、2 2 学級、合同人権研修、合同閉講式（講演会）
芳賀	創作活動、レクリエーション、鑑賞会等
壬生	親子の体験活動 等
小山	就学時健診、認定こども園を会場にした親学習プログラム
栃木	親と子の関わり、子育ての不安や悩み、生活習慣や生活リズム、健康と運動、食育、しつけや学び、人や社会との関わり、人権、地域に根ざした子育て、就学・進学、思春期、情報社会のルールやモラルの学び
矢板	家庭教育にこにこセミナー（親子でレクリエーション・語りべ・小学校のお悩み Q&A）
さくら	絵本の読み聞かせ、普通救命講習、メディアと健康
塩谷	しつけの話・親子ふれあい活動
高根沢	親子で楽しむふれあい交流会、親学習プログラム
那珂川	男女共同参画講演会
那須	就学児健診の時の親学習プログラム
小学生の保護者	
宇都宮	子育て新時代 生活リズム向上宣言 他
上三川	親と子どもとの関わり方について
鹿沼	子どもの基本的な生活習慣を育て、自己肯定感を高める家庭のあり方
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
市貝	各研修会 例：子どもの健康と食事
真岡	家庭教育学級、1 8 学級、合同人権研修、合同閉講式（講演会）
芳賀	親子料理教室、スポーツ体験、昔遊び等
壬生	ワールドカフェ形式での保護者交流会 等
野木	家庭教育学級
栃木	親と子の関わり、子育ての不安や悩み、生活習慣や生活リズム、健康と運動、食育、しつけや学び、人や社会との関わり、人権、地域に根ざした子育て、就学・進学、思春期、情報社会のルールやモラルの学び
小山	家庭教育学級
下野	年齢に応じた子どもとの関わり方 等
矢板	就学時健診時の子育て学習、家庭教育にこにこセミナー（親子でレクリエーション・語りべ・小学校のお悩み Q&A）
さくら	生活習慣、子どもとの関わり方
塩谷	しつけの話、親子ふれあい活動
高根沢	親学習プログラム
那珂川	男女共同参画講演会
那須	親学習プログラム出前講座
那須塩原	就学時健康診断
佐野	楽しい小学校生活のために 等

中学生の保護者	
宇都宮	思春期の子育て 親の笑顔は子の笑顔 他
鹿沼	子どもの基本的な生活習慣を育て、自己肯定感を高める家庭のあり方
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
市貝	各研修会 例：子どもの健康と食事
真岡	思春期子育て講座、9校、思春期に関する講演会
芳賀	調理体験、子育て講話、学習支援講話等
壬生	思春期の子をもつ保護者を対象とした講座
野木	家庭教育
栃木	親と子の関わり、子育ての不安や悩み、生活習慣や生活リズム、健康と運動、食育、しつけや学び、人や社会との関わり、人権、地域に根ざした子育て、就学・進学、思春期、情報社会のルールやモラルの学び
下野	年齢に応じた子どもとの関わり方 等
さくら	メディアとの付き合い方
塩谷	しつけの話・親子ふれあい活動
那珂川	男女共同参画講演会
高校生の保護者	
宇都宮	地域の伝統文化 スマホ・ケータイ安全教室 他
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
市貝	各研修会 例：子どもの健康と食事
芳賀	人権、PTA 活動、家庭教育、生涯学習等の講演会
栃木	親と子の関わり、子育ての不安や悩み、生活習慣や生活リズム、健康と運動、食育、しつけや学び、人や社会との関わり、人権、地域に根ざした子育て、就学・進学、思春期、情報社会のルールやモラルの学び
那珂川	男女共同参画講演会
一般	
宇都宮	キレイは簡単 乳酸菌パワーのなぞ 他
鹿沼	子どもの基本的な生活習慣を育て、自己肯定感を高める家庭のあり方
日光	夢を持つことの尊さ/子どもに対する読み聞かせ法
市貝	各研修会 例：子どもの健康と食事
芳賀	人権、PTA 活動、家庭教育、生涯学習等の講演会
壬生	父親を対象とした子育て講座
塩谷	家庭教育一般についての講演会など
那珂川	男女共同参画講演会
佐野	講演会
足利	各地域の実施委員会で協議決定

イ 保護者への相談機会の提供について

図12 相談機会の提供状況 (N=25)

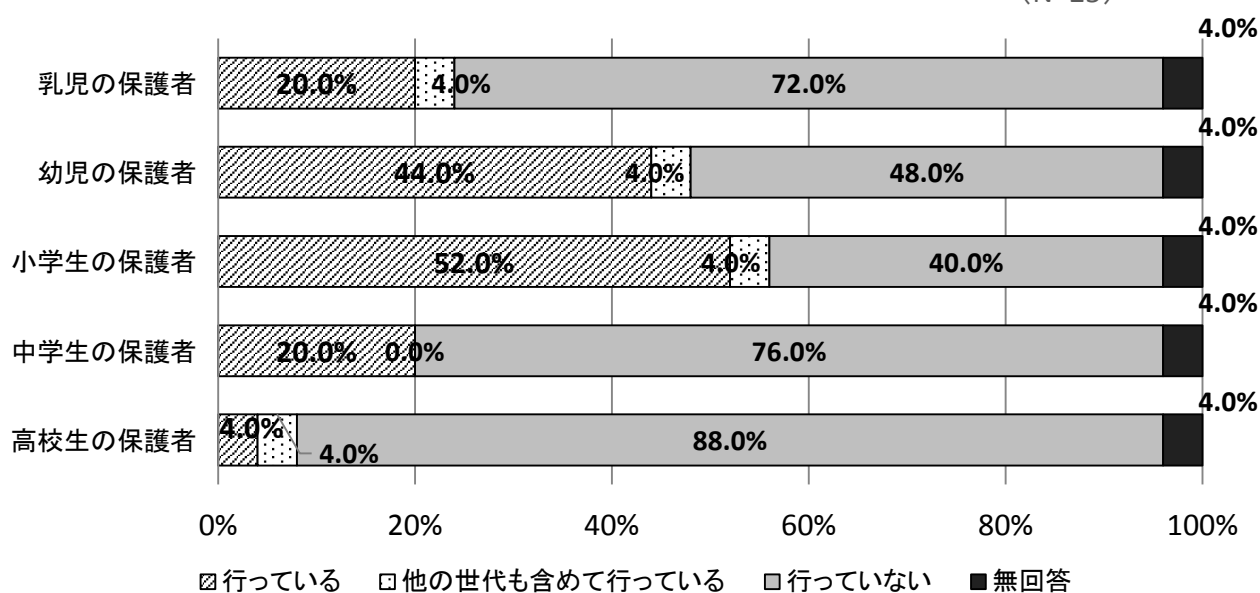


「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、どの世代の保護者に対しても30.0%前後である【図12】。

ウ 親子の体験活動の提供について

図13-1 子どもの年代別親子の体験活動機会の提供状況

(N=25)



「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、幼児と小学生の親子を中心に提供されている。高校生の親子に対しては、最も少なく、8.0%だった。【図13-1】

実施している内容やテーマについては、【資料11】のとおりである。

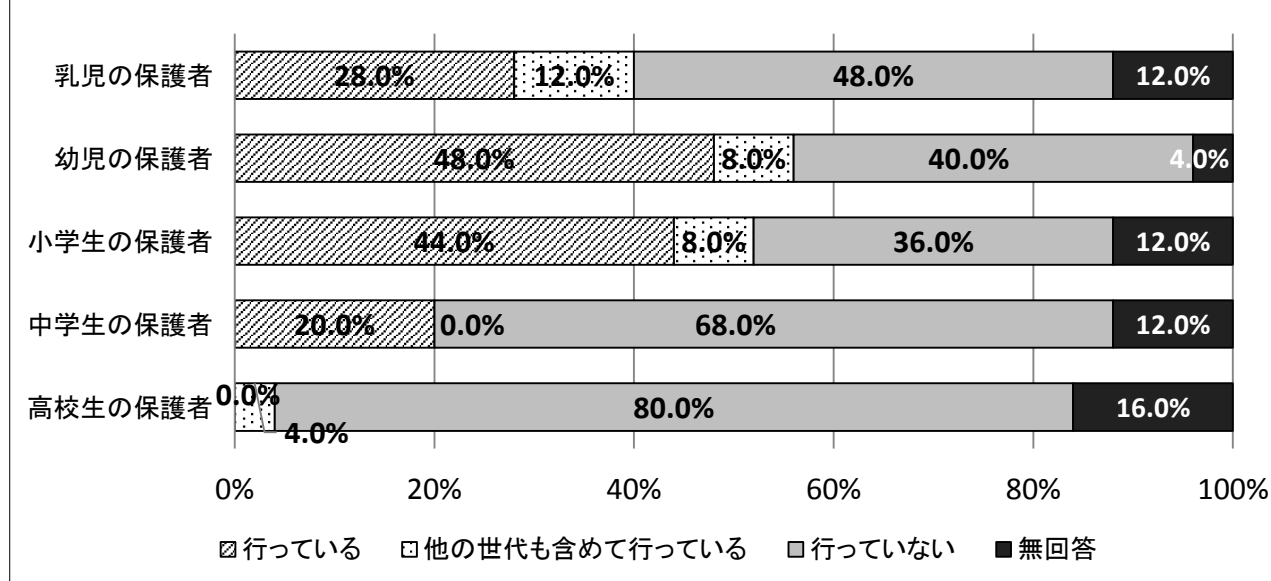
【資料 11】子どもの年代別親子の体験機会の提供状況（主な記述内容、年代別、順不同）

乳児の保護者	
市町名	実施している内容やテーマ
宇都宮	みんなであそぼ 他
市貝	各家庭教育学級でのレクリエーション等
壬生	エアロビクス、読み聞かせ等
さくら	親子リトミック、プールエクササイズ、どろんこ遊び、わらべうたと読み聞かせ、くだもの狩り
塩谷	ブックスタート
那珂川	幼児教育学級
幼児の保護者	
宇都宮	子どもと年中行事 他
市貝	各家庭教育学級でのレクリエーション等
真岡	子育て学級 年 12 回、ヒップホップダンス、読み聞かせ、食育、ミニ運動会、りんご狩り、いもほり、もちつき、3 B 体操、閉講式（工作）
芳賀	親子クッキング、親子工作
茂木	親子体操教室
壬生	七夕飾り作り等
栃木	スペシャルサイエンススクール
矢板	親子で那須高原の自然と遊ぼう、家庭教育にこにこセミナー（親子でレクリエーション）
さくら	親子リトミック、プールエクササイズ、どろんこ遊び、わらべうたと読み聞かせ、くだもの狩り
塩谷	工作・調理など
那珂川	幼児教育学級
那須	親子でクラフトの体験
小学生の保護者	
宇都宮	ガス管で万華鏡を作ろう 他
市貝	各家庭教育学級でのレクリエーション等
真岡	親子レクリエーション
茂木	親子体操教室
芳賀	親子料理教室、ニュースポーツ体験
壬生	料理教室、エアロビクス体験
野木	料理等
栃木	サイエンススクール、スペシャルサイエンススクール
矢板	親子で那須高原の自然と遊ぼう、家庭教育にこにこセミナー（親子でレクリエーション）
塩谷	工作・調理など
高根沢	親子お弁当教室等の講座や教室の開催
那珂川	家庭教育学級
那須	親子でクラフトの体験
中学生の保護者	
宇都宮	燃料電池って何だろう 他
市貝	各家庭教育学級でのレクリエーション等
芳賀	調理体験
塩谷	スポーツなど
那珂川	家庭教育学級
高校生の保護者	
宇都宮	花を通して優しい心を育てよう 他
市貝	各家庭教育学級でのレクリエーション等

エ 保護者同士の交流機会の提供について

図13-2 子どもの年代別保護者同士の交流機会の提供状況

(N=25)



「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、幼児と小学生の保護者同士の交流機会が約5割提供されている。高校生の保護者同士の交流については、他の世代も含めて行っているところが、1市町あった。【図13-2】

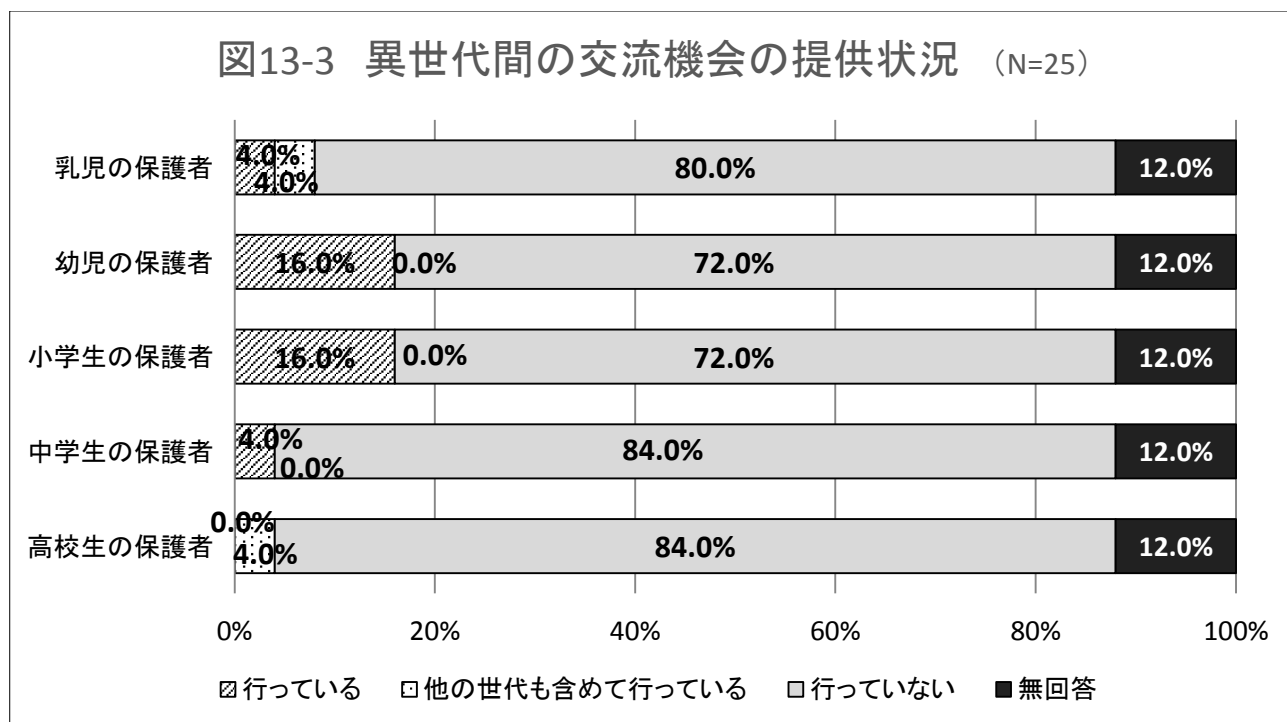
実施している内容やテーマについては、【資料12】のとおりである。

【資料12】子どもの年代別保護者同士の交流機会の提供状況（主な記述内容、年代別、順不同）

乳児の保護者	
市町名	実施している内容やテーマ
宇都宮	子育てのホンネ 他
日光	保護者のための井戸端会議
芳賀	ランチ&カフェタイム交流会
小山、那珂川	親学習プログラムの実施
さくら	エンゼル講座での交流
塩谷	お話会など
高根沢	親子で楽しむふれあい交流会
幼児の保護者	
宇都宮	ほめほめシャワーで子育て 他
鹿沼、小山、那珂川	親学習プログラムの実施
日光	保護者のための井戸端会議
真岡、那須	就学時前健康診断時の親学習プログラムの実施
芳賀	親子園外保育、まつり、クリーンタイム
栃木	就学時健診時の家庭教育学級
矢板	家庭教育にこにこセミナー（小学校のお悩みQ&A）
さくら	エンゼル講座での交流・親子応援講座でのおしゃべり会
高根沢	親子で楽しむふれあい交流会、親学習プログラム
小学生の保護者	
宇都宮	コミュニケーションのコツ 他
日光	保護者のための井戸端会議
芳賀	親子給食、ニューススポーツ体験

壬生	ワールドカフェ形式での保護者交流会
小山、塩谷、高根沢、那珂川、那須	親学習プログラムの実施や出前講座
矢板	家庭教育にこにこセミナー（小学校のお悩み Q&A）
さくら	親子応援講座でのおしゃべり会
中学生の保護者	
宇都宮	話し合ってみようみんなの子育て 他
日光	保護者のための井戸端会議

オ 異世代間の交流機会の提供について



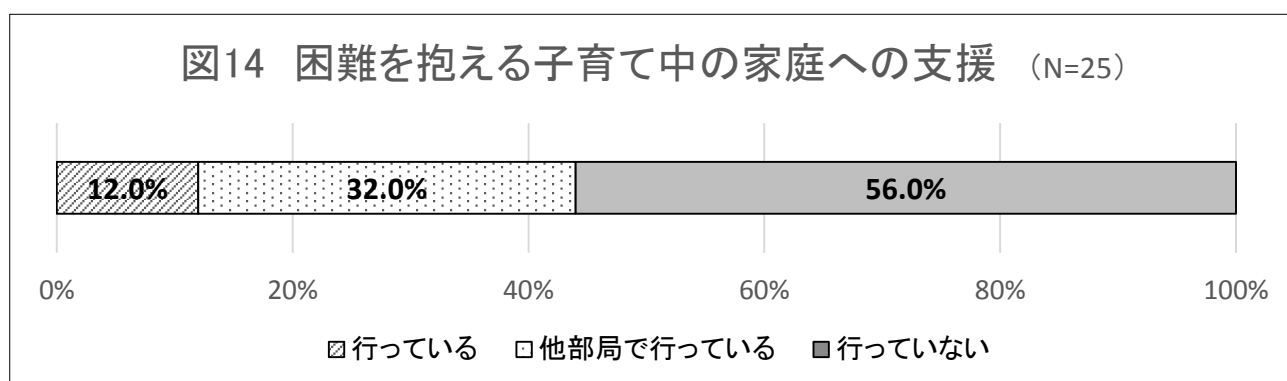
異世代間の交流機会は、幼児と小学生の保護者対象を中心に行われていて、「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて16.0%である。【図13-3】

実施している内容やテーマについては、【資料13】のとおりである。

【資料13】異世代間の交流機会の提供状況（主な記述内容、年代別、順不同）

乳児の保護者	
市町名	実施している内容やテーマ
さくら	調理実習
幼児の保護者	
芳賀	ミニ運動会・お遊戯会
さくら	調理実習
高根沢	親学習プログラム
小学生の保護者	
芳賀	昔遊び
塩谷	ウィークエンドサークル活動
高根沢	親学習プログラム

(4) 生涯学習課として困難を抱える子育て中の家庭（貧困、障害、外国人など）に行っている事業について



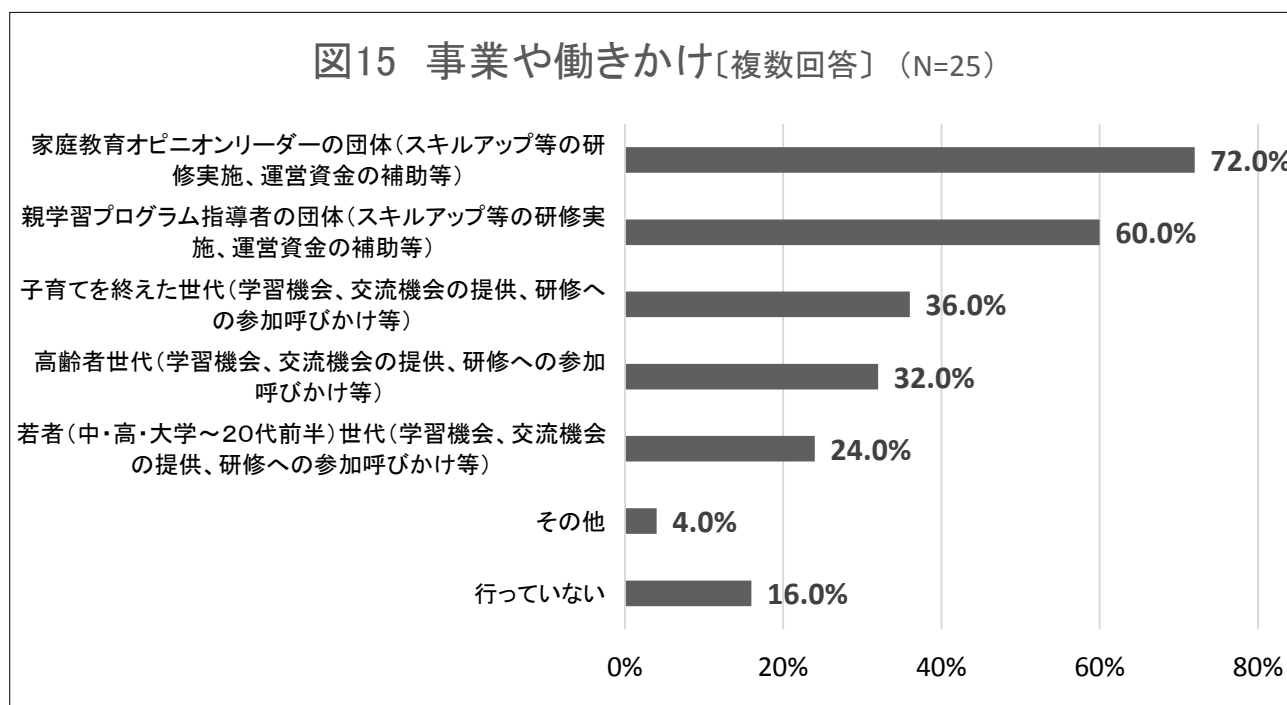
生涯学習課として「行っている」、は 12.0%であり、「他部局で行っている」は、32.0%で少なかった。【図 14】

実施している具体的な内容については、【資料 14】のとおりである。

【資料 14】行っている具体的な内容

- ・ 地域未来塾（中学生向けの学習支援を夏休み中に実施）（鹿沼）
- ・ 福祉部局で相談事業、学校部局で学習支援を行っている。（芳賀）
- ・ 市内全ての中学生を対象に「学びの教室」事業を行っている。（小山）
- ・ 障がいのあるお子さんをもつ親が、カウンセラーや自立支援施設職員と面談をする「ひだまりふあんの会」。（さくら）

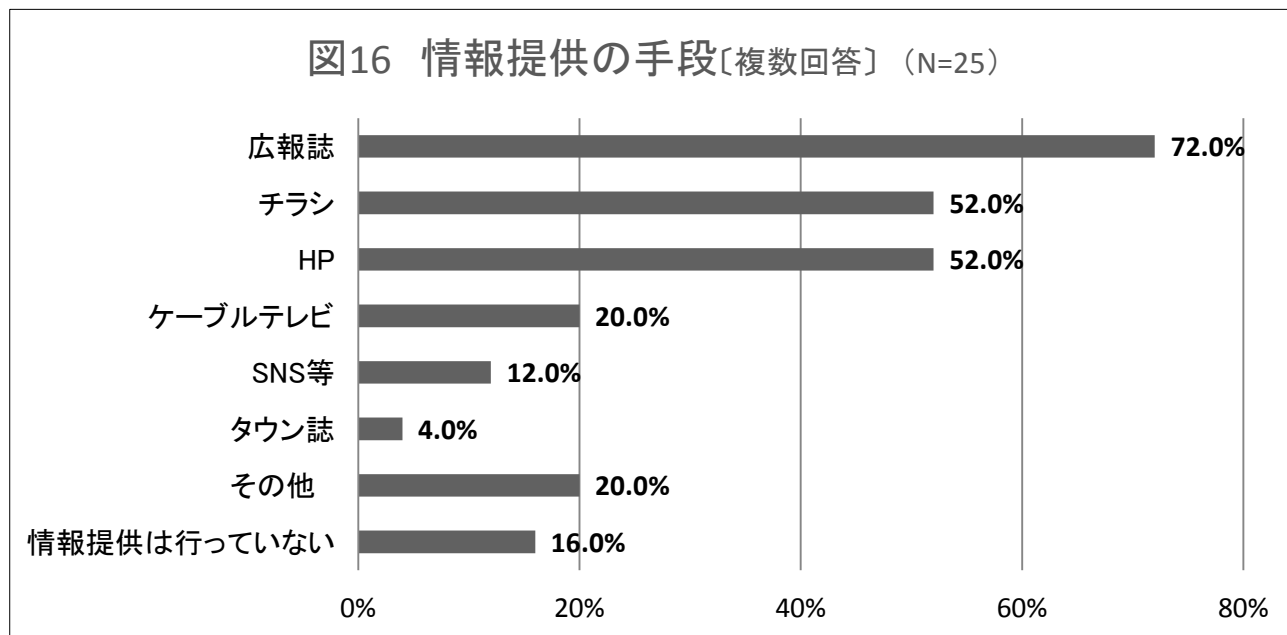
(5) 世代別、団体別の家庭教育支援に関する事業や働きかけについて



家庭教育オピニオンリーダーの支部と親学習プログラム指導者の団体への働きかけが多い。一方で、「行っていない」という回答は 16.0%あった。【図 15】

その他の記述は 1 件で、「未就学児の保護者・小学生の保護者を対象に親学習出前講座を実施」であった。

(6) 住民への家庭教育支援に関する情報提供の手段について



広報誌が最も多く 72.0%の市町で行われており、チラシや HP が2 番目に多い手段であった。また、情報提供は行っていないとする市町が 16.0%あることがわかった。【図 16】

【資料 15】 その他

- ・ 家庭の教育手帳 情報誌（こどもるっくる）（宇都宮） ・ 家庭教育通信（足利）
- ・ 各幼稚園、保育園、小、中学校で家庭教育学級を開設し、そこへ通知（茂木）
- ・ コミュニティFM「FMくらら」（栃木） ・ 学校が保護者へチラシを配布（下野）

(7) 特色ある家庭教育支援事業について

各市町の特色ある取組事業について、記述してもらった。これまでに上がっていた内容と重複しているものもある。記述については、【資料 16】のとおりである。

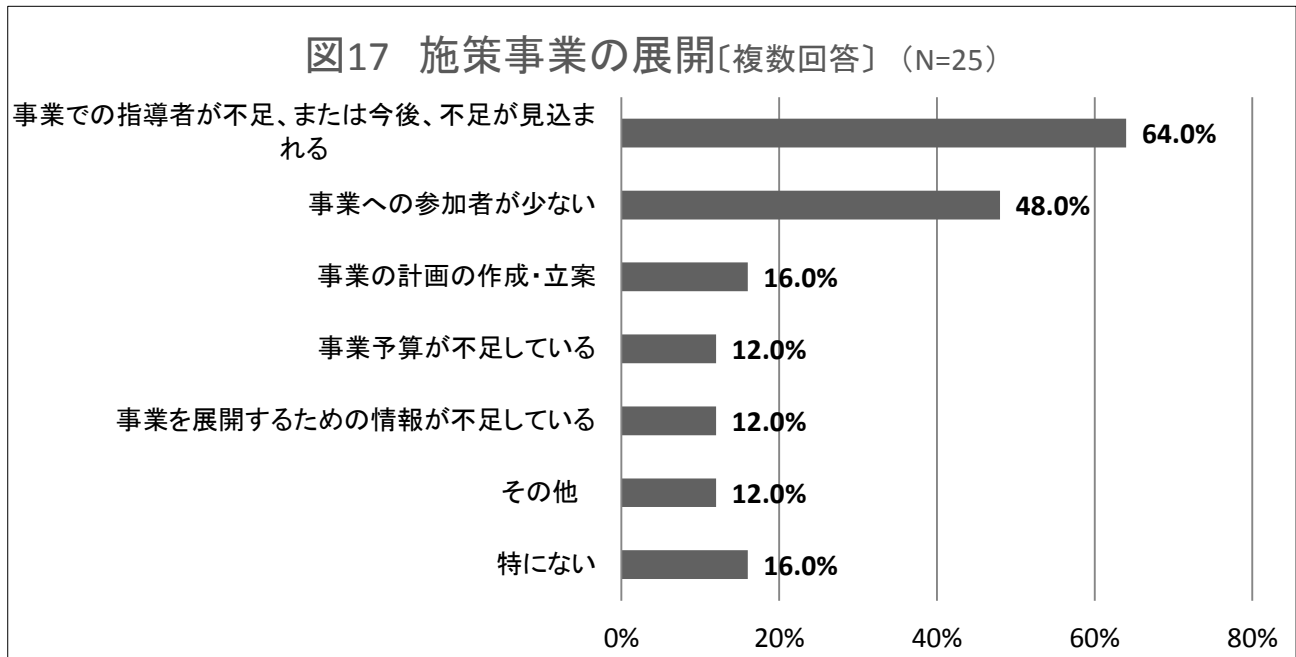
【資料 16】 特色ある家庭教育支援事業の記述一覧（順不同）

- ・ うつのみや版親学出前講座（プログラム数 57 のうち、企業連携プログラム数 23）、家庭の教育手帳・情報誌（こどもるっくる）の発行、家庭教育サポーターの活動支援（宇都宮）
- ・ 親学習出前講座（上三川）
- ・ 市内全小中学校で家庭教育学級を展開しているが、学級運営をするリーダー育成として、子育てゼミナールとリーダー研修会を年 1 回ずつ実施（鹿沼）
- ・ 生涯学習振興大会（市貝）
- ・ 壬生町家庭教育支援チームが企画・運営している多種多様な子育て・親育ち講座（壬生）
- ・ 家庭教育学級（ハッピー子育て講座）（栃木）
- ・ 就学時健康診断時に保護者の空き時間を利用して子育て学習を実施（矢板）
- ・ 「家庭のふれあい」をテーマに家庭教育支援チームやオピニオンリーダーなどの市民ボランティアとの協働により、親子で楽しめる体験を提供する事業「家族フェスタ」の実施、市内の教育施設、医療機関、相談機関など子育てに関係する情報をまとめた「子育てMAP」の作成と配付（さくら）
- ・ 『親子で楽習』：親子のふれあいや体験・交流をめざして実施（塩谷）
- ・ オピニオンリーダーが主催で開催している「親子で楽しむふれあい交流会（年 4 回：たなばた、ちびっ子オリンピック、楽しいクリスマス、節分）」、町内全小学校の就学時健康診断時に親学習プログラムを実施（高根沢）

- ・健康増進課が主催する「母親学級（妊娠中の保護者が対象）」での親学習の実施（パートナーを含む）。（那須塩原）
- ・こどもの国で、家庭教育支援チームによる相談活動を実施（佐野）
- ・毎年5地域ずつローテーションで家庭教育懇談会を実施（足利）

(8) 家庭教育支援に関する施策や事業所との連携について

ア 施策を展開する上での課題について



「事業での指導者が不足、または今後、不足が見込まれる」という項目が最も多く 64.0%だった。「事業への参加者が少ない」という項目が 48.0%で 2 番目だった。【図 17】

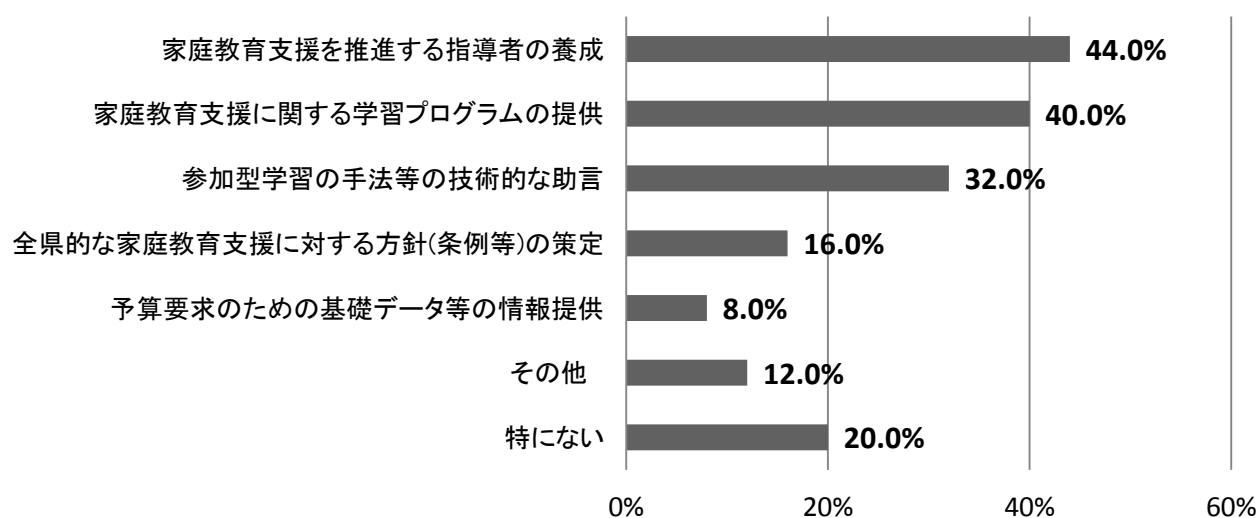
【資料 17】その他

- ・保護者の家庭教育に対する関心の低さ
- ・保育所において保護者が一度に集まる機会が無い。外国籍の保護者が増えてきている。
- ・ボランティア・サポーターの不足

イ 施策の立案や実施に際しての必要な県の支援について

図18 施策の立案や実施に必要な県の支援

〔複数回答〕（N=25）



最も多かったのが、「家庭教育支援を推進する指導者の養成」であり、次いで、「家庭教育支援に関する学習プログラムの提供」となり共に4割を超えていた。3番目には、「参加型学習の手法等の技術的な助言」が32.0%であった。【図18】

【資料18】その他

- ・ 講師の情報提供 ・ 補助金等の創設
- ・ 県主催研修へ参加する市民への交通費支給、近隣会場での研修開催、外国籍の保護者への対応例

ウ 施策を展開する中で、企業・事務所等と連携した取組について

(ア) 連携の状況について

【表4】企業・事務所等との連携の状況

連携状況	回答数
行っている	6
行っていない	19

「行っている」という回答をしたのは、6市町だった。「行っていない」というところは、19市町だった。【表4】

(イ) 連携の内容について

【表 5】企業・事業所等との連携の内容（複数回答）

内容	回答数
企業・事業所等での学習機会の実施（行政側からの講師の派遣等）	6
行政が主催する学習機会の場で専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣	6
企業・事業所等の専門性を生かした市民への相談機会の実施	1
企業・事業所等を会場とした家庭教育支援のための見学会の実施	1
企業・事業所等での相談機会の実施	0
その他	0

ウ(ア)で「連携を行っている」と回答した6市町に、その内容を尋ねたところ、【表5】のような結果であった。

(ウ) 連携しない理由について

【表 6】企業・事業所等との連携しない理由（複数回答）

理由	回答数
必要性は感じているが連携のためのきっかけがないため	10
必要性は感じているが連携のための情報が不足しているため	8
必要性は感じているが企業・事業所等の協力を得ることが難しいため	5
必要性を感じていないため	3
必要性は感じているが予算がないため	0
その他	2

ウ(ア)で「連携を行っていない」と回答した19市町に対して理由を尋ねたところ、【表6】のような結果であった。

その他は2件あり、「職員が他業務と兼務しているため手が回らない」、「家庭教育支援事業を実施していないため」というものだった。

(エ) 連携したい取組について

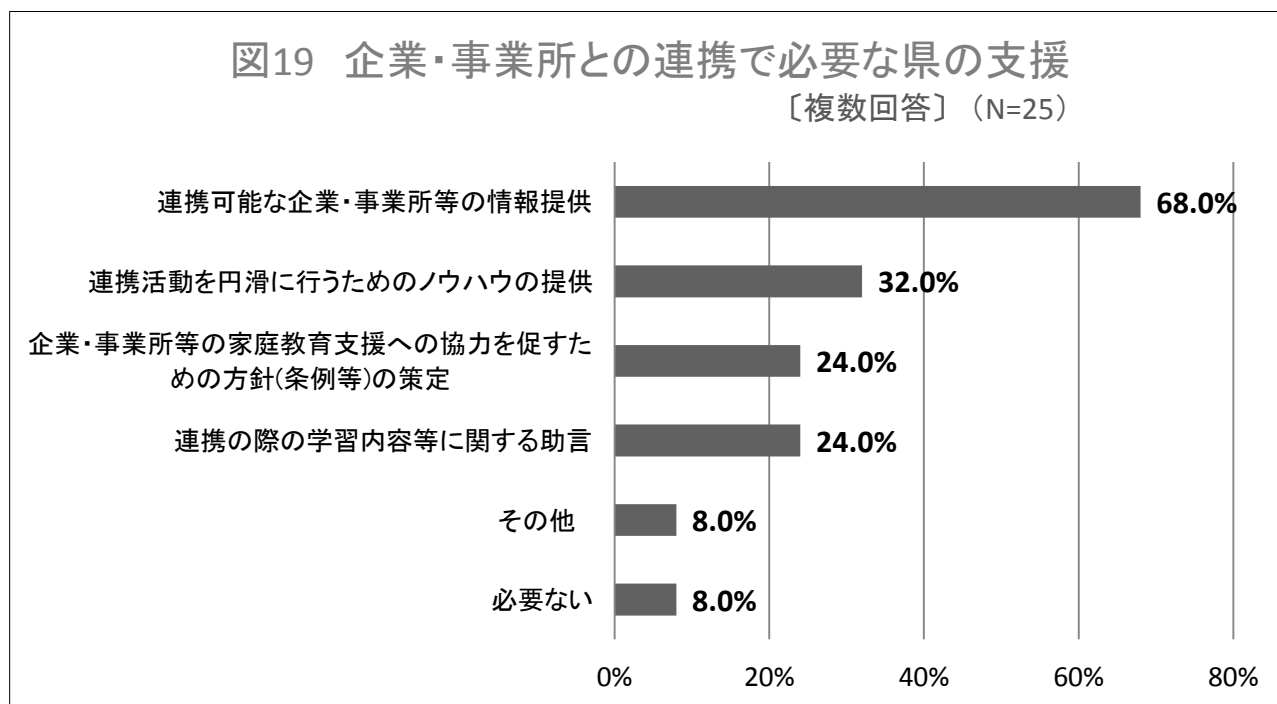
【表 7】企業・事業所等と連携したい取組（複数回答）

内容	回答数
行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣	9
企業・事業所等を会場とした、家庭教育支援のための見学会の実施	5
企業・事業所等での学習機会の実施（行政側からの講師の派遣等）	4
企業・事業所等の専門性を生かした、市民への相談機会の実施	3
企業・事業所等での相談機会の実施	1
その他	3

ウ(ア)で「連携を行っていない」と回答した 19 市町に対して、今後、企業・事業所と連携してみたい取組」について尋ねたところ、【表 7】のような結果であった。

その他は 3 件あり、「職員が他業務と兼務しているため手が回らない」、「必要性を感じていないので特になし」、「事業を実施していないため特になし」であった。

エ 企業・事業所等との連携に関して必要な県の支援について



「連携可能な企業・事業所等の情報提供」が最も多く 68.0%だった。【図 19】その他は 2 件だけで、「連携するための費用を全額負担すること」だった。

(9) 家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていること

家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていることを記述してもらった。記述については、【資料 19】のとおりである。

【資料 19】記述一覧（順不同）

- ・悩みや困難を抱える子育て中の家庭に、講座や子育て支援の情報を届けたい。
- ・働く保護者の増加に伴い、集客型の講座形式の事業には限界を感じている。
- ・企業・事業所等に家庭教育支援への協力を仰ぎ、企業・事業所等での学習及び相談機会の実施が理想であるとする。
- ・人格の基礎をつくる乳幼児期の保護者に対する家庭教育支援が重要であり、子育て支援部局との連携が必要と感じている。
- ・家庭教育学級（ハッピー子育て講座）や就学時健康診断時の家庭教育学級を開催するにあたり、家庭教育オピニオンリーダーに協力してもらっている。しかし、近年、家庭教育オピニオンリーダーや家庭教育支援団体のメンバーが年々高齢化し、新たな人材を確保するのが難しい現状にある。研修場所が宇都宮の総合教育センターなので、研修に参加したくても、遠方のため辞退する人がいる。主な理由は、高齢のため遠くまで車を運転して行ったり、電車とバスを乗り継いで行ったりするのが困難、または、小学生の子どもがいるため研修に参加すると、子どもの帰宅時間に帰れないため参加できない、というものである。先日、教育事務所で開催された、親学習プログラムフォローアップ研修では、近場だったので多くの参加者がいたように感じた。近場での研修の開催になると、より参加者も増えるのではないかと思った。
- ・家庭教育・子育ての在り方について必要な情報はすべてネットから得ることができる。また、ネットを通じて、保護者同士のつながりもできているため、保護者同士のやり取りで悩み相談もできている。そのため、本来必要な家庭教育の在り方について研修等で学ぼうとする保護者は見られなくなってきている。参加者は必要なものだけ得たいので、お楽しみ会的な内容の研修等にしか参加は見られない。人権教育の浸透により一人一人の異なった考え方が尊重され、いわゆる「世間の目」という言葉も消えつつある中、家庭教育支援の限界を日頃感じている。
- ・本市家庭教育支援事業はこども課（こども館）で実施しており、教育委員会では実施していない。ただし、県からの家庭教育に関する通知等は、教育事務所を通してこども館と併せて生涯学習課へも送付いただいております、その情報等は確認している。
- ・学校や保育機関等との連携は欠かせないと思う。
- ・家庭教育支援の指導者が高齢化してきているので、研修会を紹介して参加を勧めて、今後も後継者の育成を図っていきたい。

3 まとめ

ここでは、県内の 25 市町教育委員会生涯学習課等に対して家庭教育支援事業として行っていることについて質問した調査から明らかになったことをまとめる。

(1) 市町教育委員会生涯学習課等で行われている学習機会、相談機会の提供について

子どもの年代別の保護者への学習機会の提供については、「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、小学生の保護者を対象にした学習機会の提供が最も多く 9 割を超えていた。実施している内容やテーマについては、乳児の保護者へは「読み聞かせ」に関することが提供されている市町が数力所あった。また、幼児の保護者には「家庭教育学級」や「親学習プログラム」、「親子での活動」を提供している市町が数力所あった。小学生の保護者には「家庭教育学級」や「親学習プログラム」の提供をする市町が数力所あった。これらのことより、「親学習プログラム」は、市町の学習機会の中で活用されていることがわかった。【図 11】【資料 10】

家庭教育支援事業としての相談機会については、乳児から中学生の保護者で対象としたものがそれぞれ 3 割程度であった。【図 12】

(2) 家庭教育支援事業としての体験活動、交流活動の機会について

子どもの年代別親子の体験活動の機会の提供については、幼児と小学生の親子を対象にした提供が、いずれも 5 割程度だった。実施している内容やテーマについては、幼児の親子へは、「りんご狩り、いもほり、もちつき」などの季節を感じる行事等の内容が多く、小学生の親子へは、「科学」や「料理」、「体操などの体を動かすもの」などの内容が多くみられた。【図 13-1】【資料 11】

子どもの年代別保護者同士の交流機会の提供については、幼児と小学生の保護者同士の交流機会の提供が中心となっていて、5 割程度であることがわかった。実施している内容やテーマについては、どの世代でも「交流会」や「親学習プログラム」などであった。【図 13-2】【資料 12】

(3) 困難を抱える子育て中の家庭（貧困、障害、外国人など）への支援、団体等への働きかけについて

困難を抱える子育て中の家庭（貧困、障害、外国人など）への支援については、生涯学習課として「行っている」、「他部局で行っている」を合わせて 4 割だった。外国人保護者の増加等課題として意識されており、今後充実していく必要がある。実施している具体的な内容についての記述は少なかったが、さくら市の取組については後述のヒアリング調査で取り上げている。【図 14】【資料 14】

世代別、団体別の家庭教育支援に関する事業や働きかけについては、「家庭教育オピニオンリーダー」や「親学習プログラム指導者の団体」へのスキルアップ等の研修実施や運営資金の補助等が 6～7 割だった。これまでの市町での学習機会や体験機会の提供では「親学習プログラム」が行われており、これらの実施に係わる団体等に向けて多くの働きかけが市町で行われていることがわかった。

【図 15】

(4) 家庭教育支援に関する情報提供について

住民への家庭教育支援に関する情報提供については、広報誌が最も多く7割を超えていた。チラシやHPは5割、SNS等は1割程度であった。広報誌は以前から市町民が慣れ親しんでいるので、情報を伝える手段として最も活用されていることがわかった。一方で若い保護者への情報提供の方法については、ウェブサイトやSNS等の活用などについて積極的な検討が求められる。【図16】

(5) 特色ある家庭教育支援事業について

特色ある家庭教育支援事業に関する記述では、県内全ての市町の記述があるわけではないが、地域に即した取組が行われていることがわかった。那須塩原市の取組については、後述のヒアリング調査で取り上げている。【資料16】

(6) 家庭教育支援に関する施策の展開について

家庭教育支援に関する施策を展開する上での課題については、「事業での指導者が不足、または今後、不足が見込まれる」という項目が最も多く6割を超えていた。これまで述べたように、市町では、家庭教育オピニオンリーダーとの連携事業が行われたり「親学習プログラム」が活用されたりしているので、それらを行う指導者が不足、または今後の不足が見込まれるということは、これからの家庭教育支援事業への影響を考えると大きな問題であることがわかる。また、「事業への参加者が少ない」という項目は、5割弱だった。【図17】

施策の立案や実施に際して必要な県の支援については、「家庭教育支援を推進する指導者の養成」や「家庭教育支援に関する学習プログラムの提供」が4割を超えていた。次いで、「参加型学習の手法等の技術的な助言」が3割であった。【図18】

(7) 家庭教育支援に関する企業、事業所等との連携について

家庭教育支援に関する施策を展開する中で、企業や事業所等との連携した取組を行っているかどうかについては、「行っている」という回答をしたのは、6市町だった。19市町では、企業や事業所との連携は行われていないことがわかった。【表4】

「連携を行っている」と回答した6市町に、その内容を尋ねたところ、「企業・事業所等での学習機会の実施（行政側からの講師の派遣等）」と「行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣」は6市町全てで行われていた。【表5】

また、「連携を行っていない」と回答した市町に対して理由を尋ねたところ、「必要性は感じているが連携のためのきっかけがないため」が最も多く10市町だった。次いで、「必要性は感じているが、連携のための情報が不足している」が8市町だった。これらのことから、市町は企業や事務所との連携について関心はあり、実現させるための「きっかけ」や「情報」を求めていることがわかった。【表6】

さらに「連携を行っていない」と回答した19市町に「今後、企業・事業所と連携してみたい取組」について質問したところ、「行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣」が最も多く9市町だった。他は、「企業・事業所等を会場とした、家庭教育支援のための見学会の実施」、「企業・事業所等での学習機会の実施（行政側からの講師の派遣等）」と続いた。【表7】

企業や事業所等との連携に関して、必要な県の支援については、「連携可能な企業・事業所等の情報提供」が最も多く6割を超えていた。このことから、県として今後支援可能な企業、事業所の情報収集を行い、市町への情報提供を行っていくことが求められていることがわかった。【図 19】

(8) 自由記述について

家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていることについては、これまで出てきた内容と重複するものもあるが、「届けたい人に必要な情報を届けたい」、「集客型の講座形式の事業への限界」、「他部局や学校、保健機関等との連携の必要性」など課題があることがわかった。これらを受け、工夫している市町にヒアリング調査を行った。第5章に後述する。

第4章 公民館における家庭教育支援事業に関する取組状況調査の結果

1 調査方法等

(1) 調査対象

県内の190の市町公民館等

(2) 調査内容

各公民館等（市民センター等名称は異なるが、住民に学習機会を提供する機関も含むため、公民館等と表記する。以下同じ）が中心となって実施している平成29年度の家庭教育支援事業（今後、実施予定分も含む）について、次の内容を回答してもらった。

学習機会の提供の有無、相談機会の提供の有無、親子の体験の有無、保護者同士や異世代間の交流機会の提供の有無、などである。

(3) 調査方法

ア 調査票の配布等

対象者	対象者数	回答数	回答率（％）
公民館等	190	107	56.3

イ 調査期間

平成29年9月～平成29年10月

(4) 集計の表現について

回答率（各回答の百分率比）は少数第2位を四捨五入した。単数回答の百分率の合計は100%であるが、四捨五入のために合計が見かけ上100%にならないことがある。

2 結果

(1) 家庭教育担当者数

【表8】

担当者数	0	1	2	3	無回答
市町数	5	74	22	3	3

担当者が1人でやっているところがほとんどであった。また、公民館等によっては、家庭教育を担当していない所もあり、担当者なしという回答だった。

(2) 家庭教育支援関係事業予算

【表9】

金額 (千円)	0	1～50	51～ 100	101～ 150	151～ 200	201～ 250	251～ 300	301～ 350	351～	無回答
市町数	13	16	28	11	6	10	6	2	9	6

ここで回答してもらった予算とは、公民館の家庭教育支援事業に関する予算の総額になる。市町によっては、それぞれの公民館に予算を配分するのではなく、市町として同じ事業をそれぞれの公民館を会場に行っていることもあるので、無回答や0と回答している。

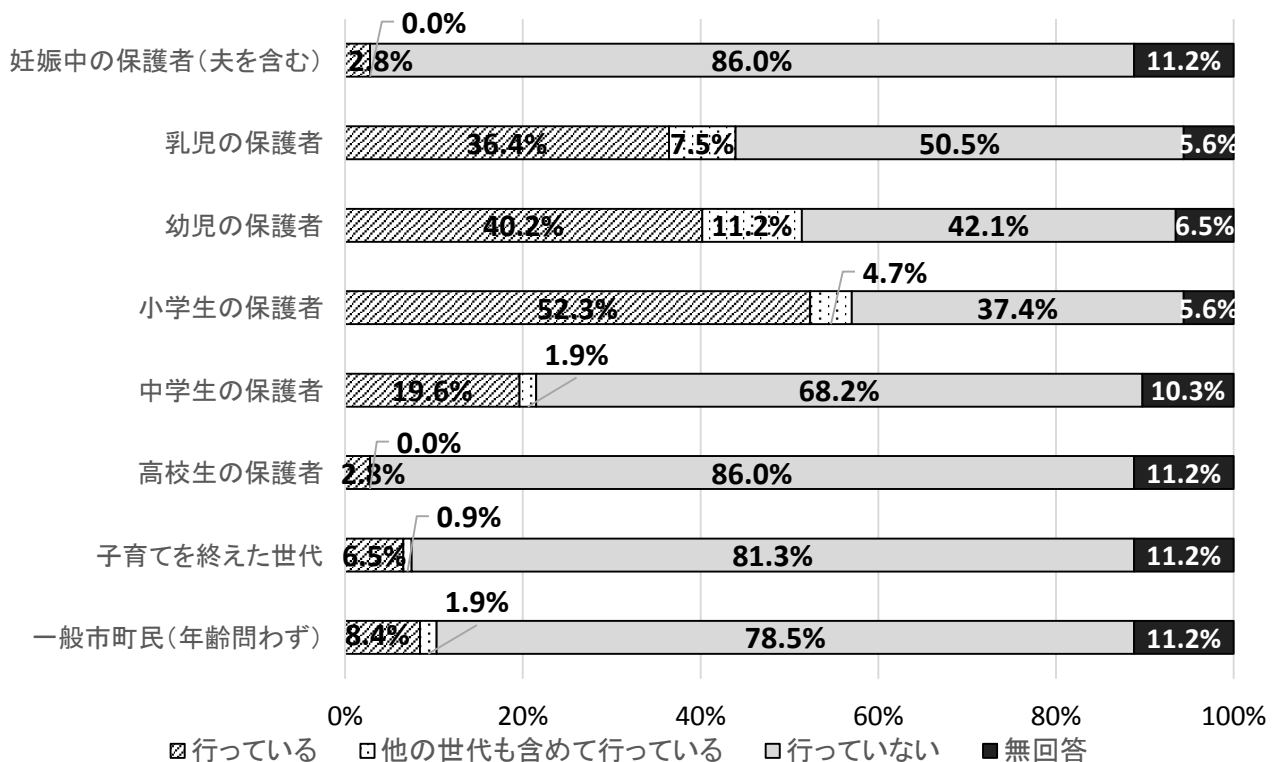
予算は、5万1千～10万円が最も多かった。35万1千円以上の予算があるのは9館で、その

うち 100 万円を超えるところが3館あった。いずれも、それぞれの市町の中央館等や分館全ての合算なので、その市町全域をカバーしていると考えられる。

(3) 公民館での家庭教育支援事業について

(ア) 学習機会の提供について

図20 子どもの年代別保護者の学習機会の提供状況 (N=107)



「行っている」、「他の世代も含めて行っている」というものを合わせると、小学生の保護者が最も高く 57.0%、次いで幼児の保護者が 51.4%、乳児の保護者が 43.9% の順で学習機会が提供されている。一方で中学生の保護者へは 21.5%、高校生の保護者と妊娠中の保護者(夫を含む)へは 2.8% で学習機会の提供は他の世代に比べて、非常に少ない。【図 20】

記述については、【資料 20】のとおりである。

【資料20】公民館等での子どもの年代別保護者の学習機会の提供状況（内容、テーマ等）

※回数については、記載のまま、敬称は略

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
妊娠中の保護者（夫を含む）				
宇都宮	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市 保育士・保健師、子育てサロン中央 アッ プルハウス指導員：後藤亜希
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
高根沢	高根沢	おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
		子育て広場	年8回	ママサポーターメンバー
		ファーストサイン教室・ベビースキンケア教室	1回	
乳児の保護者				
宇都宮	中央	子育て広場	1回	キッズ・ベビーダンス認定インストラク ターの南野弘子先生 他11名
	東	すくすく子育て講座、親子のスキンシップを 深めるとともに、親子同士の交流を図る。内 容はリトミック、コンサート、フィットネス	6回	
	西	音楽体操リトミック	1回	河合音楽教室講師
		季節の遊び	1回	市保健師
		子育て相談	1回	市保健師と保育士
		親学出前講座と企業連携講座	1回	市酪農協会
		親子3B体操	1回	3B協会指導者
		人形劇	1回	おはなしキャラバンつぼみ座
		リトミック	1回	リトミック研究センター公認講師
	南	すくすく子育て応援講座（前期）	1回	
	北	新家族応援講座	2回	小学校教師、大学教授
	平石	親子の広場はぐはぐ	毎週火曜 日と月1 回の特別 講座）	
		親子ふれあい講座	3回	
	清原	ふれあい子育て広場（タッチケア、リトミッ ク）	各1回	助産師、専門講師
	横川	絵本の読み聞かせと絵本の選び方	1回	宇都宮子どもの本連絡会：小川範子先生
	豊郷	子育て広場	6回	
		親育ち講座	3回	
		イクメン応援講座	2回	
		親子ワクワク教室（ふれあい遊び、季節の行 事、リトミックとリズム遊び、保健師講話）	1回	富屋地区市民センターの保育士・保健師、 ピアノ講師川村聡子先生
	城山	ともそだち広場	1回	講師：家庭教育オピニオンリーダー会、保 健師、保健師、つぼみ座、育児奏団の演奏
	富屋	ママたち広場	1回	保育士等
	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市 保育士・保健師、子育てサロン中央 アッ プルハウス指導員：後藤亜希
	姿川	親子ふれあい広場・乳児編、（乳歯のお手入 れ、親子スキンタッチ、ベビーダンス）	前期3回 ・ 後期3回	歯科衛生士、栃木県鍼灸師会、インストラ クター
	雀宮	親子ふれあい広場	6回	家庭教育オピニオンリーダー会
		ちゅんちゅんママパパにこにこ学級(親子でス トレッチ、わが子の成長の記録の写真的撮り 方をプロから学ぶ、アロマオイルで化粧水＆ 乳液作り)	2回	サトーカメラ福田紗代子先生、アロマセラ ピスト本田直子先生

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
宇都宮	上河内	子育て親育ち講座（就学前の乳幼児と保護者対象）（1.親子でズンバ⇒フィットネスクラブインストラクターによる親子でズンバ体操をする2.親子でヨガ⇒NPO国際ヨガ協会講師によるヨガ3.子育て井戸端会議⇒保育士、保健師、元保育園長によるグループ会話、交流4.体を動かそう⇒保育園より保育士にきてもらいバルーンやゲーム5.親子でフィットネス⇒フィットネスインストラクターによる親子で行う運動6.音楽教室の講師によるリズム体操、ピアノ演奏）※各回、子育て相談員1名配置し随時相談を受ける、保健師による食育や子どもの発達についての講演	6回	フィットネスクラブインストラクター、NPO国際ヨガ協会講師、保育士、保健師、元保育園長、保育園より保育士、音楽教室の講師
	河内	子育て広場、親子(乳幼児)でふれあいフィットネス、親子(乳幼児)で七夕まつり、クリスマス、親子(乳幼児)で楽しくバルーン遊び、親子(乳幼児)でビート体操、親子(乳幼児)でリトミック	1回	フィットネスインストラクターの先生、地域団体の皆さま、大学の先生方、エアロビック指導員、音楽の先生方
		ワクワク子育て講座、香りとアロマコラージュでリラックスし、優雅なひととき、お母さんのための絵本読み聞かせ、食育クッキング	1回	アロマコラージュ療法士、図書館出前講座を活用、家庭料理研究家
	中央	子どもを健やかにのびのびと育てるコツを学ぶ		
上三川	中央	子どもを健やかにのびのびと育てるコツを学ぶ		
鹿沼	東部台	親子ハートフルクラブ	年6回	東部台子育てはぐくみ隊
日光	日光	乳幼児保護者学級「わんぱく子育て塾」	1回	
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
壬生	壬生	「ふれあいサロン」および「すくすく広場」と称して親子ふれあいの場を提供	各月1回	家庭教育オピニオンリーダー
小山	中央	ママのためのほっとタイム（コトバとココロの使い方、ピラティス、スイーツ作り、スクラップブック作り）	年1回	
	寒川	子育て広場1（親子ふれあいリトミック、わくわくクリスマスリトミック、絵本を楽しもう、作品づくりをしよう、お楽しみ会、ラフターヨガ、夏・冬の健康）	—	
		絵本でこんにちは1	—	社会教育指導員
	穂積	リトミック	2回	
栃木	寺尾	ふれあいのつどい	年1回	栃木市健康増進課主催、母子保健推進員が実施
	岩舟	ベビー&ママヨガ教室	1回	家庭教育オピニオンリーダー「かるがも岩舟」
下野	国分寺	孫育て講座	5回	ファシリテーター、日本赤十字社、市保健師
	南河内東公民館	ファーストサイン入門	1回、5コマ	ロイヤルセラピスト協会認定講師
烏山	こども館	子育て親育ち講座、市内の保育園に保護者を対象とした講座の実施依頼をしている		
塩谷	生涯学習センター	親子ふれあい		
高根沢	高根沢	おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
		子育て広場	年8回	ママサポーターメンバー
		ファーストサイン教室・ベビースキンケア教室	月1回	
那須塩原	稲村	子育て講演会	2回	那須塩原市 管理栄養士 馬場侑里先生・宇都宮大学教授 大森玲子先生
	東那須野	食育講座	1回	よもぎの会
		風呂敷講座	1回	
		親子ストレッチ	1回	
		片付講座	1回	
		パステルアート	1回	

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
那須塩原	西那須野	子育てサロン（親子リトミック教室・8回、清水絵里子先生、パネルシアター、ミニコンサート、人形劇、絵本読み聞かせ・遠足 各1回、他）	全19回	
	ハロープラザ	大貫保育園家庭教育学級		
足利	織姫	パパママ育児セミナー（うたあそび、ベビビクス、救急救命講座、骨盤矯正、料理教室、チャイルドアート、リトミック、歌う海賊団ッ！コンサート、スクラップブックング、お別れ会）	1回	子育て支援センター職員、足利市中央消防署職員、(株)波里、足利チャイルドあーとクラブ、歌う海賊団ッ！
	助戸	乳幼児学級・テーマ「人権・教養（食育）、写真の撮り方、料理、ヨガ、リトミック等」	11回 (2クラス)	神永写真館、元パティシエ
	山辺	乳幼児学級「すこやか育児セミナー」工作・体操・英語・絵本・音楽会等	全8回	市内一般講師等
	三重	三重山前育児スマイルパーク・テーマ「七夕飾りづくり、ふれあい遊び、タイ式ヨガ、リズム体操等」	年13回	にし子育て支援センター職員、日本親子タッチケアインストラクター等
	山前	育児スマイルパーク・テーマ「健康教室、パルーンアートとパネルシアター、親子ダンス等」	全13回	歯科衛生士、紙ひこーき、リズム体操講師等
	北郷	乳幼児学級	1回	市内子育て支援センター保育士、メイクセラピスト、ダンス講師、(株)シトロン、おかむら小児歯科クリニック、足利チャイルドあーとくらぶ
	富田	すくすく育児セミナー 子育てサロン	7回 12回	市内講師等 民生・児童委員
	矢場川	子どもと学ぶ育児教室・テーマ「子ども社会の人権、読み聞かせ、リトミック、キャラ弁作り等」	年8回程度	子育て支援センター職員、市立図書館職員、音楽健康法講師、栄養士 等
	筑波	乳幼児学級「すくすくサロン」テーマ「楽しく遊んで、手形足形アート、歯磨きレッスン等」	8回	羽刈保育所職員、オフィスチーコ、歯科衛生士、地区主任児童委員等
	梁田	親子のびのびセミナー、テーマ「ふれあい遊び、親子うどんづくり、ネイルアート講座等」	年間10回	託児サークルえくぼ、栄養士・食育指導士、ネイルアート講師 等
	小俣	乳幼児学級、テーマ「ふれあい遊び、応急手当、片付け等」	全6回	オフィスチーコ、消防西分署職員、整理収納アドバイザー 等
幼児の保護者				
宇都宮	中央	子育て広場	1回	キッズ・ベビーダンス認定インストラクターの南野弘子先生 他11名
	東	すくすく子育て講座、親子のスキンシップを深めるとともに、親子同士の交流を図る。内容はリトミック、コンサート、フィットネス	6回	
	西	音楽体操リトミック	1回	河合音楽教室講師
		季節の遊び	1回	市保健師
		子育て相談	1回	市保健師と保育士
		親学出前講座、企業連携講座	1回	市酪農協会
		親子3B体操	1回	3B協会指導者
		人形劇	1回	おはなしキャラバンつぼみ座
		リトミック	1回	リトミック研究センター公認講師
	南	すくすく子育て応援講座（後期）	1回	
		アンガーマネジメント（未就学児ママ）	1回	
	北	新家族応援講座	2回	小学校教師、大学教授
		親子自然探検隊	1回	グリーントラストボランティア等
		親子でチャレンジ	1回	大学教授、民芸作家
	平石	親子の広場はぐはぐ		
	清原	ふれあい子育て広場（親子リトミック、親子ヨガ、親子リズム体操）	各1回(ヨガは3日間)	リトミックとヨガ専門講師、保育士

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
宇都宮	横川	わらべうたによる手遊び、うたあそびなど、3日体操、サッカー教室、バルーン・健康相談、	1回	宇都宮子どもの本連絡会：瀬下静子先生
	豊郷	子育て広場	6回	
		親育ち講座	3回	
		イクメン応援講座	2回	
	国本	親子ワクワク教室（ふれあい遊び、季節の行事、リトミックとリズム遊び、保健師講話）	1回	富屋地区市民センターの保育士・保健師、ピアノ講師川村聡子先生
	富屋	ママたち広場	1回	保育士等
	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市保育士・保健師、子育てサロン中央 アップルハウス指導員：後藤亜希
	姿川	親子ふれあい広場・幼児編（イヤイヤ期とうまく付き合うコツ、親子でズンバ）	前期2回 ・ 後期2回	臨床心理士、インストラクター
	雀宮	親子ふれあい広場	6回	家庭教育オピニオンリーダー会
		ちゅんちゅんママパパにこにこ学級（親子でストレッチ、わが子の成長の記録の写真の撮り方をプロから学ぶ、アロマオイルで化粧水＆乳液作り）	2回	サトーカメラ福田紗代子先生、アロマセラピスト本田直子先生
	上河内	子育て親育ち講座（就学前の乳幼児と保護者対象）（1.親子でズンバ⇒フィットネスクラブインストラクターによる親子でズンバ体操をする2.親子でヨガ⇒NPO国際ヨガ協会講師によるヨガ3.子育て井戸端会議⇒保育士、保健師、元保育園長によるグループ会話、交流4.体を動かそう⇒保育園より保育士にきてもらいバルーンやゲーム5.親子でフィットネス⇒フィットネスインストラクターによる親子で行う運動6.音楽教室の講師によるリズム体操、ピアノ演奏）※各回、子育て相談員1名配置し随時相談を受ける、保健師による食育や子どもの発達についての講演	6回	フィットネスクラブインストラクター、NPO国際ヨガ協会講師、保育士、保健師、元保育園長、保育園より保育士、音楽教室の講師
	河内	子育て広場、親子（乳幼児）でふれあいフィットネス、親子（乳幼児）で七夕まつり、クリスマス、親子（乳幼児）で楽しくバルーン遊び、親子（乳幼児）でビート体操、親子（乳幼児）でリトミック	1回	フィットネスインストラクターの先生、地域団体の皆さま、大学の先生方、エアロビック指導員、音楽の先生方
		ワクワク子育て講座、香りとアロマコラージュでリラックスし、優雅なひととき、お母さんのための絵本読み聞かせ、食育クッキング	1回	アロマコラージュ療法士、図書館出前講座を活用、家庭料理研究家
上三川	中央	親子で参加。楽しいおしゃべりと仲間づくり		
日光	日光	乳幼児保護者学級「わんぱく子育て塾」	1回	
真岡	西	親子の会話講座	1回	絵画教室講師
益子	中央	親子クッキング教室		給食センター栄養士
		読み聞かせ		ボランティア団体「かたつむり」
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
壬生	生涯学習館	「ふれあいサロン」および「すくすく広場」と称して親子ふれあいの場を提供	各月1回	家庭教育オピニオンリーダー
小山	中央	ママのためのほっとタイム（コトバとココロの使い方、ピラティス、スイーツ作り、スクラップブック作り）	年1回	
	寒川	子育て広場1（親子ふれあいリトミック、わくわくクリスマスリトミック、絵本を楽しもう、作品づくりをしよう、ラフターヨガ、夏・冬の健康）		
	穂積	リトミック	2回	
	桑	親子体験教室	4回	料理講師、国際企画交流係ALT/CIRの先生、生け花講師
		子育て講演会	1回	（特非）ハートフルコミュニケーション
栃木	寺尾	ふれあいのつどい	年1回開催	栃木市健康増進課主催、母子保健推進員が実施

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
栃木	藤岡	親子レクリエーション（親子でスイカ割りとゲーム）	1回	家庭教育オピニオンリーダー会どーなつくらぶ
	都賀	ハッピー子育て講座	1回	らっこっこくらぶ
下野	国分寺	孫育て講座	5回	日本赤十字社、市保健師
	南河内	親子セミナー	5回	
矢板	矢板	英語でハロウィン	1回	
	泉	ぬいぐるみお泊まり会、絵本の読み聞かせ	1回	日本語）読み聞かせボランティア：ポットの会、（英語）株式会社BRIDGIC(ブリジック)
	片岡	親子わくわくチャレンジ教室（アロマ教室、料理教室、アップルパイ作り、デコ巻き寿司作り）		
烏山	こども館	子育て親育ち講座、市内の保育園・幼稚園に保護者を対象とした講座の実施依頼をしている。		
塩谷	生涯学習センター	親子ふれあい		
高根沢	高根沢	おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
		子育て広場	年8回	ママサポーターメンバー
		ファーストサイン教室・ベビースキンケア教室	月1回	
大田原	湯津上	親子ふれあい工作	1回	公民館職員
	黒羽・川西	川西小学校親子コサージュ作り	1回	
		黒羽小学校親子体験活動（ツインリンクもてぎへの移動学習）	1回	
	両郷	音楽鑑賞会	1回	オペレッタ劇団
		講演会	1回	
		研修会	1回	
	須賀川	親子ふれあい教室	1回	
	遠足	1回		
那須塩原	稲村	子育て講演会	2回	那須塩原市、管理栄養士 馬場侑里先生・宇都宮大学教授、大森玲子先生
	東那須野	食育講座	1回	よもぎの会
		風呂敷講座	1回	
		親子ストレッチ	1回	
		片付講座	1回	
		パステルアート	1回	
	西那須野	子育てサロン（親子リトミック教室・8回、清水絵里子先生、パネルシアター、ミニコンサート、人形劇、絵本読み聞かせ・遠足 各1回、他）	全19回	
	三島	子どものほめ方しかり方（ワークショップ）、親子でリズム体操、子育て世代の生活設計と生命保険、保育園・幼稚園・認定こども園・地域型保育について		
	大山	子育て安心アドバイス	1回	外部講師
		子どもの栄養とおやつ	1回	外部講師
ハロープラザ	大貫保育園家庭教育学級			
佐野	中央	親子ふれあい活動	2回	理科実験教室の島野克嘉先生、音楽教室の小山花波、洋子先生
足利	山辺	乳幼児学級「すこやか育児セミナー」、工作・体操・英語・絵本・音楽会等	全8回	市内一般講師等
	三重	三重山前育児スマイルパーク・テーマ「七夕飾りづくり、ふれあい遊び、タイ式ヨガ、リズム体操等」	年13回	にし子育て支援センター職員、日本親子タッチケアインストラクター等
	山前	育児スマイルパーク・テーマ「健康教室、バルーンアートとパネルシアター、親子ダンス等」	全13回	歯科衛生士、紙ひこーき、リズム体操講師等
	北郷	乳幼児学級	1回	市内子育て支援センター保育士、メイクセラピスト、ダンス講師、(株)シトロン、おかむら小児歯科クリニック、足利チャイルドあーとくらぶ

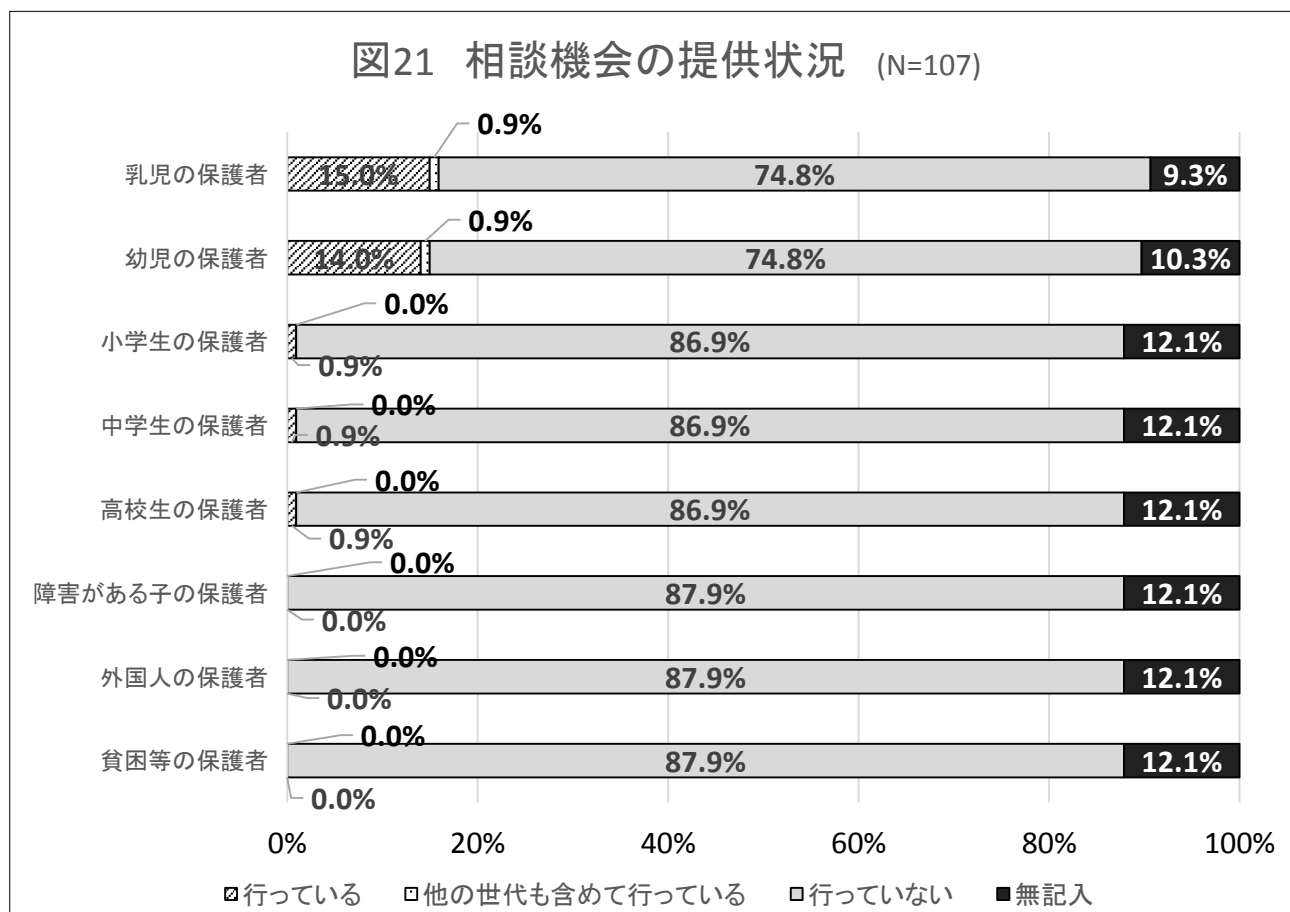
市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
足利	矢場川	子どもと学ぶ育児教室・テーマ「子ども社会の人権、読み聞かせ、リトミック、キャラ弁作り等」	年8回程度	子育て支援センター職員、市立図書館職員、音楽健康法講師、栄養士 等
	筑波	乳幼児学級「すくすくサロン」テーマ「楽しく遊んで、手形足形アート、歯磨きレッスン等」	8回	羽刈保育所職員、オフィスチーコ、歯科衛生士、地区主任児童委員等
	梁田	親子のびのびセミナー、テーマ「ふれあい遊び、親子うどんづくり、ネイルアート講座等」	年間10回	託児サークルえくぼ、栄養士・食育指導士、ネイルアート講師 等
	小俣	乳幼児学級、テーマ「ふれあい遊び、応急手当、片付け等」	全6回	オフィスチーコ、消防西分署職員、整理収納アドバイザー 等
小学生の保護者				
宇都宮	中央	親と子のわくわく体験講座	1回	栃木県レクリエーション協会 枝俊男 他4名
	東	親子でDoing、様々な体験や簡単な実験とおして、ものづくりの楽しさを知り、また子供の豊かな心を育てながら、親子のスキンシップを図る。	6回	宇都宮大学教授、学生、元校長、工作愛好家等
	西	親子レクリエーション	1回	レクリエーション講師（たまごクラブ）
		美術館探検	1回	市美術館職員（館外学習）
		ティンブルアート体験	1回	アトリエ講師（スターアトリエ）
		土器づくり	1回	歴史体験館講師（館外学習）
		スタンドグラス工作	1回	博物館職員（館外学習）
	南	ママのアンガーマネジメント入門講座（思春期ママ）	1回	
	北	親子自然探検隊	1回	グリーントラストボランティア等
		親子でチャレンジ	1回	大学教授、民芸作家
	平石	家庭教育セミナー	3回	
	城山	親子でにこにこクッキング	1回	城山地区食生活改善推進員協議会
	富屋	家庭教育学級 教育講演会	1回	東日本盲導犬協会
	篠井	館外学習、カラーセラピー 羊毛フェルト	1回	カラーセラピスト：臼井千恵美先生、羊毛フェルト講師：三浦憲子先生
上三川	中央	子どもが安心できる大切な場としての家庭を考える		
真岡	西	親子の絵画講座	1回	絵画教室講師
益子	中央	小学5年生を対象とした性に関する講話	1回	芳賀赤十字病院助産師
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
小山	間々田	「脳トレ体操」	1回	
		「ヨガ体操」	1回	
		「料理教室」	1回	市職員
		「コサージュ作り」	1回	
	生井	学力向上大作戦（4館合同）	1回	県教委
	寒川	四館合同子育てを学ぶ会	1回	
		家庭でできる学力向上		県教委
		大人の作品づくり	1回	
	豊田	豊田南北小家庭教育学級「子どもとのコミュニケーション」	2回	生涯学習課家庭教育支援チーム「かざぐるま」
	中	科学実験	1回	小山市博物館職員
		学力向上	1回	県教育委員会職員
		作品作り	1回	手芸教室
		館外研修	1回	鉄道博物館
		男女共同参画	1回	小山市男女共同参画課職員
		スポーツチャンバラ	1回	安納スポーツショップ
	穂積	「子どもの学力向上」	1回	県教育委員会職員
	桑	親子体験教室	4回	料理講師、国際企画交流係ALT/CIRの先生、生け花講師
		冬休み「冬の星座観測会」		公民館職員
	桑	子育て講演会	1回	（特非）ハートフルコミュニケーション
	絹	家庭教育学級（親子でアロマ石鹸作り、親子館外研修ぐんま昆虫の森、親子でスイーツ作り）	年3回	

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
栃木	藤岡	就学時健診を活用した親学習プログラム	4回	家庭教育オピニオンリーダー会どーなつくらぶ
	都賀	就学時健診を活用した親学習プログラム	2回	らっこっこくらぶ
	岩舟	就学時健診を活用した親学習プログラム	3回	家庭教育オピニオンリーダー「かるがも岩舟」
下野	国分寺	お母さんあつまれ	5回	教育事務所職員等
	南河内	親子体験講座	3回	
	下野東	親子パティシエ入門	1回3コマ	スイーツ工房EMI講師
矢板	矢板	英語でハロウィン	1回	ALTのブライアン・アダムズ
	泉	ぬいぐるみお泊まり会 絵本の読み聞かせ	1回	(日本語)読み聞かせボランティア：ポットの会、(英語)株式会社BRIDGIC(ブリジック)
	片岡	ちびにこ(味噌づくり教室、体験研修2回、親学習プログラム2回、味噌を使った料理教室、お菓子づくり)		
那須 烏山	こども館	子育て親育ち講座、市内の小学校に保護者を対象とした講座の実施依頼をしている。		
高根沢	高根沢	読書感想文書き方教室	年1回	学校の先生
大田原	東	親子ふれあい体操、移動教室、親子で創作活動、講話、料理教室		
	西	スポーツチャンバラ、サマーキャンプ、餅つき	各1回	
		料理講座	2回	
	金田北	ニュースポーツ、移動教室、リースづくり、料理教室		
	金田南	「家庭教育学級とは」	1回	公民館職員
		「親子演劇鑑賞」	1回	らくりん座
		「救急法」	1回	消防署職員
		「講演会」	2回	県職員
	野崎	心肺蘇生報体験、親子のパンづくり、クリスマスケーキづくり、うどんづくり		
	佐久山	救命の実技を学ぶ	1回	大田原消防職員
		親子でお菓子を作る	1回	
		子育てに関する講話	1回	那須教育事務所
	湯津上	親子ふれあい工作	1回	公民館職員
	黒羽	川西小学校親子コサージュ作り	1回	
	川西	黒羽小学校親子体験活動(ツインリンクもてぎへの移動学習)	1回	
那須 塩原	両郷	音楽鑑賞会	1回	オペレッタ劇団
		講演会	1回	
		研修会	1回	
	須賀川	PTA役員視察研修	1回	
	厚崎	3校(小学校と中学校)合同子育て講演会	1回	ボディプラネット代表森島達先生
	稲村	子育て講演会	2回	那須塩原市 管理栄養士 馬場侑里先生・宇都宮大学教授 大森玲子先生
	鍋掛	親子物づくり教室、親子ケーキ作り教室、移動教室		
		図書支援		図書館司書派遣
	東那須野	大原間小学校教育講演会(演題:親子の国際感覚の作り方)	1回	
	高林	サマーキャンプ(6年生対象)	年1回	
		親子交流会(地区内2校の小学生・保護者対象)	年1回	
		書初展(地区内2校の小学生対象)	年1回	
	西那須野	各学年による親子学習会・	6回	
	狩野	3B体操	1回	日本3B体操協会公認指導者名
		ミニ運動会	1回	那須塩原市レクレーション協会
		「食品ロス」講話	2回	NPO法人主宰者
	西	コーヒーセミナー	1回	
		予防救急	1回	消防署署員
		スマホカメラ講座	1回	
	三島	お手伝いできるもん(ワークショップ)		
		子育て講演会(食育について)		
	大山	お菓子づくり教室	1回	外部講師

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
那須塩原	ハロープラザ	関谷小学校家庭教育学級、大貫小学校家庭教育学級、横林小学校家庭教育学級、ワークショップ、創作活動、視察研修など	※各校年3～4回程度	
佐野	佐野	親子ふれあい活動	2回	理科実験教室の島野克嘉先生、音楽教室の小山花波先生、小山洋子先生
足利	織姫	親おや？！ゼミナール（童謡から知る ふるさとの美しさ）	1回	こまどり童謡歌おう会
	助戸	父親学級・テーマ「パン作り、タッチラグビー、お絵かきプログラミング、クリスマスプレゼントづくり」	4回	講師「足利フラワーパーク職員、足利ラグビーフットボール協会等」
		ウォークラリー	1回	
		縁日集会	1回	
	毛野	ポスター、絵描き教室	1回	市内一般講師
	名草	夏休みおやこ学級（ポスターの描き方2回、読書感想文の書き方2回、貯金箱作り1回、人権学習1回、金銭教育学習1回、ピザ焼き体験1回）		社会教育主事、NPO団体名草里山の会
	御厨	ふれあい教室・テーマ「料理教室×2、スクラップブック作り、クリスマス飾りづくり」	4回	織姫公民館サークル「スイーツなごみ」市民発掘講師、助戸公民館乳幼児学級企画運営委員・市民発掘講師
	梁田	親子チャレンジ倶楽部、テーマ「流しそうめんと人権教育、しめなわ作り、じゃがいも植え等」	年間10回程度	講師「梁田寿大学運営委員会等」
	三和	坂西父母学級・テーマ「調理実習、かたづけ、ボランティア体験等」	年9回	講師「足利製菓専門学校教員、整理収納アドバイザー、地域の学校ボランティア等」
	葉鹿	調理実習、手芸	1回	栄養士 他
中学生の保護者向け				
宇都宮	南	ママのアンガーマネジメント入門講座（思春期ママ）	1回	
	城山	生き生きセミナー		
	篠井	館外学習、カラーセラピー	1回	カラーセラピスト：臼井千恵美先生
日光	日光	羊毛フェルト	1回	羊毛フェルト講師：三浦憲子先生
上三川	中央	学校等で開催している家庭教育学級		
市貝	中央	子どもが安心できる大切な場としての家庭を考える		
小山	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
	豊田	思春期講座、思春期の子どもとのかかわり方	年1回	城南中スクールカウンセラー
	中	豊田中家庭教育学級「受験期の健康管理」	1回	講師・市職員
	桑	思春期講座	1回	小山市健康増進課職員
		子育て講演会	1回	川名子女性クリニック
下野	国分寺	（特非）ハートフルコミュニケーション		
矢板	矢板	お母さんあつまれ	5回	教育事務所職員等
那須烏山	こども館	入試説明会	1回	
高根沢	高根沢	子育て親育ち講座（市内の中学校に保護者を対象とした講座の実施依頼をしている）		
		図書館ご縁まつり時中学生のボランティアを募り社会体験を行ってもらう		
那須塩原	厚崎	3校（小学校と中学校）合同子育て講演会	1回	ボディブラネット代表森島達先生
	稲村	子育て講演会	1回	宇都宮大学教授 大森玲子先生
	とようら	健康講座の受講	1回	入江先生
	東那須野	東那須野中学校料理教室	1回	NPO法人食育塾
		東那須野中学校道徳講演会（演題：片腕でも伝えられるものがある）	1回	湯上輝彦氏（ミュージシャン）
		東那須野中学校アートフラワー講座	1回	
	西那須野	講演会	2回	
	西	子育て講演会	1回	宇都宮大学教授 大森玲子先生

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
那須塩原	三島	子どもの良いとこみつけた（ワークショップ）		
		子育て講演会（食育について）		
		思春期講演会（子どものSNSトラブル）		
	ハロープラザ	箒根中学校家庭教育学級（ワークショップ、創作活動、視察研修など）	※年3～4回程度	
足利	織姫	親おや？！ゼミナール（人権講演会「人との出会いが与えてくれたもの」～共に生きていく社会の実現を目指して～）	1回	宇都宮市立中央小学校の先生
	葉鹿	教育講演会	1回	
高校生の保護者向け				
宇都宮	南	ママのアンガーマネジメント入門講座（思春期ママ）	1回	
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
小山	桑	子育て講演会	1回	（特非）ハートフルコミュニケーション
子育てを終えた世代向け				
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
小山	寒川	女思会1、楽しくダンス		中央アートスクール学生
		スポーツ健康の楽しみ		白鷗大学
		体によい食事		健康増進課栄養士
		男女共同参画研修		フェードイン
		寄せ植え		上野花園
		はつらっクラブ1、ふれあい健康体操		
		夏に負けない食事		健康増進課栄養士
		運脳		
	桑	子育て講演会	1回	（特非）ハートフルコミュニケーション
下野	国分寺	孫育て講座	5回	ファシリテーター、日本赤十字社、市保健
那須塩原	三島	子育て講演会（食育について）		
	ハロープラザ	大貫保育園家庭教育学級（祖父母参観時）	1回	3B体操指導者
足利	毛野	3世代交流もちつき体験	1回	地元育成会
		人権講演会	1回	社会教育指導員
	梁田	親子チャレンジ倶楽部、テーマ「流しそうめんと人権教育、しめなわ作り、じゃがいも植え等」	年間10回程度	講師「梁田寿大学運営委員会等」
一般市民向け				
市貝	中央	親子教室	3～5回	親学習・家庭教育オピニオンリーダー
芳賀	生涯学習センター分館	親子農業体験1、親子料理教室2、物作り等の体験活動4、ガーデニング教室2、自然体験2、陶芸教室1、生涯元気アップ講座1		
小山	寒川	寒川大学1、命について		新小山市民病院長
	桑	子育て講演会	1回	（特非）ハートフルコミュニケーション
高根沢	高根沢	毛糸のこけ玉教室	年3回	
那須塩原	三島	子育て講演会（食育について）		
	ハロープラザ	箒根中学校区合同講演会	1回	地元出身作家
		三島中学校区子育て講演会	1回	大学教授
足利	毛野	講演会	1回	小学校PTA
	山前	テーブルマナー講習	1回	レストランマナー講師資格有従業員
	梁田	親子チャレンジ倶楽部、テーマ「流しそうめんと人権教育、しめなわ作り、じゃがいも植え等」	年間10回程度	講師「梁田寿大学運営委員会等」

(イ) 保護者への相談機会の提供について



公民館等における相談機会は、「行っている」、「他の世代も含めて行っている」を合わせて、乳児、幼児の保護者を対象に 15%程度行われているが、他の世代の保護者には非常に少ない。

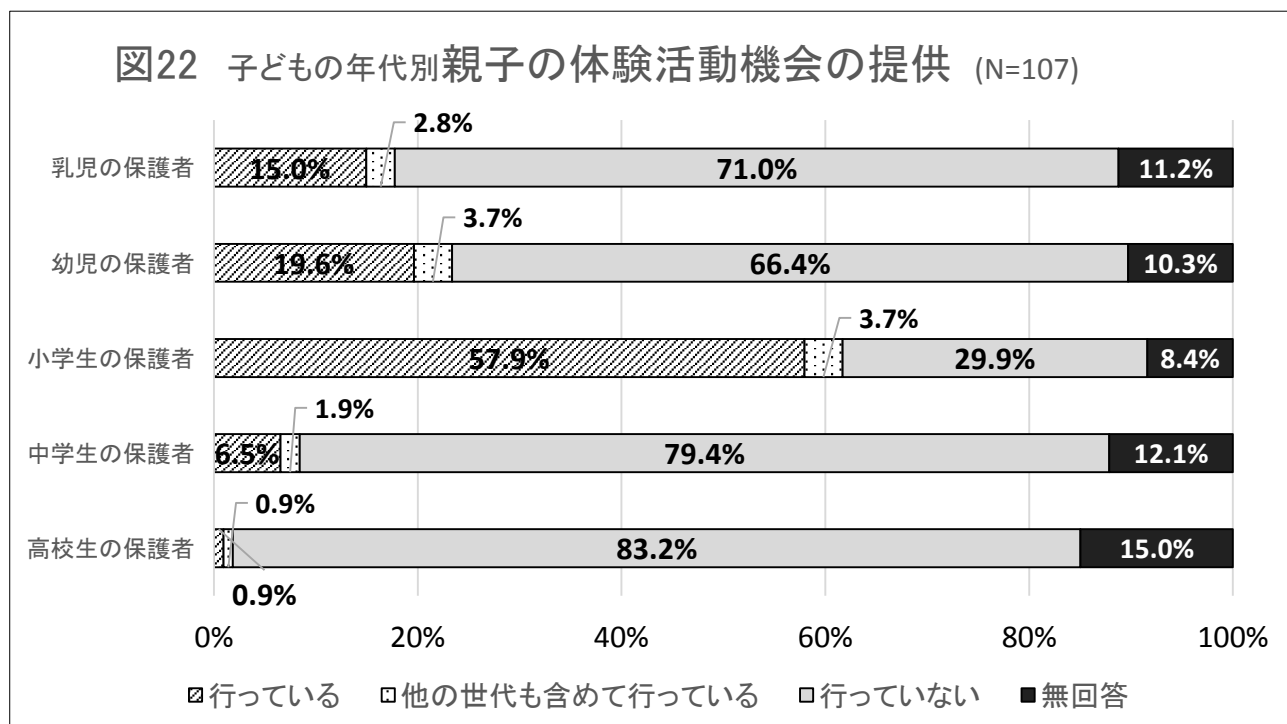
【図 21】

実施している内容テーマ等については、【資料 21】のとおりである。

【資料21】保護者への相談機会の提供状況（内容、テーマ等）※回数については、記載のまま、敬称は略

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
乳幼児の保護者				
宇都宮	中央	子育て広場（全10回）講座終了後の相談受付	1回	相談員
	東	講座で毎回子育て相談員による相談を実施		
	西	子育て相談	2回	保健師
	平石	センターロビーにおいて毎週火曜日実施している。「親子の広場はぐはぐ」事業の中で、子育ての相談については随時行っている。		
	国本	親子ワクワク教室	1回	富屋地区市民センターの保育士・保健師
	城山	講座の中で育児相談		宇都宮市保健福祉相談担当保健師
	篠井	講座開催時に講師による相談受付	1回	宇都宮市家庭教育オピニオンリーダー会、宇都宮市保育士・保健師
	河内	子育て広場	1回	講座終了後に子育て相談員による相談を実施
鹿沼市	東部台	親子ハートフルクラブ	年6回	東部台子育てはぐくみ隊
市貝	中央	公民館への来館による相談受付	随時	公民館職員
小山	寒川	子育て広場	年2回	健康増進課保健師
		絵本でこんにちは事業	随時	健康増進課保健師
	穂積	子育ての悩み相談	1回	市健康増進課職員
		身体計測・歯の予防・熱中症予防	1回	市健康増進課職員
		身体計測・インフルエンザ予防	1回	市健康増進課職員
塩谷	生涯学習センター	講座のときに、子育てカウンセラーとの話し合いなど		
高根沢	高根沢	おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
		子育て広場	年8回	ママサポーターメンバー
那須塩原	東那須野	児童心理カウンセラーの子育てアドバイス	1回	
	西那須野	子育てサロン	2回	おはなし会、西那須野更生保護女性会、ボランティア保母
足利	筑波	子育てサロンでの情報交換および相談等	月1回	地区主任児童委員
幼児の保護者				
宇都宮	中央	子育て広場（全10回）講座終了後の相談受付	1回	相談員
	東	講座で毎回子育て相談員による相談を実施		
	西	子育て相談	2回	保健師
	城山	講座の中で育児相談		宇都宮市保健福祉相談担当保健師
	篠井	講座開催時に講師による相談受付	1回	宇都宮市家庭教育オピニオンリーダー会、宇都宮市保育士・保健師
	河内	子育て広場	1回	講座終了後に子育て相談員による相談を実施
市貝	中央	公民館への来館による相談受付	随時	公民館職員
壬生	学習館	「ポケットカフェ」と題して、お茶等を飲みながら相談を行っている	月3回	家庭教育オピニオンリーダー他
小山	寒川	子育て広場	年2回	健康増進課保健師
	穂積	子育ての悩み相談	1回	市健康増進課職員
		身体計測・歯の予防・熱中症予防	1回	市健康増進課職員
		身体計測・インフルエンザ予防	1回	市健康増進課職員
塩谷	生涯学習センター	講座のときに、子育てカウンセラーとの話し合いなど		
高根沢	高根沢	おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
		子育て広場	年8回	ママサポーターメンバー
那須塩原	東那須野	児童心理カウンセラーの子育てアドバイス	1回	
	西那須野	子育てサロン	2回	おはなし会、西那須野更生保護女性会、ボランティア保母
足利	筑波	子育てサロンでの情報交換および相談等	月1回	地区主任児童委員
小学生の保護者				
市貝	中央	公民館への来館による相談受付	随時	公民館職員
中学生の保護者				
市貝	中央	公民館への来館による相談受付	随時	公民館職員
高校生の保護者				
市貝	中央	公民館への来館による相談受付	随時	公民館職員
障害がある子の保護者				
※記載なし				
外国人の保護者				
※記載なし				
貧困等の保護者				
※記載なし				

(ウ) 親子の体験活動の提供について



「行っている」、「他の世代も含めて行っている」を合わせて小学生の親子への体験活動の提供が最も多く、61.6%だった。中学生と高校生の保護者向けのものは少ない。【図 22】

実施している内容テーマ等については、【資料 22】のとおりである。

【資料22】子どもの年代別親子の体験活動機会の提供状況（内容、テーマ等）

※回数については、記載のまま、敬称は略

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
乳児の保護者				
宇都宮	西	高校生ボランティアとの交流（全講座）		
		地域ボランティアとの交流（全講座）		
	平石	親子エアロビ、バルーン遊びなど		
	瑞穂野	エアロビクス	1回	指導員
	城山	季節の行事に関する制作(子どもの日、ひなまつり)	1回	家庭教育オピニオンリーダー会
	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市保育士・保健師、子育てサロン中央 アップルハウス指導員：後藤亜希
	河内	子育て広場	1回	
		親子(乳幼児)でふれあいフィットネス		フィットネスインストラクターの先生
		親子(乳幼児)で七夕まつり、クリスマス		地域団体の皆さま
		親子(乳幼児)で楽しくバルーン遊び		大学の先生方
		親子(乳幼児)でビート体操		エアロビクス指導員
		親子(乳幼児)でリトミック		音楽の先生方
		ワクワク子育て講座	1回	
		香りとおまかせアロマコラージュでリラックスし、優雅なひととき		アロマコラージュ療法士
		お母さんのための絵本読み聞かせ		図書館出前講座を活用
		食育クッキング		家庭料理研究家
日光	日光	乳幼児保護者学級「わんぱく子育て塾」にて、親子一緒にからだを動かす体験		
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
小山	穂積	いちご摘み	1回	公民館職員
		ロールケーキ作り	1回	市農政課米粉マイスター
栃木	吹上	親子ピクス、1～3歳までの子どもと保護者	1回	吹上地区母子保健推進員主催
高根沢	高根沢	人形劇	年2回	
		おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
那須塩原	西那須野	手形取り	1回	社会教育指導員
足利	織姫	パパママ育児セミナー（うたあそび、ベビーピクス、チャイルドアート、リトミック、歌う海賊団ッ！コンサート、お別れ会）	1回	子育て支援センター職員、足利チャイルドあーとクラブ、歌う海賊団ッ！
	助戸	乳幼児学級・テーマ「人権・教養（食育）、写真の撮り方、料理。ヨガ、リトミック等」	11回 ×2クラス	講師神永写真館、元パティシエ 等
	三重	三重山前育児スマイルパーク・テーマ「七夕飾りづくり、ふれあい遊び、タイ式ヨガ、リズム体操等」	年13回	にし子育て支援センター職員、日本親子タッチケアインストラクター等
	山前	育児スマイルパーク・テーマ「健康教室、バルーンアートとパネルシアター、親子ダンス	全13回	歯科衛生士、紙ひこーき、リズム体操講師 等
	矢場川	リズム体操や、ふれあい遊び等	年4回 程度	音楽健康法講師 等
	筑波	親子でチャレンジクッキング！	1回	地区主任児童委員
	梁田	親子のびのびセミナー、テーマ「ふれあい遊び、親子うどんづくり、ネイルアート講座等」	年10回	託児サークルえくぼ、栄養士・食育指導士、ネイルアート講師 等
幼児の保護者				
宇都宮	西	高校生ボランティアとの交流（全講座）		
		地域ボランティアとの交流（全講座）		
	北	親子自然探検隊	1回	グリーントラストボランティア等
		親子でチャレンジ	1回	大学教授、民芸作家
	瑞穂野	リトミック	3回	指導員
	城山	季節の行事に関する制作(子どもの日、ひなまつり)	1回	家庭教育オピニオンリーダー会

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
宇都宮	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市保育士・保健師、子育てサロン中央 アップルハウス指導員：後藤亜希
	河内	子育て広場	1回	
		親子(乳幼児)でふれあいフィットネス		フィットネスインストラクターの先生
		親子(乳幼児)で七夕まつり、クリスマス		地域団体の皆さま
		親子(乳幼児)で楽しくバルーン遊び		大学の先生方
		親子(乳幼児)でビート体操		エアロビック指導員
		親子(乳幼児)でリトミック		音楽の先生方
		ワクワク子育て講座	1回	
		香りとおアロマコラージュでリラックスし、優雅なひととき		アロマコラージュ療法士
		お母さんのための絵本読み聞かせ		図書館出前講座を活用
		食育クッキング		家庭料理研究家
上三川	中央	様々な体験活動を通して子どもの生きる力を育む		
日光	日光	乳幼児保護者学級「わんぱく子育て塾」にて、親子一緒にからだを動かす体験		
真岡	西分館	絵本の中の料理を作って食べよう	1回	真岡家庭教育オピニオンリーダー会
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
芳賀	生涯学習センター	親子料理教室	2回	地域ボランティア
	分館	親子農業体験	1回	地域ボランティア
小山	穂積	いちご摘み	1回	公民館職員
		ロールケーキ作り	1回	市農政課米粉マイスター
	桑	親子体験教室	4回	料理講師、国際企画交流係 ALT/CIRの先生、生け花講師
矢板	矢板	手形アート	1回	
		リトミック	5回	
		1日遠足	1回	人形劇と豆まき
		人形劇と豆まき	1回	人形劇サークルたんぽぽ
		リズム遊び	1回	
	片岡	親子わくわくチャレンジ教室（アロマ教室、料理教室、アップルパイ作り、デコ巻き寿司作り）		
高根沢	高根沢	人形劇	年2回	
		おはなし玉手箱	月1回	町内ボランティア
那須塩原	西那須野	手形取り	1回	社会教育指導員
	三島	英語で遊ぼう！	1回	英会話教室先生
		親子ではぐくむタッチセラピー	1回	地元講師
	大山	みんなでリトミック	1回	外部講師
佐野	中央	クッキー作り、絵手紙のうちわ作り、押し花キーホルダー作り、リース作り、羊毛フェルトの雪だるま作り	各1回	外部講師
足利	三重	三重山前育児スマイルパーク・テーマ「七夕飾りづくり、ふれあい遊び、タイ式ヨガ、リズム体操等」	年13回	にし子育て支援センター職員、日本親子タッチケアインストラクター等
	山前	育児スマイルパーク・テーマ「健康教室、バルーンアートとパネルシアター、親子ダンス	全13回	歯科衛生士、紙ひこーき、リズム体操講師 等
	矢場川	リズム体操やふれあい遊び等	年4回程度	音楽健康法講師 等
	筑波	親子でチャレンジクッキング！	1回	地区主任児童委員
	梁田	親子のびのびセミナー、テーマ「ふれあい遊び、親子うどんづくり、ネイルアート講座等」	年間10回	託児サークルえくぼ、栄養士・食育指導士、ネイルアート講師 等

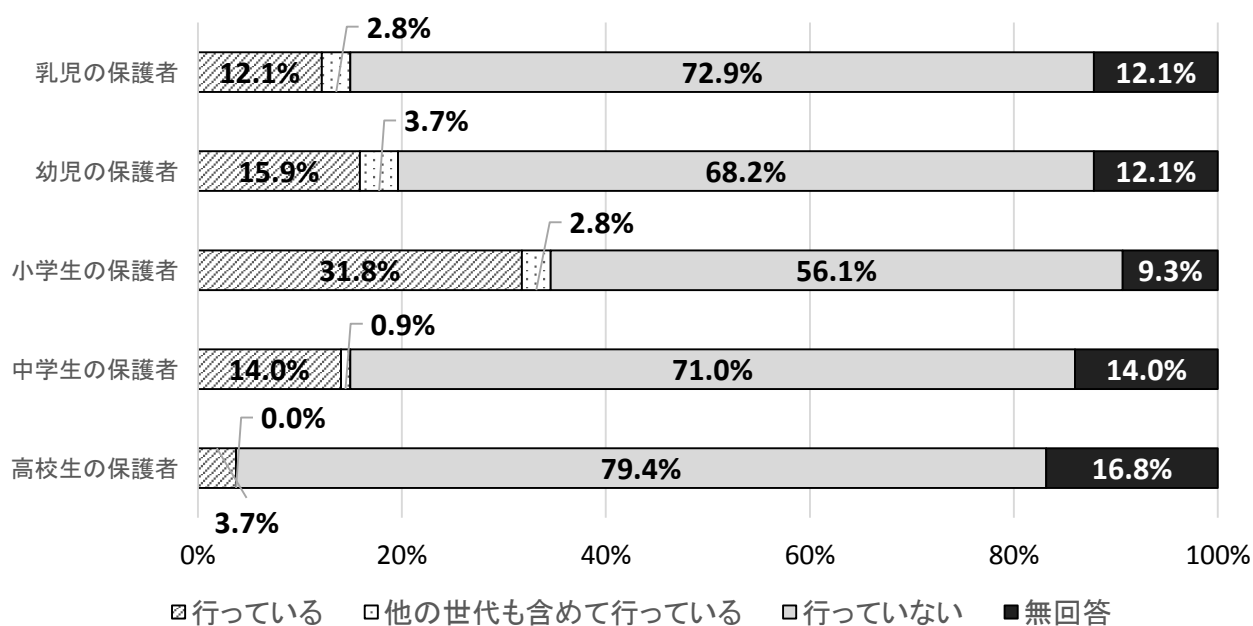
市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
小学生の保護者				
宇都宮	中央	親と子のわくわく体験講座	1回	栃木県レクリエーション協会 枝俊男 他4名
		親子レクリエーション	1回	たまごクラブ
		美術館探検	1回	市美術館職員（館外学習）
		ティンブルアート体験	1回	スターアトリエ
		土器づくり	1回	歴史体験館講師（館外学習）
		ステンドグラス工作	1回	博物館職員（館外学習）
	北	親子自然探検隊	1回	グリーントラストボランティア等
		親子でチャレンジ	1回	大学教授、民芸作家
	平石	ヨガ、講話		
	瑞穂野	化石発掘	1回	栃木県立博物館職員
		豆腐づくり	1回	太子食品
		料理教室	1回	栄養士
	城山	ケーキ作り	1回	愛好家
		親子で料理体験	1回	食生活推進員協議会
		親子そば打ち教室	1回	富屋そば打ちクラブの山口さん
	篠井	羊毛フェルト	1回	
上三川	中央	親と子の係わりを深めるための遊びの技術を学ぶ		
鹿沼	東部台	夏休み親子クッキング	1回	東部台地区食生活改善推進員
		ほしぞらさんぽ	1回	東部台地区青少年育成市民会
真岡	西	絵本の中の料理を作って食べよう	1回	真岡家庭教育オピニオンリーダー会
真岡	二宮	親子でデイキャンプ（ダンボール箱を使った燻製作り、ペットボトルを使ったパン作り）、クリスマス飾り作り（予定）	各1回	にのみや野外レンジャー
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
芳賀	生涯学習センター分館	親子料理教室	2回	地域ボランティア
		親子農業体験	1回	地域ボランティア
小山	中央	親子学びの森（パッケージデザイン、手作りカメラ、パソコン教室）	年1回	少年の家美術館、バンダイ出前授業、小山高専、BLINK
		親子たいけん隊（お寺に行こう、自然観察、益子焼、英語でクリスマス）	年1回	妙建寺、芳賀青年の家職員、カレックス外語学院講師
	大谷	親子で飛行機整備工場を見学する	1回	
	間々田	「親子で遠足」	1回	市職員
		ひこうき飛ばし	1回	
		理科教室	1回	博物館職員
		陶芸	1回	
		英語	1回	ALT
		クッキング	1回	
	寒川	親子で料理体験	1回	農政課米粉マイスター
	豊田	ふれあい学級「親子でおやつ作り」	1回	
	生井	科学実験	1回	小山市博物館職員
		学力向上	1回	県教育委員会職員
		作品作り	1回	手芸教室の先生
		館外研修	1回	鉄道博物館
		男女共同参画	1回	小山市男女共同参画課職員
		スポーツチャンバラ	1回	安納スポーツショップ
	穂積	絵・ポスターの描き方	1回	
		カヌー体験	1回	
		ロールケーキ作り	1回	
		親子スキー教室	1回	市職員
	桑	親子体験教室	4回	料理講師、国際企画交流係 ALT／CIRの先生、生け花講師
		冬休み「冬の星座観測会」	1回	公民館職員

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
小山	絹	家庭教育学級（親子でアロマ石鹸作り、親子館外研修-ぐんま昆虫の森、親子でスイーツ作り）	年3回	
栃木	栃木	「親子ふれあいクッキング」「親子ふれあい自然体験」「親子ふれあいバレンタイン」	年3回	栃木家庭教育オピニオンリーダー会CARPA共催
	都賀	親子折紙工場見学	1回	らっこっこくらぶ
	西方	門松づくり	1回	文化マイスター・公民館職員
	岩舟	親子で体験・こけ玉づくり	1回	家庭教育オピニオンリーダー「かるがも岩舟」
下野	石橋	わくわく親子体験（農園体験・親子工作・中学校訪問など）	1回	市内農家・学校支援ボランティア・遊び学びキャラバン
	国分寺	親子でわくわく体験	3回	管理栄養士、県埋文センター職員、そば打ちクラブ
	南河内	親子体験講座	3回	ボランティア団体
矢板	矢板	1日遠足	1回	
片岡	片岡	ちびにこ（味噌づくり教室、体験研修2回、お菓子づくり）		
高根沢	高根沢	人形劇	年2回	
		ダンボールクラフト教室	年1回	HONDAさん
大田原	東	消しゴムはんこ作り、料理教室、親子ふれあい体操		
	金田北	ニュースポーツ、リースづくり、料理教室		
	金田南	親子パンづくり	1回	
		親子ハイキング	1回	
		ウォークラリー	1回	小学校PTA
		親子で和菓子づくり	1回	
	佐久山	親子でニュースポーツ	1回	市スポーツ推進委員
		親子ふれあい学習（移動教室）	1回	
	湯津上	親子クッキーづくり	2回	水遊園職員
	黒羽川西	藍染体験	1回	
		料理教室	1回	
那須	両郷	各学年親子行事	各1回	
	那須	木工教室	1回	
		キャンドルづくり	1回	アート展実行委員会
	高原	木工教室	1回	那須町林業振興会
	芦野	親子木工教室	1回	公民館職員、農林振興課職員、林業振興会
	伊王野	夏休み親子木工教室	1回	公民館職員、林業振興会
那須塩原	厚崎	親子ものづくり教室	1回	
	稲村	パン作り	1回	
		ブリザーブドフラワー	1回	
		移動教室、工場見学	2回	
	豊浦	親子パン作り教室	1回	
	鍋掛	物づくり	1回	
		ケーキづくり	1回	
	東那須野	大原間小学校（1年生）親子レクリエーション	1回	学校職員
		（2年生）紙工作	1回	学校職員
		（3年生）親子スポーツ	1回	学校職員
		（4年生）おにぎり作り	1回	学校職員
		（5年生）陶芸	1回	
		（6年生）コサージュ作り	1回	学校職員
		波立小学校（1年生）七夕作り	1回	学校職員
		（2年生）クレープ作り	1回	
		（3年生）キックベース	1回	
		（4年生）リース作り	1回	
		（5年生）キンボール	1回	学校職員
		（6年生）ソフトバレー・さいかつボール	1回	学校職員
	高林	サマーキャンプ（年1回 6年生対象）	1回	
		親子交流会（年1回、地区内2校の小学生・保護者対象）	1回	
		書初展（年1回、地区内2校の小学生対象）	1回	
	西那須野	夏休み親子工作とリクリエーション	1回	西那須野中学校生徒会
		親子門松作り	1回	社会教育指導員

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
那須塩原	狩野	おにぎり体験	1回	市農業公社職員
		ボルダリング体験	1回	市内ボルダリング主宰者
		デコ巻きずし	1回	
		ベネチアングラス講座	1回	
	西	ひょうたんランプ作り	1回	
		お菓子作り	1回	
	三島	親子工場見学	1回	森永製菓
		親子調理講座（地元の食材を使った料理）	1回	農業公社
		親子ものづくり教室（ソーブカービング）	1回	地元講師
	大山	親子でズンバ	1回	外部講師
		小学校PTA講演会「TBS出前授業」	1回	TBSアナウンサー
	ハロー プラザ	ミニ門松づくり	1回	地元愛好家
佐野	中央	クッキー作り、絵手紙のうちわ作り、押し花 キーホルダー作り、リース作り、羊毛フェルト の雪だるま作り	1回	外部講師
足利	助戸	父親学級、テーマ「パン作り、タッチラグ ビー、お絵かきプログラミング、クリスマスプ レゼントづくり」	1回	足利フラワーパーク職員、足 利ラグビーフットボール協会 等
		ウォークラリー	1回	
		縁日集会	1回	
	毛野	3世代交流もちつき体験	1回	地元育成会
	山前	フェイクスイーツ作り	1回	クレイパティシエール
		おやこ工作教室	1回	ものづくり研究所
		そば打ち	1回	足利三重地区市民
		クリスマスケーキ作り	1回	栄養士
	名草	夏休みおやこ学級（ポスターの描き方2回、読 書感想文の書き方2回、貯金箱作り1回、人権 学習1回、金銭教育学習1回、ピザ焼き体験1 回）		専門講師、社会教育主事、 NPO団体名草里山の会
	筑波	夢色のパティシエ	1回	講師・菓子工房Citoronー Praline
		サマースクール	1回	講師・幸せのクローバー会
	久野	親子陶芸教室	2回	陶芸家
	梁田	親子チャレンジ倶楽部、テーマ「流しそうめん と人権教育、しめなわ作り、じゃがいも植え	年間10 回程度	講師「梁田寿大学運営委員会 等」
	三和	坂西父母学級・テーマ「調理実習、かたづけ、 ボランティア体験等」	年9回	足利製菓専門学校教員、整理 収納アドバイザー、地域の学 校ボランティア 等
	葉鹿	調理実習・手芸(近隣公民館と合同実施)	1回	栄養士ほか
中学生の保護者				
宇都宮	篠井	羊毛フェルト	1回	羊毛フェルト講師：三浦憲子
鹿沼	東部台	夏休み親子クッキング	1回	東部台地区食生活改善推進員
		ほしぞらさんぽ	1回	東部台地区青少年育成市民会
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
芳賀	生涯学習 センター 分館	親子料理教室	2回	地域ボランティア
		親子農業体験	1回	地域ボランティア
小山	中	思春期講座	1回	小山市健康増進課職員
	穂積	親子スキー教室	1回	市職員
矢板	矢板	1日遠足	1回	
那須塩原	稲村	ティンブルアート	1回	
	三島	父と子の料理教室	1回	地元講師
高校生の保護者				
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
芳賀	生涯学習 センター 分館	親子料理教室	2回	地域ボランティア
		親子農業体験	1回	地域ボランティア

(エ) 交流機会の提供について

図23 子どもの年代別保護者同士、異世代間の
交流機会の提供(N=107)



「行っている」、「他の世代も含めて行っている」を合わせて小学生の保護者に対しての交流機会の提供が最も多く、34.6%だった。【図 23】

実施している内容テーマ等については、【資料 23】のとおりである。

【資料23】保護者への相談機会の提供状況（内容、テーマ等）※回数については、記載のまま、敬称は略

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
乳児の保護者				
宇都宮	西	仲間づくり（高校生ボランティアとの交流）	全講座	
	北	新家族応援講座(保護者同士のと交流機会)	2回	小学校教師、大学教授
	清原	ふれあい子育て広場(タッチケア、リトミック)	各1回	助産師、専門講師（講座の講師と参加者の談話時間がある）
	国本	親子ワクワク教室	1回	富屋地区市民センターの保育士・保健師、ピアノ講師川村聡子先生
	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市保育士・保健師、子育てサロン中央アップルハウス指導員：後藤亜希
	河内	子育て広場(親子(乳幼児)でふれあいフィットネス、親子(乳幼児)で七夕まつり、クリスマス、親子(乳幼児)で楽しくバルーン遊び、親子(乳幼児)でビート体操、親子(乳幼児)でリトミック)	1回	フィットネスインストラクターの先生、地域団体の皆さま、大学の先生方、（親子(乳幼児)でビート体操、エアロビック指導員、音楽の先生方
ワクワク子育て講座(香りとアロマコラージュ でリラックスし、優雅なひととき、お母さんのための絵本読み聞かせ、食育クッキング)		1回	アロマコラージュ療法士、図書館出前講座を活用、家庭料理研究家	
日光	日光	乳幼児保護者学級「わんぱく子育て塾」にて、食育簡単パーティークッキング		
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
壬生	生涯学習館	夏祭り	1回	家庭教育オピニオンリーダー
		クリスマス会	1回	家庭教育オピニオンリーダー
塩谷	生涯学習センター	こども祭り	1回	ジュニアリーダーズ・町子連
高根沢	高根沢	図書館ご縁まつり	1回	図書館職員
那須塩原	西那須野	夏祭り	1回	公民館職員
足利	織姫	パパママ育児セミナー（救急救命講座、骨盤矯正、料理教室、スクラップブック作り）	1回	足利市中央消防署職員、(株)波里
	助戸	乳幼児学級・テーマ「人権・教養（食育）、写真の撮り方、料理。ヨガ、リトミック等」	11回×2クラス	神永写真館、元パティシエ 等
	三重	三重山前育児スマイルパーク・テーマ「七夕飾りづくり、ふれあい遊び、タイ式ヨガ、リズム体操等」	13回	にし子育て支援センター職員、日本親子タッチケアインストラクター等
	山前	育児スマイルパーク・テーマ「健康教室、バルーンアートとパネルシアター、親子ダンス等」	全13回	歯科衛生士、紙ひこーき、リズム体操講師 等
	筑波	子育てサロン	毎月1回	地区主任児童委員
		乳幼児学級「すくすくサロン」テーマ「楽しく遊んで、手形足形アート、歯磨きレッスン等」	8回	羽刈保育所職員、オフィスチーコ、歯科衛生士、地区主任児童委員 等
幼児の保護者				
宇都宮	西	仲間づくり（高校生ボランティアとの交流）	全講座	
	北	新家族応援講座（保護者同士のと交流機会）	2回	小学校教師、大学教授
	清原	ふれあい子育て広場		講座の講師と参加者の談話時間がある
		親子リトミック	1回	専門講師
		親子ヨガ（3日間）	1回	専門講師
		親子リズム体操1回	1回	保育士
	国本	親子ワクワク教室	1回	富屋地区市民センターの保育士・保健師、ピアノ講師川村聡子先生

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
宇都宮	篠井	季節遊び、手作りおもちゃ、リズム遊び等	1回	家庭教育オピニオンリーダー会 宇都宮市保育士・保健師、子育てサロン中央アップルハウス指導員：後藤亜希
	河内	子育て広場(親子(乳幼児)でふれあいフィットネス、親子(乳幼児)で七夕まつり、クリスマス、親子(乳幼児)で楽しくバルーン遊び、親子(乳幼児)でビート体操、親子(乳幼児)でリトミック)	1回	フィットネスインストラクターの先生、地域団体の皆さま、大学の先生方、(親子(乳幼児)でビート体操、エアロビック指導員、音楽の先生方
		ワクワク子育て講座(香りとアロマコラージュ でリラックスし、優雅なひととき、お母さんのための絵本読み聞かせ、食育クッキング)	1回	アロマコラージュ療法士、図書館出前講座を活用、家庭料理研究家
日光	日光	乳幼児保護者学級「わんぱく子育て塾」にて、食育簡単パーティークッキング	1回	
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
芳賀	分館	保育園児と老人会の世代間交流（ミニ運動会・お遊戯会）		
壬生	生涯学習館	夏祭り	1回	家庭教育オピニオンリーダー
		クリスマス会	1回	家庭教育オピニオンリーダー
小山	豊田	子どもと一緒に講座	4回	公民館職員
	桑	親子体験教室	4回	料理講師、国際企画交流係ALT/CIRの先生、生け花講師
栃木	西方	粘土細工	1回	家庭教育オピニオンリーダー
矢板	矢板	ヨガ	1回	
塩谷	生涯学習センター	こども祭り	年1回	ジュニアリーダース・町子連
高根沢	高根沢	図書館ご縁まつり	年1回	図書館職員
那須塩原	西那須野	夏祭り	1回	公民館職員
	大山	フェルトでものづくり	1回	外部講師
足利	三重	三重山前育児スマイルパーク・テーマ「七夕飾りづくり、ふれあい遊び、タイ式ヨガ、リズム体操等」	年13回	にし子育て支援センター職員、日本親子タッチケアインストラクター等
	山前	育児スマイルパーク・テーマ「健康教室、バルーンアートとパネルシアター、親子ダンス等」	全13回	歯科衛生士、紙ひこーき、リズム体操講師
		すくすく育児セミナー	7回	市内講師等
	富田	子育てサロン	12回	民生・児童委員
		子育てサロン	毎月1回	地区主任児童委員
	筑波	乳幼児学級「すくすくサロン」テーマ「楽しく遊んで、手形足形アート、歯磨きレッスン等」	8回	羽刈保育所職員、オフィスチーコ、歯科衛生士、地区主任児童委員 等
小学生の保護者				
宇都宮	西	親子レクリエーション	1回	レクリエーション講師（たまごクラブ）
		美術館探検	1回	市美術館職員（館外学習）
		ディンブルアート体験	1回	アトリエ講師（スターアトリエ）
		土器づくり	1回	歴史体験館講師（館外学習）
		スタンドグラス工作	1回	博物館職員（館外学習）
	篠井	館外学習、カラーセラピー 羊毛フェルト	1回	カラーセラピスト：臼井千恵美先生 羊毛フェルト講師：三浦憲子先生
鹿沼	北犬飼	マスマス大会	1回	北犬飼地区青少年育成市民会議
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
壬生	生涯学習センター	夏祭り	1回	家庭教育オピニオンリーダー
		クリスマス会	1回	家庭教育オピニオンリーダー

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
小山	間々田	「母さん同士で交流」	1回	市職員
	生井	みんなで料理	1回	育成会役員
	寒川	親子野外体験学習	1回	公民館職員
	中央	科学実験	1回	小山市博物館職員
		学力向上	1回	県教育委員会職員
		作品作り	1回	手芸教室
		館外研修	1回	鉄道博物館
		男女共同参画	1回	小山市男女共同参画課職員
		スポーツチャンバラ	1回	安納スポーツショップ
	穂積	野外研修	1回	公民館職員
		親子スキー教室	1回	市職員
	桑	親子体験教室	4回	料理講師、国際企画交流係ALT/CIRの先生、生け花講師
		冬休み「冬の星座観測会」	1回	公民館職員
栃木	大宮	のびのび体験広場（しめ縄づくり教室）	1回	地域の高齢者の方々
	寺尾	子どもフェスティバル	1回	子ども会育成会・寺尾地区社会福祉協議会
	国府	ラーズボール卓球（いきいき学級（高齢者学級）、わくわく学級（少年少女学級）合同で開催）	1回	地元の高齢者の皆さん
	藤岡	藤岡こどもフェスティバルプログラム協力	1回	家庭教育オピニオンリーダー会どーなつくクラブ
	西方	にしかた子ども夏まつり、どんど焼き	1回	にしかた子どもネットワーク・公民館職員
		粘土細工	1回	家庭教育オピニオンリーダー
矢板	矢板	ヨガ	1回	
		弁当作り	1回	
	片岡	ちびにこ（味噌づくり教室、体験研修2回、親学習プログラム2回、味噌を使った料理教室、お菓子づくり）	1回	
塩谷	生涯学習センター	こども祭り	年1回	ジュニアリーダース・町子連
高根沢	高根沢	図書館ご縁まつり	年1回	図書館職員
大田原	親園	ミニ門松作り（伝承教室）	1回	
	湯津上	保護者と小学校職員との視察研修会	1回	
那須塩原	厚崎	3校（小学校と中学校）合同子育て講演会	1回	学校の養護の先生
	とようら	保護者向けの視察研修	1回	
	鍋掛	移動教室（市バス利用）	1回	
	東那須野	大原間小学校PTA視察研修会	1回	
		波立小学校PTA視察研修会	1回	
	高林	サマーキャンプ（年1回 6年生対象）	1回	
		親子交流会（年1回、地区内2校の小学生・保護者対象）	1回	
	西那須野	親子工場見学	1回	社会教育指導員
	狩野	移動教室（宇都宮方面）	1回	
	大山	小学校PTA視察研修	1回	ブリティッシュヒルズ
	ハロープラザ	関谷小学校家庭教育学級、大貫小学校家庭教育学級、横林小学校家庭教育学級 ※創作活動、視察研修など	1回	

市町	公民館名	内容、テーマ	回数	講師など
足利	助戸	父親学級・テーマ「パン作り、タッチラグビー、お絵かきプログラミング、クリスマスプレゼントづくり」	4回	足利フラワーパーク職員、足利ラグビーフットボール協会等
		ウォークラリー	1回	
		縁日集会	1回	
	山前	ハイキング	1回	地区観光協会
	名草	夏休みおやこ学級（ポスターの描き方2回、読書感想文の書き方2回、貯金箱作り1回、人権学習1回、金銭教育学習1回、ピザ焼き体験1回）		専門講師、社会教育主事、NPO団体名草里山の会
	三和	坂西父母学級・テーマ「調理実習、かたづけ、ボランティア体験等」	9回	足利製菓専門学校教職員、整理収納アドバイザー、地域の学校ボランティア等
	葉鹿	調理実習・手芸（近隣公民館と合同実施）	1回	栄養士
中学生の保護者				
宇都宮	篠井	館外学習、カラーセラピー 羊毛フェルト	1回	カラーセラピスト：臼井千恵美先生 羊毛フェルト講師：三浦憲子先生
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
小山	中	思春期講座	1回	小山市健康増進課職員
	穂積	親子スキー教室	1回	市職員
栃木	寺尾	子どもフェスティバル	1回	子ども会育成会・寺尾地区社会福祉協議会
	西方	にしかた子ども夏まつり、どんど焼き	1回	にしかた子どもネットワーク・公民館職員
		粘土細工	1回	家庭教育オピニオンリーダー
矢板	矢板	ヨガ	1回	
		弁当作り	1回	
塩谷	生涯学習センター	こども祭り	年1回	ジュニアリーダース・町子連
高根沢	高根沢	図書館ご縁まつり	年1回	図書館職員
大田原	親園	しめ縄作り（伝承教室）	1回	
那須塩原	とようら	保護者向けの視察研修	1回	
	東那須野	東那須野中学校PTA視察研修会	1回	
	西那須野	家族の写真を飾るフォトフレームの作成	1回	
		工場視察研修	1回	社会教育指導員
	ハロープラザ	常根中学校家庭教育学級 ※創作活動、視察研修など	1回	
足利	葉鹿	教育講演会（近隣公民館及び中学校と合同実施）	1回	
高校生の保護者				
市貝	中央	こどもまつり	1回	公民館職員
塩谷	生涯学習センター	こども祭り	年1回	ジュニアリーダース・町子連
高根沢	高根沢	図書館ご縁まつり	年1回	図書館職員

(4) 特色ある家庭教育支援事業について

これまでの回答と重複するところもある。記述された内容については、【資料 24】のとおりである。

【資料 24】記述一覧

- ・子育て広場を月 1 回開催しているが、募集定員を設けず毎回自由参加、当日参加が出来る講座を実施（宇都宮：中央）
- ・地域内に宇都宮大学があることから、大学と連携した企画を盛り込むとともに、工作等の講師には当施設を利用している団体に依頼するなどの連携を図る。（親子で Doing）（宇都宮：東）
- ・近隣高校生（保育士を目指す）によるボランティア交流（宇都宮：西）
- ・「ママのアンガーマネジメント入門講座」で、新しいタイプの子育て支援講座として開催（宇都宮：南）
- ・新家族応援講座。講師に現職の小学校教師や大学教授を迎え、幼児期の発達過程とその発達に必要な生活経験、子どもへの接し方、入学前に家庭で行っておきたいしつけなどを学ぶ。（宇都宮：北）
- ・夫婦で参加が基本。父グループと母グループに分かれて着席し、講座を聴講するほか、同性同士で子育てについて話し合い、共感し合うなどのワークショップも実施（宇都宮：北）
- ・「親子の広場はぐはぐ」事業（宇都宮：平石）
- ・イクメン応援講座：父親の育児参加を促し、父母共通した子育ての知識や技術を身につけるとともに、母親がリフレッシュし心の安定を図る機会を提供（宇都宮：豊郷）
- ・親子ワクワク講座において、親子で体を使って遊ぶことにより子育ての楽しさを知ってもらうとともに、保健師講話を聞くことにより子育ての不安や悩みを解消（宇都宮：国本）
- ・ともそだち広場は、年間を通して同じ受講者で実施しているため、受講者同士の交流が自然な形ででき、情報交換の場（宇都宮：城山）
- ・地区の子どもの家と連携をとって、留守家庭児童が参加できる 1 日体験講座を開講（今年度はセンター工事があるため未実施）（宇都宮：篠井）
- ・ワクワク子育て講座では託児を設け、参加しやすい受講の場を提供（宇都宮：河内）
- ・友好都市の茨城県大洗町での親子しらす漁体験（上三川：中央）
- ・家庭教育オピニオンリーダーの受講者を中心とした子育て支援事業の任意団体「子育て支援グループ ポケット」に家庭教育支援関係事業を委託、実施（壬生：生涯学習館）
- ・新すこやか学級 子育て応援！ママのためのほっとタイム（託児有り）は、ママさんたちと交流しながら心身に癒しをプラスした時間を楽しむ講座（小山：中央）
- ・「ふれあい母さん楽級」として実施する事業のなかで、「親子で遠足」では見学だけではなく、親子と一緒に体験活動を行わせることで親子の絆を深める工夫（小山：間々田）
- ・「チビッコくらぶ」として実施している事業のなかで、親子の体験活動も実施（小山：生井）
- ・子育て広場、絵本でこんにちは、寒川大学（小山：寒川）
- ・「子どもと一緒に講座」2 歳児の親と子がキャラクター弁当等を作ることで、子育て環境を共有すると共に親睦を図る場を提供する講座（小山：豊田）
- ・しめ縄づくり教室（栃木：大宮）
- ・子どもフェスティバル（栃木：寺尾）
- ・不要になった制服のリサイクル活動「制服バンク」への協力（栃木：都賀）
- ・どんど焼きに合わせて実施、「連だこづくり教室」（栃木：西方）
- ・KIDS ワクワク CLUB（幼児～中学生とその保護者を対象とした家庭教育学級）を実施（矢板：矢板）
- ・おひさま教室（乳幼児の保護者向けの講座）（塩谷：生涯学習センター）
- ・図書館を使った調べる学習教室年 3 回図書館職員（親子で図書館の資料を利用し調べる学習を行う）（高根沢：高根沢）
- ・親子による体験活動を中心とした講座の開催（大田原：野崎）
- ・社会福祉協議会が主体となった地域交流の「ゆうあい広場」の際に親子での工作体験を開催（大田原：湯津上）
- ・夏と冬に黒羽 4 地区合同の体験活動を実施（黒羽地区子供会育成会連絡協議会と共催）（大田原：黒羽川西）
- ・公民館の高齢者学級と小学生生徒との交流事業（花苗づくりなど）（大田原：須賀川）

- ・学校を会場として「夏休み親子ものづくり教室」を1回に4種目同時開催（那須塩原：厚崎）
子育て講演会は、管内の小中学校が持ち回りで担当し、講演会の内容、講師選択、運営を公民館とともに実施（那須塩原：稲村）
- ・サマーキャンプは、地区育成会と合同で行う事業で地区内の小学校2校（6年生）を対象に実施。学校間の児童、保護者の交流等を行う。（那須塩原：高林）
- ・中学校においてはPTA研修部役員さん、担当教諭と内容を相談（那須塩原：西那須野）
- ・三島公民館主催事業 ひよこの会（1歳～未就園の子どもと母親が対象で、母親が講座へ参加している間は、ボランティアが子どもの託児を行う。）（那須塩原：三島）
- ・中学校区合同講演会（那須塩原：ハロープラザ）
- ・幼稚園年長から小学校3年生までの親子が一緒に活動することで、親子のきずなを深める活動を実施（佐野：中央）
- ・祖父母、父母、子どもの3世代が交流できるもちつき体験を毎年実施（足利：毛野）
- ・クリスマス会は毎年恒例として、地区の子育てサロン事業と合同で、広く参加者を募って開催（足利：山前）
- ・夏休みおやこ学級は、同じ中学校の学区の小学校3校を対象に小学生とその保護者が学区をこえて一緒に色々なことを体験し、受講生同士の交流も図る事業（足利：名草）
- ・子どもとその保護者、地域在住の高齢者を対象とした三世代交流事業を実施（足利：梁田）
- ・近隣の公民館や中学校と合同で教育講演会を実施（足利：葉鹿）

(5) 家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていること（自由記述）

内容については、【資料25】のとおりである。

【資料25】記述一覧

- ・乳幼児講座に適する内容や時間の設定と子どもの安全確保が課題。（すくすく子育て講座）
- ・小学生の親子を対象としているため土曜日の日程で実施しているが、学校の行事等と重なる事が多くあり、苦慮している。（親子でDoing）
- ・共働きなどで多忙な親や育児に関心が低い親に、より多く参加してもらうことが課題であると感じている。
- ・体を動かす内容や、季節の行事には積極的に参加しようとするが、講話などではなかなか集中できていない保護者が見受けられる。親子で楽しく学べるような講話にする工夫が必要であると感じている。
- ・乳幼児を対象とした講座はニーズがあり、離れた地域の参加者も多い。
- ・小中学校の保護者を対象とした講座は、日中、親は働きに出かけており、夕方は家事などで参加者が定員数に及ばない。
- ・土日にも習い事等で親子ともに参加する事が難しい。
- ・生涯学習館の管理運営で手いっぱい状態。ポケットへの事業委託で体裁を整えているのが実情であり、現状の維持に終始している。
- ・アンケートでも親子で学べる講座、また体験できる講座の要望が多く、実際の応募も非常に多い。今後も親子で同じ体験や時間を共有しながら、学ぶ楽しさや、できる喜びを体感してもらうことを目的とし、親子のふれあいの時間を有意義に過ごしてもらうように継続する。
- ・託児有りの講座はお母さんが安心して、また集中して体験、参加出来ると好評。
- ・当地区においては、数世代が同居する農村部がある一方で、一戸建て住宅の建築が進み、核家族化が急激に加速している。そのような中において、育児や子どもの教育に対する不安を感じている親、あるいは感じることをしない無関心な親を対象に、公民館が家庭教育に関する学習機会の提供をしたり、同じ環境にある親同士あるいは子育て経験者との交流の場を設けたりするなどして、支援していくことは今後ますます必要なことと考える。
- ・子育てに関する悩みの解消の一助となり、参加者相互の交流も深まり、その効果は大きい。また事業を行う上で、小学校低学年の保護者を対象としているが、就学前の兄弟等がいる方も多いことから託児ボランティアの役割は重要であることを感じている。

- ・小学生の親だけが参加して行う家庭教育事業では、参加数が少ないので、親子で体験という形を多く取り入れている。小学生の親の場合、子ども共々参加して楽しんで学んでいる。
- ・社会の核家族化が進む中で、無縁社会を作ることのないよう、家族以外の他者と知合い、状況を共感することで繋がりを広げていけるような場を提供することが、現在の公民館に委ねられている立ち位置かと思う。親子で公民館事業に参加することで、親達の社会連携を育めるだけでなく、子どもたちが成長していく中でのコミュニケーションを図る一役を担う場所として公民館が存在しているということを意識づけしていくことで、成人してからも公民館リターナーという利用者になり、コミュニティを形成できるようになると考えている。そのため、公民館はニーズの把握及び情報の発信だけでなく、地域コミュニティの拠点となるよう働きかけていくことが、これからの重要課題となり、公民館の在るべき意義と考えらる。
- ・たくさんの保護者に参加してもらえるよう、実施日を土日に設定しても、保護者のみの開催では参加者が少ない。
- ・親子学級、にこにこひろば（未就学児学級）を開催し、親子での活動、保護者同士の交流の場を提供している。育児の孤立化を防ぎ、育児に対する不安や悩みを軽減・解消できる場所となり、地域コミュニティの拠点となるような公民館であることが望ましいと考える。
- ・学級を夏休み期間中や休日に実施したが、参加者が少なかった。魅力ある学級の内容を考える必要があると思う。
- ・市内にいる家庭教育オピニオンリーダーや親学講座修了生等を効果的に活用したい。
- ・受講者の数が少なく、開催できない状況がある。
- ・家庭教育支援事業においては、生涯学習課、公民館、こども福祉課、児童館、健康増進課等々、様々な部署で実施しており交通整理が必要ではないかと思う。
- ・家庭教育支援が必要な保護者の方は、なかなか参加してくれない。
- ・公民館活動が少しでも家庭の中で、きっかけや気づきにつながればいいと思う。
- ・参加を促進するPR活動は充分に行っているが、参加者が少ない。その理由としては、学校行事・部活や習い事等で児童や保護者の多忙化があり、参加できない状況である。
- ・講座を開催しても参加者が少ないのが実情。そのために親子ものづくり体験（水ロケット、竹とんぼ、からくりおもちゃ作り等）を通じ技能への理解を深めている。今後も学校では体験できない「もの作り体験」をさせてあげたい。
- ・学校の行事予定で実施しているため、十分な時間が確保できない。しかし、独自でやるとなると人が集まらない。
- ・学校を3校（小学校2と中学校1）担当しているが、同じ中学校区の小学校でも考え方などが大きく違って温度差が大きい。
- ・親子体験講座、子育て講演会の参加者が年々少なくなっている。（内容は、役員の保護者と決めているのにもかかわらず）
- ・人数集めに苦労している。
- ・SNS等の普及に伴い顔が見えない相手との会話すら可能になっている今の状態は、逆に目の前にいる相手との意思の疎通を難しくしている一面もある。
- ・本事業の目的は、親子や子ども同士での交流をとおしたより良い人間関係の育成を図ることにあり今後も、地域交流の輪を広げていきたい。
- ・年々働くお母さんが増えていることもあり事業への参加人数が減ってきている。また、学校の部活動に入っている子も多く休日などの事業は、子どもたちの参加も難しくなっている。
- ・参加者の家庭教育支援事業への認識が薄く、本来の目的を果たせない場合が多い。
- ・働いている保護者が多いので、企画する時期・時間が難しい。
- ・保護者の総数が少ないこともあり講演会に出席する保護者が少ない。
- ・小規模校が多いので、保護者はおおむね協力的で、役員さんも積極的に動いてくれている。
- ・公民館の利用者は、子育てなどから離れた高齢者が多く、家庭教育支援事業の参加者はそれほど多くない。
- ・男性の保護者の参加が少ない（ほぼない）。
- ・親子で一緒に楽しみながら学び、学校では経験できないような内容の講座を企画・運営できるよう心掛けている。
- ・乳幼児期を過ぎると、極端に需要が減ってしまう傾向があり、参加者集めに苦慮している（特に父親）。

- ・ 堅い内容ばかりだと参加者が集まらないので、内容と参加者集めのバランスを取るのが難しいと感じている。
- ・ 近隣の小学校及び中学校と密に連携することにより、社会教育と学校教育が相互に補完し合い、より高い次元の学習効果を生み出すことができると考えている。

3 まとめ

ここでは、県内の市町公民館等のうち回答のあった 107 の公民館等に対して家庭教育支援事業として行っていることについて質問した調査から明らかになったことをまとめる。

(1) 公民館等で行われている学習機会の提供について

子どもの年代別の保護者への学習機会の提供については、「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、小学生の保護者を対象にした学習機会の提供が最も多く 6 割弱だった。次いで幼児の保護者を対象にした学習機会は 5 割、乳児の保護者を対象にした学習機会は 4 割であった。中学生の保護者を対象にした学習機会は 2 割で、それ以外の年代の保護者への学習機会は、1 割以下で非常に少ない。【図 20】

実施している内容やテーマについては、乳児の保護者へは「リトミック」や「タッチケア」などのような子どもと一緒に活動しながら学習を進める内容が多かった。幼児の保護者へは、「リトミック」などに加えて、「人形劇」や「わらべうた」などの歌遊び、「絵本の読み聞かせ」などが加わっていた。また母親対象に、保健師による食育や子どもの発達などの講話を聞いたりする内容も見られた。さらには、講座中に随時相談ができるように相談員がいるところもあった。小学生の保護者へは、「子どもと一緒に体操教室」や「工作」などもあるが、親を対象に「親学習プログラム」を行っているところもあった。中学生や高校生の保護者へは、講演会が中心だった。子育てを終えた世代には、「孫育て講演会」や「保育園の祖父母参観日」などの講座が行われていた。【資料 20】

これらのことから、公民館等で行われる事業は、乳児～小学生の保護者を中心に、子どもの成長段階や発達に沿った内容を提供している様子がわかった。また、乳児～小学生までの事業では、家庭教育オピニオンリーダー等が多くの機会に講師となって行っていることがわかった。

(2) 公民館等で行われている相談機会の提供について

保護者への相談機会の提供については、乳児と幼児の保護者を対象にした提供が 2 割以下で、実施している内容については、乳児の保護者、幼児の保護者とも検診時や子育てサロン等の活動に合わせて保健師や家庭教育オピニオンリーダー等が相談を受けていた。それ以外の世代の保護者向けのは、ほとんど行われていなかった。また、障害がある子の保護者、外国人の保護者、貧困等の保護者への相談機会はなかった。【図 21】【資料 21】

このことから、公民館が主体となつて行う単独の相談機会は少ないが、活動と組み合わせたり、活動の最後に相談機회를設けたりするなど、気軽に相談できる機会を提供している様子が伺える。

(3) 公民館等で行われている体験活動、交流機会の提供について

子どもの年代別親子の体験活動の機会については、小学生の親子を対象にしたものが 6 割強で最も多く、次いで幼児や乳児の親子への提供が 2 割程度であった。実施している内容やテーマについては、小学生の親子へは、「料理」や「スポーツ」、「工芸」、「農業、林業体験」などの内容が多くみら

れ、講師には、林業振興会や市の美術館職員、博物館職員、地域の学校ボランティア等の身近なところにいる専門家を講師に招いて行っているものが多かった。乳児や幼児の親子へは、「リトミック」などふれあいながら体を動かすものや「七夕まつり」などの季節を感じる行事等の内容が多くみられた。また、家庭教育オピニオンリーダー等が講師となって行っているものがみられた。【図 22】【資料 22】

保護者同士、異世代間の交流機会の提供については、小学生の保護者同士の交流機会の提供が3割で最も多く、次いで、幼児の保護者が2割程度だった。実施している内容やテーマについては、どの世代でも「スポーツ」や「粘土細工」、手芸、工芸などがあがっていた。記述からは、高校生がボランティアとして乳児や幼児と交流している様子も見えてきた。また、交流機会の提供を実施する館は少なくとも、記述の内容等は多数上げられていた。ここでも乳児～小学生の保護者対象のもので、家庭教育オピニオンリーダー等が講師となって行っているものがみられた。【図 23】【資料 23】

(4) 各公民館における特色ある家庭教育支援事業について

今回、回答のあった公民館等全てから記述があるわけではないが、各公民館で近隣の施設、団体と連携するなど地域の特性を生かした内容を工夫して実施していることが読み取れた。【資料 24】

(5) 自由記述について

家庭教育支援事業を進める上で日頃感じていることについては、公民館等の担う役割として、また地域や家庭により近い行政機関として、参加者を集めるのに苦労しながらも現在の家庭教育を取り巻く状況をよく把握して、事業を進めている様子が見えてきた。【資料 25】

第5章 市町、公民館等における家庭教育支援事業に関するヒアリング調査の結果

1 調査方法等

(1) 調査対象

市町教育委員会における家庭教育支事業に関する取組状況調査と、公民館等における家庭教育支援事業に関する取組状況調査から、特色ある取組をしている事例の中で、7教育事務所管内1～2か所でヒアリング調査を行った。

(2) 調査内容

事業を始めたきっかけ、活動内容、成果と課題を中心にヒアリングを行った。

(3) 調査方法

ア ヒアリング先

	No	ヒアリング先
市町教育委員会生涯学習課等	1	真岡市教育委員会生涯学習課
	2	壬生町教育委員会生涯学習課
	3	さくら市教育委員会生涯学習課
	4	那須塩原市教育委員会生涯学習課
市町の公民館等	5	宇都宮市 豊郷生涯学習センター
	6	宇都宮市 姿川生涯学習センター
	7	鹿沼市 北押原公民館
	8	壬生町 生涯学習館
	9	矢板市 矢板公民館
	10	那須塩原市 ハロープラザ
	11	足利市 梁田公民館

イ 調査期間

平成29年11月～平成30年1月

2 結果

(1) 市町教育委員会生涯学習課等（敬称略）

事例1 各中学校単位で実施する思春期講座

市町	真岡市教育委員会生涯学習課
事業	市内の全中学校で実施する思春期学級

1 事業を始めたきっかけ

真岡市では、中学生の子をもつ保護者を対象にした思春期学級を、中学校単位で実施している。この事業は、平成15年度から平成19年度まで行われた文部科学省委託事業の家庭教育支援総合推進事業の中の思春期子育て講座の実施に始まる。平成20年度からは市の単独予算になり、各中学校で年1回、保護者会や参観日などの機会をとらえて、思春期の子育てに関する講座を学校の要望に合わせたテーマや講師を呼んで行っている。参加者には、子どもや家庭のこと、自分のことを考える機会を見つけてほしいと願っている。

2 活動内容

家庭教育学級（思春期学級）では、子どもをもつ保護者などを対象に、一定期間家庭教育に関する学習を行い、社会を見る目を養い、人としてのあり方を見つめ直すとともに、子どもの理解する力と心を育てている。家庭教育学級（思春期学級）に参加して、子どもや家庭のこと、自分のことを考える機会を見つけてほしいというねらいのもと、各学校で行事等に合わせ実施している。実施している主な内容は、思春期子育て講座、教育講演会、立志式記念講演会、ネットいじめ防止研修会、ふれあい学習デリバリー講座、生き方講話、薬物乱用防止教室、親子学び合い事業（携帯電話講習会）、などである。学校が中心となって運営し、保護者と生徒が一緒に参加している。



思春期子育て講座



P T A教育講演会



立志式記念講演会



教育講演会・ネット
いじめ防止研修会



教育講演会・思春期
子育て講座



生き方講話



思春期講座



親子学び合い事業
(携帯電話講習会)

行政としては、年度初め（５月）に担当国会議を行っている。前年度の講師一覧などの資料を配布し、各学校で活用できるよう情報提供をしている。事業実施中から実施後は、市内の全学校統一のアンケートを作成し、集計を行って学校へ結果を送っている。回収・集計に関しては担当者が行い、学校の負担軽減を図っている。年度末には、各学校から提出された実施報告書をまとめて次年度の活動に生かしている。

3 成果と課題

○成果

- ・各学校単位で行っているので、保護者のニーズに合った活動ができている。
- ・学校の実情に合っているので、充実した事業となっている。
- ・保護者にとって毎日のコミュニケーションを振り返る良い機会となっている。
- ・思春期の子どもをもつ親の関わり方のヒントとなっている。
- ・生徒だけでなく、保護者にとっても有意義な時間となっている。
- ・アンケートから家庭教育に対する意識の向上が見られるようになってきている。
- ・講師の選定をするときなどは、学校間での担当者による話し合いがされ、学校間のネットワークづくりができている。

○課題

- ・思春期学級への保護者の参加率が低い。
- ・実際に話を聞いてほしい保護者が参加をしてくれない。
- ・活動が学校単位なので、それぞれの学校ごとに課題がある。

4 その他

○今後の活動

- ・中学校ごとに思春期学級という形式で、継続して行っていく。
- ・担当国会議の際に、説明・伝達だけでなく、指導主事等に参加してもらい、さらなる啓発を行っていく。

（調査協力：真岡市教育委員会生涯学習課 主事 田中佑季）

事例2 切れ目のない家庭教育支援の工夫

市町	壬生町教育委員会生涯学習課
事業	子育て・親育ち講座

1 事業を始めたきっかけ

平成13年度より、家庭の教育力の向上ならびに、地域全体で子どもの育ちを支える環境作りをねらいとしてスタートした。核家族化や人間関係の希薄化等により、子育てやしつけについての悩みを抱え孤独感を感じている保護者の増加や、家庭の教育力の低下が指摘されている。こうした状況を踏まえ、小・中学校や保育園・幼稚園、各地域団体、庁内関係部局等との協働により、様々な機会を利用して、家庭の教育力向上を図るための講座や、保護者同士のゆるやかなつながりを構築するための講座等を開催している。

2 活動内容

講座の種類		対象	主な内容等
① 小・中学校における講座	就学時健康診断時を活用した講座	新入生保護者	壬生町家庭教育支援チームによるワールドカフェ形式での保護者交流会 等
	小学校3年生の子をもつ親のための講座	小3保護者	壬生町家庭教育支援チームによる参加型学習、親子物づくり体験、親子料理教室、子育てに関する講話 等 
	思春期の子をもつ親のための講座	小6保護者 中学生保護者	思春期に関わる講話、親子での体験活動 等 
② 保育園・幼稚園における講座		園児の保護者	物づくり、運動、音楽、自然等、親子での参加型学習

③ 各地域団体との協働による講座 (公民館係との連携・協力)	団体の構成員 希望する保護者	子育て支援グループ、学校栄養士会による クッキングスクール、学童野球、スポーツ クラブ関係者を対象にした講話(男性を主 なターゲットにしている) 
④ 子ども未来課との協働による講座 (子育て支援センター・児童館との連 携・協力)	乳児保護者 未就学児保護者 中学生・高校生 等	読み聞かせ、子育てに関する講話、親子ビク ス教室、未来の親となる中・高生を対象にし た赤ちゃんとのふれあい交流体験、手作りお もち教室 等

3 成果と課題

○成果

- ・多くの保護者が集まる様々な機会に併せて開催したり、各地域団体が予定する研修会等に併せて開催したりすることで、参加率がとても高くなっている。
- ・学童野球の抽選会に併せて開催することで、男性も講座に参加してもらえる。
- ・同じような悩みを持っている保護者が多く、親の持つ思いを共有できる場となっており、好評を得ている。
- ・子ども未来課や関係機関との協働で実施することで、幅広い対象者に対して、充実した講座を提供することができている。また、講座実施における業務の役割分担を明確にすることで、効率よく実施できている。

○課題

- ・父親の講座への参加を促すために、土曜日や夜間に開催するなどの工夫をしているが、まだまだ少ないので、さらに参加率を上げられるような工夫が必要である。
- ・特に小学校では3年に1度、講座を受けることになり保護者の参加率も高いので、マンネリ化防止のためにも、講座の内容を吟味する必要がある。

4 その他

○今後の活動

それぞれの子どもの発達時期に合わせた内容の講座を提供していきたい。今後も、幼少期から思春期までを一連の流れと捉え、切れ目のない支援をしていく。

父親の参加率を上げるために、父親も参加しやすいような講座を今後も年に一つ二つ考えていきたい。
(調査協力:壬生町教育委員会生涯学習課 主幹兼社会教育主事 安武裕一)

事例3 行政と社会福祉協議会、NPO と協力した取組

市町	さくら市教育委員会生涯学習課
事業	ひだまりふあんの会との連携について

1 事業を始めたきっかけ

「ひだまりふあんの会」は、「子育ての『ふあん（不安）』を小さくして、子どもたちの『ファン』をたくさん増やそう」ということで、平成20年に設立した。きっかけの一つは、発達障害のあるお子さんを育てているお母さん達が相談したり、悩みを共有したりできる場や同じ悩みをもっている親同士で気軽に相談できる場が欲しいという声だった。もう一つは、以前から家庭教育に関する意識が高かった「NPO とちぎ障害者労働自立センターゆめ」側から上松山児童センター（社会福祉協議会）コーディネーター支援員さんに声をかけたことだった。その際、学校側との連携も必要ということで、さくら市教育委員会生涯学習課も関わることになった。

2 活動内容

保護者の心の面での支援を目的とする。具体的には、子育てに不安のある保護者を対象としたカウンセラーへの相談をとおして不安を軽減したり、同じ悩みをもつ保護者の情報交換の場や仲間づくりをしたりすることで、孤立しがちな保護者の居場所をつくっている。また、学校教育課やスクールソーシャルワーカー（SSW）等との連携を図り、問題の早期発見・早期対応につなげている。

設立当初から変わらずに NPO とちぎ障害者労働自立センター代表と子育て支援員の二人が、相談員として活動している。無理に参加を促したり、解決しようとしたりせず、あくまでも相談者の側に立って気軽に参加できるように、相談者が参加しやすい雰囲気づくりと参加しやすい相談体制づくりを心掛けている。

3 成果と課題

○成果

- ・ 毎回3、4組の参加がある。ただし、参加者が固定されてきている面もある。
- ・ 参加者からは、他の参加者の話を聞いて、自分一人ではなく同じ悩みを抱えている方がいることを知り、居場所があると感じたり、子どものよさに気づくことができたりした、という声がある。
- ・ 近所の参加者同士で交流をしていた時もあった。
- ・ 要望もあったので、「上松山児童センター」「氏家公民館」だけではなく、「氏家児童センター」での開催も予定している。

○課題

- ・リピーターが多いので、新規の参加も促していきたい。
- ・本当に困っている人が参加していない。目を向けさせることが大切だと感じている。
- ・広報活動に工夫をしたい。例えば、ポスターやカードの配付（公共施設はもちろん、小児科や産婦人科にも置いてもらう）、校長会等で説明して、保護者に周知してもらえるように依頼する。



4 その他

○今後の活動

- ・現在も、学校教育課（指導主事、SSW など）との連携を図っているが、今後は健康増進課や児童課、市民福祉課などとの連携も模索していく。例えば、健康増進課主催の健康診断等で気になるお子さんをピックアップすることもできる。また、さらに具体的な支援が必要となっていくこともあるかもしれないので児童課との連携も重要となると考えている。
- ・現在は、児童センターや公民館などで実施しているが、各小学校（要望があれば）などに訪問することも視野に入れている。
- ・家庭教育支援チームとの連携の強化を図りたい。
- ・予算取りや会場の工夫も大切だと考えている。加えて、曜日や場所を変える試みも行っている。

（調査協力：さくら市教育委員会生涯学習課 副主幹兼社会教育主事 高瀬亮、
社会教育指導員 上野幸子）

事例4 保健福祉部局との連携

市町	那須塩原市教育委員会生涯学習課
事業	母親学級における親学習プログラムの実施～生涯学習課と健康増進課が連携した取組～

1 事業を始めたきっかけ

生涯学習課と健康増進課が連携したこの取組は、平成20年度より実施している。

それまで、生涯学習課では主に小・中学校の保護者を対象とした家庭教育支援として、PTAとの共催や家庭教育学級などによる家庭教育講座を開催していた。また、平成19年度からは、就学前の保護者を対象とした就学時健康診断時に親学習プログラムの実施を始めた。一方、健康増進課においては、主に妊娠期、出産時、子育て期の保護者を対象とした、「母親学級」を実施していた。

そのような中、生涯学習課では、親学習プログラムの活用を拡大できないかと検討していた。そこで、健康増進課が実施している「母親学級」で親学習プログラムを実施できないか提案をした。これに対して健康増進課では「妊婦やパートナーになるための自覚をもってもらう」「妊婦さん同士の仲間作りの場」として効果があると考え、生涯学習課と健康増進課が連携した「母親学級」を行うことになった。

2 活動内容

母親学級の目的は、「①妊娠・出産・育児に関する正しい知識を提供することで、健康の保持増進を図るための望ましい生活習慣に関する意識を高め、自己の健康に限らず家族の健康づくりにつなげる。②赤ちゃんとの生活をイメージすることで、親となる心構えを学習し、安心して育児ができるようにする。③多様化した妊婦の健康問題をとりえ、不安や孤立感なく妊娠から子育て期を過ごせるよう、またひいては乳幼児虐待防止につながるよう支援する場とする。」であり、内容は第1課から第3課で構成されている。

第1課「ママと家族の健康づくり」（保健師・栄養士）

①妊娠中からの健康づくり ②妊娠中から気をつけたい健康的な食生活とは

第2課「赤ちゃんのために妊娠中からできること」（保健師・歯科衛生士）

①生まれてくる赤ちゃんについて（・成長と発達 ・赤ちゃんが泣くということ）

②ママと赤ちゃんの健康な歯を育てよう ③健康相談

第3課「産後のイメージづくりとみんなでトーク」（生涯学習課職員・保健師）

①「赤ちゃんのいる産後の生活をイメージしよう」（生涯学習課による「親学習プログラム」）

②産後のママのこころとからだ ③健康相談

第3課で、親学習プログラム「赤ちゃんのいる産後をイメージしよう」を取り入れ、生涯学習課職員やオピニオンリーダーがファシリテーターとして、プログラムを展開している。また、参加者が親学習プログラムに抵抗なく参加できるよう、第1課でチラシを配布し、親学習プログラムの説明やパートナーへの呼びかけも行っている。



ワークショップの様子

毎年2月には、生涯学習課と健康増進課で、実施した内容について意見交換を行い、次年度に向けてプログラム内容等を検討している。

3 成果と課題

○成果

<健康増進課>

- ・座学だけではなく動き（アイスブレイク・ワークショップ等）があることで、参加者が飽きずに取り組むことができる。
- ・それまでは妊娠期、出産、産後1～2か月の期間に着目した内容だったが、親学習プログラムを取り入れたことで、妊娠から出産、子育て期を通して広い視野で今後のライフステージをイメージするきっかけとなっている。
- ・保健師ではない生涯学習課の職員が講義をすることで、新鮮な気持ちで話を聞いてもらえた。

<生涯学習課>

- ・生涯学習推進プランの施策である「家庭教育」の推進につながる。
- ・家庭教育オピニオンリーダーとの連携を図る機会となっている。
- ・親学習プログラム実施により、「他のお母さんの話が聞ける」「知り合いが増える」など、ネットワーク作りの一助となっている。
- ・チラシの配布で、パートナーの参加も増えている。



チラシ



親学習プログラムに参加するパートナーの様子

○課題

- ・パートナーの参加率をあげていきたい。また、ふりかえりの中で、「父親になるための準備をしないといけないと感じた。父親を教えてくれるプログラムもあればいい。」との声があることから、男性向けの内容も考えていく必要がある。
- ・年を重ねるごとに、オピニオンリーダーと妊婦との年齢差が広がっている。妊婦の年齢に近い、若い世代のオピニオンリーダーも開拓する必要がある。

4 その他

○今後の展開

参加者のふりかえりを読むと「周りに相談する相手がいないので、話せて良かった」「同じことで悩んでいる人がいて良かった」などがある。この母親学級でせっかくできたネットワークも、1回限りのワークショップで終わってしまっているのので、このネットワークをオピニオンリーダーがやっている子育てサロンにつなげたり、ネットワークを広げていけるような活動に発展したりできるような仕掛けを考えていきたい。

（調査協力：那須塩原市教育委員会生涯学習課 副主幹・指導主事兼社会教育主事 高山貞徳）

(2) 市町の公民館等（敬称略）

事例5 父親を対象とした講座

市町・公民館等	宇都宮市 豊郷生涯学習センター
事業	イクメン応援講座

1 事業を始めたきっかけ

2014年に保健福祉部局から声がかかり、父親の育児参加を促す目的で取組がはじまった。2014年は、保健福祉部局の予算で行ったが、2015年からは、生涯学習課の予算で事業を行っている。現在は、計画から実施までを生涯学習センターの担当者が主体となって行っているが、講座の内容によっては、保健福祉部局に講師を依頼したり、講師を紹介してもらったりするなどの連携をしている。

2 活動内容

家族で参加してもらい、父親と子どもには、リトミックやエアロビクスなど体を動かしながら遊ぶ活動内容を行っている。母親には、講話やストレッチ体操等のリフレッシュできるような活動と、市の保健師による乳がんに関する内容や、歯磨きの仕方（親や乳幼児）などの内容を行っている。子どもは父親に任せて、母親は講座に集中できるように工夫をしている。

また、市の保健師や相談員が待機していて、父親・母親のどちらからでも随時、悩み等の相談を受けられるようにしている。相談員は、登録者や元幼稚園教諭などが担当してくれていて、活動の場と一緒にいるので、活動をしながら相談することも可能である。

〈工夫している点〉

父親が安心して子どもと活動に関われるように、場の雰囲気作りに力を入れている。

- ・子どもが寝たい時に横になれるようなマットを床に敷いたり、畳の部屋を確保したりする。
- ・衛生面の準備（掃除や消毒、救急箱やウエットティッシュの準備）をする。
- ・予定していた講座が早く終わってしまった場合に備え、消耗品費などの予算はないがお金をかけないで作れるおもちゃを準備し、母親の講座が終わるまで間を持たせる工夫をしている。



父親の講座 エアロビクスをしている様子

3 成果と課題

○成果

好評で、すぐに定員に達してしまう。今年で4年目になり、上の子どもの時に参加した経験者が、下の子どもの時にもリピーターとして参加している人もいる。この事業に参加することで、父親同士のネットワークができていく様子がみられる。母親対象の講座と比べ、広域から参加者が集まっている。

父親は、積極的に講座に参加してくれている。年々、子どもとの関わりが上手な父親が増えていて、講師からも好評であり、主催側も事業を進めやすい。

○課題

この事業は、自主事業ではあるが、貸し館での利用が多い所なので、部屋の確保が難しい。また、子どもの生活リズムに合わせて、休む場所などを確保しておくことが参加者のリラックスにつながり大切になってくるため、事業日は、他の団体への貸し出しを行わないようにしている。

子どもの体調不良等で当日欠席もあり、材料費がかかるような講座の実施は難しい。できるだけ参加費無料の内容にしている。

4 その他

○今後の活動

センター周辺からの参加者を増やすためにも、来年は、地区の行事が盛んな時期（9、10月）を避けて、イベントが重ならないように行いたい。また、近くで連携できる機関等を探している。別の事業では、帝京大学が地域貢献に積極的なため、優先的に講座の講師を担当してもらえ助かっている。同様のつながりが、地域内の他の機関等とできるといいと考えている。

（調査協力：宇都宮市豊郷生涯学習センター 主任 佐藤有美子）



父親の講座

（上）リトミックをしている様子

（右上）講座修了後、母親の講座が終わるのを待つ間の様子

母親の講座

（右）ストレッチ体操の様子



事例6 保健福祉部局との連携

市町・公民館等	宇都宮市 姿川生涯学習センター
事業	親子ふれあい広場

1 事業を始めたきっかけ

姿川地区市民センターにおいては、親子を対象にした講座を保健福祉グループで実施していたが、生涯学習事業として取り組む必要性があることから、平成28年度よりまちづくり支援グループ（生涯学習担当）と保健福祉グループが連携して、「親子ふれあい広場」講座を実施していくこととなった。

2 活動内容

ベビードダンスや親子スキンタッチ、乳歯のお手入れなどの乳児向け講座（前期・後期で各3日間の日程）と、臨床心理士による講話や親子でズンバなど幼児向けの講座（前期・後期で各2日間の日程）を実施している。受講生の応募は乳児編前期・後期及び幼児編前期・後期でそれぞれ行っている。

幼児向け講座の講話の受講に際しては、託児も扱っている。（市の保育士OBなどに依頼）

3 成果と課題

○成果

講座の各回の企画・受付・当日運営は生涯学習担当と保健福祉担当が分担しているが、担当者間で情報共有しながら連携して取り組んでいる。

事業に係る予算や文書起案等の事務処理関係は、まちづくり支援グループ（生涯学習担当）が担当しているが、受講生募集に係る周知案内においては施設内における案内チラシ掲示の他、保健福祉事業関連各施設への案内周知や検診事業等の際に受講条件を満たす対象の方に案内チラシを配布するなど保健福祉グループ担当者による周知を行っている。

その結果として、募集初日でキャンセル待ちになることもあるなど、受講者数は常に定員数を確保できており、各回とも多くの受講生が参加し、アンケート結果からも充実した旨の回答が多く寄せられ、子育てを支援する目的を十分に達成できており、連携して取り組んでいる効果を感じている。

○課題や気を付けている点

講座の企画・運営にあたり、講座の目的・効果が十分得られるよう役割分担を確認しながら情報共有し取り組んでいく。

4 その他

○今後の活動

連携して取り組むことにより、充実した講座の企画運営に繋がっていると思われる。他施設における生涯学習事業や子育て支援事業の情報を取り入れながら、より連携を強化し活動を継続していきたいと考えている。

（調査協力：宇都宮市姿川生涯学習センター 専任（社会教育主事） 滝沢明弘）



ベビーダンス（乳児編）



親子でズンバ（幼児編）



イヤイヤ期とうまくつきあうコツ〔講話〕（幼児編）

事例 7

市町・公民館等名	鹿沼市北押原公民館
事業名	「子育てサロン ポニー」の活動

1 事業を始めたきっかけ

平成 20 年、北押原地区福祉活動推進協議会から子育てサロンづくりの依頼があり、事業立ち上げの検討を考え始めた。事業化するまでに時間はかかったが、平成 22 年 4 月に、主任児童委員を中心に民生委員、ボランティア、そして教育委員会の協力により派遣された保健師を加えて「子育てサロン ポニー」を立ち上げた。現在、主任児童委員 2 人、民生委員会長 1 人、民生委員副会長 2 人、保健師 1 人、ボランティア 2 人の計 8 人というメンバー構成で、月 1 回（第 1 水曜）10:00～11:30 の子育てサロンを運営している。

2 活動内容

子育てサロンの活動をととして、親子のコミュニケーションの場の提供、親の子育ての悩みを解消できる場の提供、「楽しい」空間の醸成を行っている。参加者には申込書を記入してもらい、参加者への継続的支援ができる体制を整える。

組織に保健師を配置していることは大きな特徴である。多動や身体の成長の遅れがある子どもをもつ親に対して、活動しているメンバーは聞き役に徹し、話をする役目である保健師に繋げている。それは、単にボランティアが経験で相談に乗るのではなく、保健師という資格を持つスタッフが支援することで、親がより安心して相談できかつ適切な支援のできる体制を整えておきたいという思いからである。また、外部機関に繋げる必要性があると判断される場合には、できる限りコミュニケーションを積み重ねて信頼関係を築いた後、話をするようにして、親の心に寄り添った活動にしている。プログラムは月別に応じてアイディアを出し合い、手作りを基本としている。

3 成果と課題

○成果

- ・子どもたちだけでなく、親たちが楽しい空間を作ることで、また足を向けてもらえるようになり、適切な支援につながる。親の心の中に「安心感」が生まれている。
- ・口コミで評判が広まり、北押原地区に限らない親子が集まっている。また、兄弟で参加する親子も多い。

○課題

- ・参加者の年齢（月齢）に合わせたプログラムの精選。
- ・勤めてしまうと難しいが、参加しているママに運営側にまわってほしいので、卒業していく際には、声を掛けている。

4 その他

○今後の活動

- ・組織の中で、1人ひとりが責任と自信を持って活動できるよう、代表は3年で改選している。

(調査協力：子育てサロン ポニー 兼目千恵子)



親子体操



ブロックで遊んじゃおう



大きな落下傘だよ～

事例 8 家庭教育オピニオンリーダーとの連携

市町・公民館等	壬生町 生涯学習館
事業	家庭教育支援団体「壬生町子育て支援グループ『ポケット』」の活動

1 事業を始めたきっかけ

栃木県の家庭教育オピニオンリーダー研修修了者が地域で活躍できる場をつくることを目的の1つとして、町の家庭教育支援事業の一環として約20年前に子育て支援グループ「ポケット」への委託事業がスタートした。

2 活動内容

各活動は、未就学児の子とその保護者を対象として実施されている。保護者の悩み相談や保護者同士の交流の場をつくること、子どもの育成を目的とする。委託事業なので壬生町子育て支援グループ「ポケット」に実施内容や運営は全て任せている。生涯学習館の職員としては、開催会場の確保等の側面的支援を行っている。

【H28年度の活動内容】

事業名	実施回数等	主な内容等
親子ふれあいサロン	毎月1回 計12回実施	歯の話、夏祭り、わくわくクッキング、気を付けたい冬の病気、ダンボールで遊ぼう、クリスマス会、リズム遊び、人形劇 等 
すくすく広場	5月～2月の間約月1回 計9回実施	作ってあそぼう、本物のスイカ割り、お部屋の中でおいもほり、えいごで楽しくリトミック、おえかきパズルであそぼう 等 

ポケットカフェ	毎月第1・2・3木曜日 計32回実施	保護者同士の交流の場の提供、子どもたちへの絵本の読み聞かせ 等 
ポケットファンタジー	6月、9月、2月 計3回実施	人形劇、大型絵本、紙芝居 ピエロさんとバルーン、紙芝居 歌とお芝居、紙芝居 等 

3 成果と課題

○成果

参加している方からの評判はとてもよい。母親同士のつながりの場を提供できている。中学生ボランティア（ふるるみぶ）が、夏祭りに参加してくれるようになった（H28年度は20人、H29年度は約35人）

○課題

新しい参加者の掘り起こしが課題である。また、「ポケット」の活動を知らない人がまだ大勢いるので、広報活動に力を入れる必要がある。町の広報誌にも活動の全てが載せてあるわけではないので、新たな広報の方法を考える必要がある。

また、後継者問題も含め、「ポケット」の運営に関わる新たなメンバーが必要である。利用者の立場としての声を知るためにも、特に、子育て世代のメンバーがほしい。

4 その他

○今後の活動

「ポケット」のメンバー確保に関連するが、親学習プログラム指導者研修や家庭教育オピニオンリーダー研修に参加する人を増やす必要がある。しかし、団体と行政の連携、行政内の連携や分業が曖昧な部分がある。課題でもあるが、後継者の育成に行政が関わっていく必要があるかもしれない。
（調査協力：壬生町生涯学習館 主幹兼生涯学習係長 笹崎明）

事例9 切れ目のない家庭教育支援の工夫

市町・公民館等	矢板市 矢板公民館
事業	ママパパ KIDS おたのしみ会

1 事業を始めたきっかけ

公民館全体として、昨年までは講座数は多かったが、人が集まらないという問題があった。講座（にこにこセミナー等）への参加者もリピーターが多く、内容もマンネリ化している傾向があった。

そこで、「矢板公民館 2017 Re-born PROJECT」と銘打って事業の再検討を図ることとした。内容を洗い出し、精選し焦点化して講座数を減らした。その分、中身（テーマ・内容・対象者等）を明確にし、充実させることを目指した。市民が何を求めているのかを具現化して、しっかりイメージも伝えていく努力をした。高齢者の自主講座が多いので、公民館に来館していない層の人たちを呼び込むことに力をいれた。PDCA の充実、アンケートもしっかり取り（講座によって中身を変える）、次につなげることも意識した。

2 活動内容

「ママパパ KIDS おたのしみ会」

- ・従来あった「にこにこセミナー」の対象であった小中学生の保護者を幼児の保護者まで対象を広げる。
- ・内容は、家庭教育＋幼児教育とし、全部で12の講座を企画をした。
- ・公民館に来ている人材（利用者）も活用する。

3 成果と課題

○成果

- ・チラシ等の広報物は、昨年までの白黒からカラー刷りに変えた。デザイン等にもこだわりを持ち、手に取った人に興味を持ってもらえるように工夫した。配付は基本的には班回覧となっている。講座によっては、チラシの配布方法によって参加状況等が変わるので、例外もある。「ママパパ KIDS おたのしみ会」は講座一覧を載せたリーフレットを最初に配付した。「受験生応援企画！～第2弾～」と「キャンプにゴー！」については、別にチラシを作成し、講座実施が近づいた頃に配付をした。
- ・どの講座もほぼ満席になり、集客はアップした。
- ・今まで来ていない人が来るようになり、新規参加者の発掘ができた。
- ・ママパパ KIDS おたのしみ会の事業内容や様子そして、講座で作った作品を掲示することにより、興味をひきつけ次の講座へとつながりができた。そして公民館は身近なものと捉えてもらえるようになった。



○課題

「受験生応援企画！」では、中学生と保護者には、受験スイッチを入れてもらうために、次年度はもう少し早い時期に開催したい。

また、館外研修は、開催が夏の暑い日という事や対象者に幅があったため内容に不満を持つ方が出てしまった。次年度は対象者を絞る等、工夫をしたい。

4 その他

- ・「ママパパ KIDS おたのしみ会」は、ほとんどの講座で託児を行っている。基本的にはシルバー大学の自治奉仕活動委員に依頼し、栃木県家庭教育オピニオンリーダーさんたちにも協力いただいている。
- ・「受験生応援企画！」は、昨年度までの「にこにこセミナー」を整理した結果、中学生対象のものがなくなってしまったので、代わりになるものをもとというので考えた。教育委員会や各中学校長に説明して連携することができた。新聞掲載も依頼した。

(調査協力：矢板市矢板公民館 館長 田代博子、
社会教育指導員 佐藤彩香)



受験生応援企画！～第2弾～
高校入試情報 説明会
11月19日(日) 13:30～15:00
皆元 百代 先生

ベネッセコーポレーションの高校入試情報分析、受験対策の専門家による説明会。県立高校入試制度の最新情報とともに対策方法を解説します。進路のお話、学習方法のアドバイスなど、受験生はもちろん、中学1・2年生にも役に立つ内容です。

***100人(中学生と保護者の方) *無料**

事例 10 公民館を核とした家庭教育学級の支援

市町・公民館等	那須塩原市 ハロープラザ
事業	家庭教育学級

1 事業を始めたきっかけ

ハロープラザでは、塩原町の頃から保育園の家庭教育学級に関わり続けている。小・中学校に関わるのは市町村合併して那須塩原市になってからで、予算等も確保され、家庭教育学級及び学社連携融合推進事業と併せて、ハロープラザ管内の各小・中学校の支援にあたっている。

結果として保育園から中学校までの家庭教育学級に社会教育指導員が関わることで、切れ目のない家庭教育支援が展開でき、家庭教育学級の充実を図ることができるようになった。また、公民館が核となることで、地域で支える家庭教育支援につながっている。

2 活動内容

社会教育指導員がハロープラザ管内の保育園から中学校までの（保育園1、小学校3、中学校1）家庭教育学級の企画・運営を支援している。支援の流れは、以下のとおりである。

- ①年度初めに、各学校の家庭教育主事※を集め、家庭教育学級及び学社連携融合推進事業についての会議を公民館が主催する。
- ②会議以降、各学校の役員会に社会教育指導員が参加して、家庭教育学級の企画・運営について話し合いを行う。その際、家庭教育学級の講座の中に、市全体で行う教育講演会や公民館主催で行う子育てセミナーや講演会を組み込んでいく。
- ③各学校の実態に合わせた講座を実施する。

※那須塩原市では、教頭を家庭教育主事として任命している。これは、家庭教育主事を設置することで学校側の窓口を明確にし、家庭教育支援の充実を図るためである。

<活動のポイント>

- ・各学校の役員会等に足を運び相談にのすることで、保護者（役員）の思いや学校の思いを生かし、内容を決めている。そうすることによって、学校の実態に合った家庭教育学級を実施することができる。
- ・視察研修では、バスの移動時間を使って親学習プログラムを実施している。
- ・各学校の講座の中に公民館が主催する共通の講座を設定することで、学校間の交流を生み出している。
- ・開催については、チラシ等に頼らず、役員さんたちの口コミを大切にする。



子育てセミナー「子どもの食育・大人の食育・地域の食育
～今、子どもに伝えたい食のこと～」



ものづくり講座「風呂敷でちょい楽生活」



親子ものづくり講座「親子でパン作り体験」



親学習プログラム

「子どものいいところをのぼそう」

3 成果と課題

○成果

- ・継続することで、参加者数も一定の数を確保している。父親の参加率も高い。
- ・社会教育指導員が一人で全ての学校や保育園を担当することは負担も大きいですが、公民館と各学校との信頼関係を深めている。また、公民館区には3つの小学校があるが、共通の講座等で保護者同士が交流することで、中学校での保護者同士のつながりを円滑することに役立っている。
- ・公民館が関わることで、講師情報の提供や視察研修の企画等、学校の負担を軽くしながらも、内容の充実を図っている。

○課題

- ・保育園から小学校へと、だんだん家庭教育学級の活動が活発になってくるのに、中学校になると活動が停滞してしまう。（発展させたい。中学校には、家庭教育学級の役員がいない。）
- ・学校の思いと保護者の思いにはギャップがあり、対応が難しい。

4 その他

○今後の展開

- ・小規模校ばかりで、児童数自体も減少している。参加者数を拡大させたい。そこで、家庭教育学級にずっと関わってきた保護者からは、中学卒業時には「子育てが終わってしまう。家庭教育学級に参加できなくなるのは寂しい」という声も聞こえてくる。これからは、公民館事業と共催するなどして、地域の人でも家庭教育学級に参加できるようにしていってほしい。そうすることによって、子育て世代と地域の人とのつながりもできてくるのではないかと考えている。

（調査協力：那須塩原市ハロープラザ 館長 松本仁、 社会教育指導員 赤沢さゆり）

事例 11 三世代交流の地域づくり

市町・公民館等	足利市 梁田公民館
事業	親子ちゃれんじ倶楽部

1 事業を始めたきっかけ

足利市梁田地区は、アパートや住宅が新築されるといった市街化が進む地域と市街化調整区域で昔ながらの農村地域の二極化が著しい。近年においては、若い世代の転入が多く、足利市全体でも 65 才以上の人口率が一番低い（23.57% H29.10.1 現在）という特徴がある。核家族世帯が多い地域と若い世代の転出が増加している農村地域の交流が失われつつあるため、この状況を改善することが事業を始めるきっかけとなる。

2 活動内容

古くからの住民と新しい住民が入り交じっている地域のため、事業を通じて両者間の垣根を取り払うことで、隣人の顔が分かり、安心して子育てができる地域、社会で子どもを育てることができる地域を実現させることを目的とした。事業のねらいは、高齢者や子育て中の親、子どもといった異世代間が、野外活動や体験活動などを通じて、相互理解と連携を深め、明るくふれあいのある地域づくり、家庭づくりを目指すものである。

毎年度実施している事業で、年間 8～10 回の講座を組んでいる。各回は、独立していてその都度参加者を募集して実施している。内容は、小学校に通う児童とその親を対象とした料理教室や工作教室、高齢者学級（梁田寿大学）参加者と保育所児童との交流を目的とした花植えやしめ縄づくり、高齢者学級（梁田寿大学）参加者と児童館利用親子との交流を目的とした昔遊びなどから成る。

小学校児童とその親を対象とする事業については、チャレンジ梁田（旧名称：梁田小学校週 5 日制事業）運営委員会と共同開催とし、公民館が講座講師を選定、小学校が参加者を募る形で役割を分担している。保育所との交流事業については、高齢者学級（梁田寿大学）参加者に講師を依頼して実施している。児童館との交流事業については、高齢者学級（梁田寿大学）参加者に講師を依頼することもある。公民館が講師の選定・依頼、参加者のとりまとめをすることもある。

3 成果と課題

○成果

自主的に地域住民同士のつながりを深めていこうとする姿が見られるようになった。具体的には、地域住民の高齢者が小学校の通学路に立って、児童の登下校を見守るボランティア活動が始まった。また、小学校が高齢者を運動会や文化祭に招待するなど、地域としての一体感が強まってきた。

一つ一つの講座の組み立てに際して、複数組織が関係してくる性質上、公民館を中として連絡体制を作る必要があ



高齢者学級（梁田寿学級）参加者と保育所児童との花植

り、公民館から積極的に各組織に働きかけることで、自然に情報が集約でき、その後、共有を図るという流れを作ることができた。

○課題

自主的に地域のつながりを求める姿勢や風潮が全地区的に広まることを期待していたが、公民館利用者を中心とした限定的な範囲にとどまっている。



親子料理教室

4 その他

○今後の活動

育成会やPTA、保育所父母の会、老人クラブ等が取り組んでいる独自の活動のいくつかを、公民館との共同実施という形を取って本事業に組み込み、公民館を中心としたネットワークを基礎にして、それぞれの団体を結んでいきたい。その結びつきが強化されることで、現段階で関わりの希薄な若い世代の参加者が増えたり、関わりが強まったりして、本事業のねらいに迫れると期待できる。



親子料理教室

(調査協力：足利市梁田公民館 主任 和田圭祐)

第6章 まとめ

1 まとめ

(1) PTA 指導者研修における家庭教育に関するアンケート調査から

平成 29 年 6 月～7 月に、栃木県内 7 つ全ての教育事務所管内で行われた PTA 指導者研修の参加者に、家庭教育支援に関する学びの場への参加経験や単位 PTA の取組等への意識について、アンケート調査を行った。その結果の概要は以下のとおりである。

ア 子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）に関して

子育てに関する学びの場への参加経験者は、「学んでよかったこと」として「子どものほめ方・しかり方」、「親の役割」などの内容を上げている。今後「学んでみたいこと」も「学んでよかったこと」とほぼ同じであるが、「思春期の子どもとの向き合い方」が加わった。また同じ「学んでみたいこと」を保護者と教職員別に集計したところ、保護者は「思春期の子どもとの向き合い方」、教職員は「スマートフォン・ゲーム機器等」を学んでみたいと思う割合がそれぞれ高く、違いがあった。【図 2】【図 2-1】【図 3】【図 3-1】

イ 「親学習プログラム」、「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」に関して

「親学習プログラム」は、親同士が交流しながら主体的に学ぶことができる参加型学習プログラムとして栃木県教育委員会が開発したもので、多くの市町で就学時健康診断時に保護者向けの学習機会として提供されている。今回の調査では、「親学習プログラムに参加したことはない」と回答した人が、「参加したことがある」と回答した人を上回り、「親学習プログラム」という名称が実施状況に比して保護者に知られていないということが明らかになった。【図 4】【図 4-1】

「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」についても、市町への調査で明らかなように、市町で多くの事業が行われているが、名称があまり知られていないということが明らかになった。なお、栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会は、おおむね旧市町村単位で支部活動を行っている。それぞれが「よもぎの会（西那須野支部）」や「さくらんぼの会（市貝支部）」などの愛称をつけて活動している。【図 5】【図 5-1】

ウ 所属している PTA の家庭教育支援に関する取組等に関して

「所属している PTA における家庭教育に関する学びの場の提供について」は、6 割弱が「提供している」という回答で、約半数が「1・2 回」の提供回数という回答であった。提供している内容は、「PTA 教育講演会」が最も多かった。また、件数は 2 件だったが、「親学習プログラム」を行っているところもあった。2 割強は、「提供していない」と回答し、提供していないのでやってみたいことは「講話」が最も多かった。

「所属している PTA が家庭教育に関する学習の場をどのような団体と連携して行っているか、または行いたいのか」については、「県や市町教育委員会（生涯学習課・公民館等）」が最も多くあげられていた。

「所属している PTA は会員同士のつながり作りに力を入れているか」については、6 割が

「力を入れている」という回答で、内容は「スポーツ大会」が最も多かった。「所属している PTA は会員同士のコミュニケーションに力を入れているか」については、5 割弱が「力を入れている」と回答し、レクリエーション（スポーツ含む）が最も多かった。

「所属している PTA の行事等への父親の参加率」については、「どの行事も参加率が高い」、「行事によっては参加率が高い」を合わせて 6 割で、参加率が高い行事は「運動会、球技大会、スポーツ大会」であった。また、「参加率は低い」と回答した人の「父親の参加が増えるようなテーマ」を記述してもらったところ、「父親の〇〇というように限定する」、「親子で活動」などがあがっていた。【図 6】【図 6-1】【資料 3】【図 7】【資料 4】【図 8】【資料 5】【図 9】【資料 6】【図 10】【資料 7】

「今後、PTA 活動における家庭教育支援を充実させるために、どのような内容を学習したいか」については、保護者と教職員とで記述内容に差があった。保護者の記述は、「親子の関係、親の役割」、「人権教育（体験型）」などが多かった。一方、教職員の記述は、「子どもに対する接し方（思春期を含む）」、「スマホやゲームを通じてのソーシャルネットワークの問題（親同士なども含む）」などが多かった。保護者も教職員も共通するのは、「子どもにどう接するか」ということであると考えられる。【資料 8】

(2) 市町教育委員会生涯学習課等における家庭教育支援事業に関する取組状況調査から

栃木県内全 25 市町の市町教育委員会生涯学習課等に対して家庭教育支援事業として行っていることについて調査を行った。結果の概要は以下のとおりである。

ア 学習機会の提供について

「子どもの年代別の保護者への学習機会の提供」については、「行っている、他の世代も含めて行っている」を合わせて、小学生の保護者を対象にした学習機会の提供が最も多く 9 割を超え、内容やテーマは、「家庭教育学級」や「親学習プログラム」などであった。幼児の保護者へも小学生の保護者を対象とした事業と同様に「親学習プログラム」が行われており、「親学習プログラム」は、市町の学習機会の中で活用されていることがわかった。【図 11】【資料 10】

イ 体験活動の機会の提供について

「子どもの年代別親子の体験活動の機会の提供」について、幼児と小学生の親子を対象にした事業は、いずれも 5 割程度で、実施している内容やテーマは、幼児の親子へは、「りんご狩り、いもほり、もちつき」などの季節に関する行事等の内容が多く、小学生の親子へは、「科学」や「料理」、「体操などの体を動かすもの」などの内容が多くみられた。【図 13】【資料 11】

「保護者同士の交流機会の提供」については、幼児と小学生の保護者同士の交流機会の提供が中心となっていて、実施している内容やテーマは、どの世代でも「交流会」や「親学習プログラム」などであった。【図 13-2】【資料 12】

- ウ 困難を抱える子育て中の家庭（貧困、障害、外国人など）への支援、団体等への働きかけについて

「生涯学習課として困難を抱える子育て中の家庭（貧困、障害、外国人など）への支援」については、「行っている」、「他部局で行っている」を合わせて4割であった。外国人保護者の増加等が課題として意識されており、今後充実させていく必要がある。実施している具体的な内容についての記述は少なかったが、ヒアリング調査を行ったさくら市の事例は、発達障害のある子を持つ保護者からの相談機会を関係機関等と連携して取り組むことにより、充実したものになっていることがわかった。【図 14】【資料 14】【事例 3】

「世代別、団体別の家庭教育支援に関する事業や働きかけ」については、「家庭教育オピニオンリーダー」や「親学習プログラム指導者の団体」へのスキルアップ等の研修実施や運営資金の補助等が6～7割だった。これまでの学習機会や体験機会の提供では「親学習プログラム」が行われており、これらの実施に係わる団体等に向けて多くの働きかけが市町で行われていることがわかった。【図 15】

- エ 家庭教育支援に関する情報提供について

「住民への家庭教育支援に関する情報提供」については、広報誌が最も多く7割を超えていた。チラシやHPは5割、SNS等は1割程度であった。住民が以前から広報誌に慣れ親しんでいるため、情報を住民に伝える手段として多く活用されていることがわかった。一方で若い保護者への情報提供の方法については、ウェブサイトやSNS等の活用について積極的な検討が求められる。【図 16】

- オ 特色ある家庭教育支援事業について

特色ある家庭教育支援事業に関する記述では、県内全ての市町の記述があるわけではないが、地域に即した取組が行われていることがわかった。ヒアリング調査を行った那須塩原市の事例では、保健福祉部局との連携による取組で効果を上げていることがわかった。【資料 16】【事例 4】

- カ 家庭教育支援に関する施策の展開について

「家庭教育支援に関する施策を展開する上での課題」については、「事業での指導者が不足、または、今後不足が見込まれる」という項目が最も多く6割を超えていた。これまで述べたように、市町では家庭教育オピニオンリーダーとの連携事業が行われたり、「親学習プログラム」が活用されたりしているので、それらを行う指導者が不足、または今後の不足が見込まれるということは、これからの家庭教育支援事業への影響を考えると大きな問題である。また、「事業への参加者が少ない」という項目では、5割弱だった。【図 17】

「施策の立案や実施に際して必要な県の支援」については、「家庭教育支援を推進する指導者の養成」や「家庭教育支援に関する学習プログラムの提供」が4割を超えていた。次いで、「参加型学習の手法等の技術的な助言」が3割であった。【図 18】

キ 家庭教育支援に関する企業、事業所等との連携について

「家庭教育支援に関する施策を展開する中で、企業や事業所等との連携した取組を行っているかどうか」については、「行っている」という回答をしたのは、6市町だった。19市町では、企業や事業所との連携は行われていないことがわかった。【表4】

「連携を行っている」と回答した6市町に、その内容を尋ねたところ、「企業・事業所等での学習機会の実施（行政側からの講師の派遣等）」と「行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣」が6市町全てで行われていた。【表5】

また、「連携を行っていない」と回答した市町に対して理由を尋ねたところ、「必要性は感じているが連携のためのきっかけがないため」が最も多く10市町だった。次いで、「必要性は感じているが、連携のための情報が不足している」が8市町だった。これらのことから、市町は企業や事務所との連携について関心があり、実現させるための「きっかけ」や「情報」を求めていることがわかった。【表6】

さらに、「連携を行っていない」と回答した19市町に「今後、企業・事業所と連携してみたい取組」について質問したところ、「行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣」が最も多く9市町だった。他は、「企業・事業所等を会場とした、家庭教育支援のための見学会の実施」、「企業・事業所等での学習機会の実施（行政側からの講師の派遣等）」と続いていた。【表7】

「企業や事業所等との連携に関して、必要な県の支援」については、「連携可能な企業・事業所等の情報提供」が最も多く6割を超えていた。【図19】

ク 自由記述について

家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていることについては、これまで出てきた内容と重複するものもあるが、「届けたい人に必要な情報を届けたい」、「集客型の講座形式の事業への限界」、「他部局や学校、保健機関等との連携の必要性」など課題があることがわかった。これらを受けて、工夫している市町にヒアリング調査を行い、第5章に掲載した。

(3) 市町公民館における家庭教育支援事業に関する取組状況調査から

栃木県内全ての公民館等に対して家庭教育支援事業として行っている取組等について調査を行った。実施している県内107の公民館等の回答結果の概要は以下のとおりである。

ア 公民館等で行われている学習機会の提供について

「学習機会の提供」については、小学生の保護者対象のものが最も多く6割弱であった。次いで幼児や乳児の保護者を対象にしたものになり、中学生の保護者対象のものは2割、その他の年代の保護者は1割以下になった。内容やテーマは、乳児～小学生の保護者を中心に子どもの成長段階や発達に沿ったものが行われており、「親学習プログラム」を行っているとところもあった。多くの機会に家庭教育オピニオンリーダー等が講師となっていた。【図20】【資料20】

イ 公民館等で行われている相談機会について

「相談機会の提供」については、多くの公民館で改まった形の「相談機会」として設けるのではなく、講座や体験等の活動に参加した時に気軽に相談ができるような雰囲気作りをしていることがわかった。【図 21】【資料 21】

ウ 公民館等で行われている体験活動、交流機会の提供について

「親子の体験活動の提供」については、小学生の親子向けのものが中心で身近なところにいる専門家を講師に招いて行っているものが多かった。また、乳児～小学生のものについては、家庭教育オピニオンリーダーが講師となっていた。【図 22】【資料 22】

「保護者同士、異世代間の交流機会の提供」についても、小学生の保護者に対してのものが中心であった。保護者だけの交流にとどまらず、子どもを介して保護者も一緒に交流するものや、高校生がボランティアとして乳児や幼児と交流しているものなどがあった。また、交流機会の提供を実施する館数は少なくとも、記述の内容等は数多く上げられていた。数は少ないが、ここでも乳児～小学生までのもので家庭教育オピニオンリーダーが講師となっていて行っているものがあった。【図 23】【資料 23】

エ 公民館等における特色ある家庭教育支援事業について

各公民館等で近隣の施設、団体と連携するなど地域の特性を生かした内容を工夫して実施している。特に工夫された取組についてはヒアリング調査を行い、第5章に掲載したとおりである。

オ 自由記述について

家庭教育支援事業を進める上で日頃感じていることについては、公民館の担う役割として、また地域や家庭により近い行政機関として、参加者を集めるのに苦労しながらも現在の家庭教育を取り巻く状況をよく把握して、事業を進めている様子が見えてきた。【資料 25】

2 課題と今後に向けて

今回の調査から見えてきた保護者への家庭教育支援を推進する上での課題について整理し、今後に向けて考察していく。

(1) PTA 指導者研修における家庭教育に関するアンケート調査から

ア 家庭教育に関する「学びたい」テーマについて

PTA 指導者研修でのアンケート結果から、保護者と教職員が「学びたい」と思っているテーマについて「親の役割」は同じ程度に高かったが、違いが出たものもあった。保護者は「子どものほめ方、しかり方」や「思春期の子どもとの向き合い方」など「子どもとの接し方」を学びたい人が多かった。教職員は、「スマートフォン・ゲーム機器等」についてが多かった。また「進路について」は、保護者は 23.8%だが、教職員は 10.9%で差が大きかった。

今後、PTA の研修や家庭教育学級など学校で行われる学習機会においては、保護者や教職

員が家庭教育に関する学びの場で、「学びたい」と思っているテーマが異なっていることを踏まえながら、児童生徒や地域の状況等を考慮しつつ、一方的にならないよう検討した上で、学習機会を設けられるとよい。また、PTA の家庭教育に関する学習の場の提供については、「保護者同士が悩みを話し合うことで安心するプログラム」の提供を求めるものもあり、「親学習プログラム」等話し合う機会を設ける方法を取り入れることも考えられる。

さらに、高校生の保護者対象の事業については、これまでも述べてきたように市町や公民館等での実施は少なかった。高校の特性として、生徒は広範囲から通学しており、居住地と学校の所在地が一致しているとは限らない。また、学科やコースにより、保護者の関心や不安が異なる傾向がある。特別支援学校も同様で、各単位 PTA での取組が重要な役割を果たすことになると考えられる。そのことを踏まえて、各単位 PTA や学校は、保護者が子どもと関わる上での不安の軽減を図る取組を充実させることが求められる。鹿沼東高校や栃木商業高校などいくつかの PTA で行われている学年会等での思春期版親学習プログラムは、保護者同士が語り合う機会を設けることで好評を得ており、これらの普及など、県教育委員会は高等学校 PTA 連合会等と協力して各校の PTA を支援していく必要があると考えられる。

イ 「親学習プログラム」や「家庭教育オピニオンリーダー」の認知度について

市町や公民館等の家庭教育支援事業を通して、「親学習プログラム」は活用され、「家庭教育オピニオンリーダー」が学習機会や体験活動、交流機会等の事業において各地で連携した活動を行っている。しかしながら、「親学習プログラム」や「家庭教育オピニオンリーダー」の認知度は、低いことが明らかになった。今後の充実のため県や市町関係団体は、事業の参加者である保護者に「親学習プログラム」や「家庭教育オピニオンリーダー」を認知してもらうよう努力する必要がある。

今後、県としては、市町が求めている「家庭教育支援を推進する指導者の養成」、「家庭教育支援に関する学習プログラムの提供」、「参加型学習の手法等の技術的な助言」については、今まで行ってきた指導者養成研修や研修後のフォローアップ研修、スキルアップ研修、学習プログラムの提供などについての要望であるのととらえ、改善を加えながら、更によりものを提供し続けることが大切だと考える。

その「親学習プログラム」の認知度を高めるためには、各プログラム実施時に「親学習プログラム」という名称をより一層使うよう心がけ、親学習プログラムのファシリテーターにも使ってもらうよう呼びかけをしていく。また、保護者が子育てに関して、発達段階の折々に迷ったり不安に思ったりしていることがらについて安心したいというニーズに応え、機会をとらえて、「親学習プログラム」の実施回数を増やせるように支援をしていく。このことで、「親学習プログラム」を「やってみたい」とか「良い取組だ」と思う人が増えることにつながり、研修の受講につながっていくはずである。

保護者が学ぶ際、それぞれの取組の名称を知らなくても支障はない。しかしながら、就学时健康診断時の「親学習プログラム」は、各市町で活躍している研修終了者によるグループによって支えられている。後継者が育たないことは、活動継続の問題にもなってくる。市町の担当者への調査からも心配する声がいくつも上がっている。

同様に「家庭教育オピニオンリーダー」が活動する際は、愛称だけでなく「家庭教育オピニオンリーダー」という名称も合わせて使っていき、認知度を高めていけるように家庭教育オピニオンリーダーと協力していく。「家庭教育オピニオンリーダー」の認知度が上がれば、仲間になって活動してみようという関心を高めることができ、養成研修の受講者の増加につながり、さらには市町が課題とする指導者不足の解消につながっていくと考えられる。

「親学習プログラム」の研修受講者の減少問題と同様のことが、家庭教育オピニオンリーダー研修でも起こっている。活動できる人数が少なく、やむを得ず休止する支部も出はじめている。身近な場で親子が参加できる活動は重要であり、今後の継続に向け認知度を上げ、働きかけを行って研修受講者を増やし、後継者を養成することが求められる。

(2) 市町教育委員会生涯学習課、公民館等における家庭教育支援事業に関する取組状況調査から

ア 市町教育委員会生涯学習課等の事業について

市町は、「事業での指導者が不足、または今後、不足が見込まれること」、「事業への参加者が少ないこと」、「企業や事業所との連携の必要性は感じているが連携のためのきっかけがないこと」、「届けたい人に情報が届かない」、「集客型の講座形式の事業への限界」、「他部局や学校、保健機関等との連携」などが課題だととらえている。

イ 公民館等の事業について

公民館等では、家庭教育支援事業全体を通して、小学生の保護者を対象としている事業が中心となっている。高校生の保護者と妊娠中の保護者（夫を含む）対象のものは、他の世代に比べて非常に少ない。また、事業を行っても父親の参加が少なかったり、参加者が少ないため事業が実施できなかったりなどの集客の問題を挙げているところもあった。今回の調査から、公民館等は、実施事業も多く利用者に近い立場にいることから、現在の家庭教育を取り巻く状況（育児に関心が低い親の顕在化、家族構成の多様化、情報化の負の側面、例えば SNS の利用により目の前の相手との意思疎通を煩わしく感じる等）について把握し、その状況を何とかして変えていかなければと課題意識を持ち対処しようとしていることがわかった。さらに、課題を抱えている担当者がいる一方で、改善に取組、成果をあげた事例がありながら、情報が共有化されていないという点も浮かび上がった。

ウ 今後に向けて

今後、県内の各市町や公民館等の担当者が、情報交換をする場や情報を共有できるような仕組みを充実し、効果のあった取組が県内で広まったり、担当者の悩みを軽減していったりするような仕組みが求められる。また、住民への家庭教育支援に関する情報提供をする際、広報誌だけでなく、家庭教育支援の対象になる若い世代の保護者への働きかけをする場合は特に、ウェブサイトや SNS を活用することで、参加者を増やすことにつながるのではないかとと思われる。今後、効果的な活用法について研究していくことが求められる。

以上、今回栃木県の家庭教育に関する学びの状況について、保護者や教職員の取組や意識

を確認し、学びを支援する市町教育委員会や公民館の事業の様子や担当者の意識を調べてきた。

もとより、保護者や教職員については、PTA 指導者研修に参加した方々を対象としており、子どもが乳幼児のみの保護者は含まれていない。この中で、子どもが小学生から高校生へと成長しても、保護者はそれぞれの発達段階に応じて子どもとの関わり方に不安を持ち、その不安を軽減したいと感じていることが明らかになった。

県内のすべての市町で、地域の状況に応じた多様な家庭教育支援事業が行われ、公民館等においても、地域の子どもや保護者と向き合った取組が行われており、今回の調査で、数多くの事例を収集することができた。事例については、簡潔な一覧表で紹介しており、それぞれの工夫されている点については、紹介しきれていない。効果的な事例について、ほんの一部をヒアリング調査結果として紹介しているが、それ以外の取組等について、今後機会を捉えて情報交換の場を設けたり、紹介する場を設けたりして、県内の学習機会の充実につなげていくようにしていきたい。

県教育委員会では、子どもが、自立するまでの切れ目のない家庭教育支援の充実を図っているところであり、各教育事務所や総合教育センターの取組を通して、プログラムの開発や普及、支援者の養成を行ってきた。県内の各市町では、これらを取り入れ、プログラムを活用したり、家庭教育支援者である家庭教育オピニオンリーダーの方々や親学習プログラム指導者の方々と連携協力して、多くの取組を行っている。

情報化が進み、保護者は多様な子育てに関わる情報に容易に接することができるようになっているが、一方で情報の多さに新たな不安を抱えたり、子ども共々新たな危険に直面したりしている。

子育てをしている保護者は、昔から変わらず、子どもの成長に応じた関わり方に関する不安があるとともに、社会の変化による現代ならではの不安も抱えている。こうした不安を軽減し、より多くの親子が笑顔で過ごせるよう、県や市町の教育委員会、学校の担当者、地域の支援者等が情報を共有し、より充実した家庭教育支援を展開していくことが求められる。

この調査が、関係の方々に活用され家庭教育支援の取組の充実の一助となれば幸いである。

家庭教育に関するアンケート

(PTA 指導者研修)

【アンケート調査へのご協力をお願い】

本日は、調査にご協力頂き、ありがとうございます。
この調査は、栃木県内の家庭教育に関する状況を把握し、今後の家庭教育支援の施策に活用するためのものです。回答は無記名で、統計的に分析しますので、お名前が外に出ることはありません。正しい答えや間違った答えというものはありません。思ったとおりに答えてください。それぞれの質問をよく読み、できるだけ全ての質問についてお答えください。

栃木県総合教育センター 生涯学習部

◆ 問1～問5については、あなた自身のことについてお伺いします。

問1 回答者についておたずねします。

(1) お住まいの市町はどこですか、ご記入ください。

() 市・町

(2) 性別は何ですか。

ア 女 イ 男

(3) 年齢を教えてください。(どれか1つ)

ア 20代 イ 30代 ウ 40代 エ 50代 オ 60代 カ それ以上

(4) 本日は、どの立場で参加されていますか。(どれか1つ)

ア 保護者 イ 教職員 ウ 行政関係者 エ その他()

(5) 本日は、どの校種の立場で参加されていますか。(どれか1つ)

ア 小学校 イ 中学校 ウ 小中学校 エ 義務教育学校 オ 高等学校
カ 特別支援学校 キ その他()

問2 あなたは、今までに子育てに関する学びの場(家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等)に参加した経験がありますか。

ア はい イ いいえ

└─> 学んでよかったことは何ですか。(複数回答、可)

ア 子どもの生活リズム	イ 子どものほめ方、しかり方
ウ 親の役割	エ 読書のすすめ
オ 学校生活の不安・悩み	カ 進路について
キ 家庭における性教育	ク 思春期の子どもとの向き合い方
ケ いじめの問題	コ スマートフォン・ゲーム機器等
サ その他()	

問3 あなたが現在、子育てに関してもっと学んでみたいことは何ですか。(複数回答、可)

ア 子どもの生活リズム	イ 子どものほめ方、しかり方
ウ 親の役割	エ 読書のすすめ
オ 学校生活の不安・悩み	カ 進路について
キ 家庭における性教育	ク 思春期の子どもとの向き合い方
ケ いじめの問題	コ スマートフォン・ゲーム機器等
サ その他()	

問4 あなたは、栃木県の「親学習プログラム」を知っていますか？

ア 知っている イ 知らない

└─> 実際に親学習プログラムを活用した学習機会に参加したことがありますか。

ア ある イ ない

問5 あなたは、「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」を知っていますか？

ア 知っている イ 知らない

└─> 実際に家庭教育オピニオンリーダーが行っている活動に参加したことがありますか。

ア ある イ ない

裏面をご覧ください。

◆ 問6～問10については、今回、参加されている立場のPTA活動についてお伺いします。

問6 あなたの所属しているPTAは、家庭教育に関する学習の場を会員に提供していますか。

ア いる 1年間で()回 イ いない

(1) 問6で、ア いる と答えた方は、その内容を、イ いない と答えた方は、やってみたいことを自由にお書きください。

(2) (1)の学習の場を、どのような団体等と協力して行っていますか。または、行いたいですか。

ア 県や市町教育委員会（生涯学習課・公民館等） イ 福祉関係
ウ 親学習プログラム指導者 エ 家庭教育オピニオンリーダー
オ 企業 カ その他（ ）

問7 あなたの所属しているPTAは、会員同士のつながりを作るようなことに力を入れていますか。

ア いる イ いない

(1) 問7で、ア いる と答えた方は、その内容を、イ いない と答えた方は、会員同士のつながりを作るためにやってみたいことを自由にお書きください。

問8 あなたの所属しているPTAは、会員同士のコミュニケーションを増やす活動に力を入れていますか。

ア いる イ いない

(1) 問8で、ア いる と答えた方は、その内容を、イ いない と答えた方は、会員同士のコミュニケーションを増やすためにやってみたいことを自由にお書きください。

問9 あなたの所属しているPTAは、行事等への父親の参加率はどの程度でしょうか。

ア どの行事も参加率が高い
イ 行事によっては参加率が高い
ウ 参加率は低い

(1) 問9で、ア どの行事も参加率が高い、イ 行事によって参加率が高い と答えた方は、参加率の高い行事名を、ウ 参加率は低い と答えた方は、父親の参加が増えるようなテーマなどを自由にお書きください。

問10 今後、PTA活動における家庭教育支援を充実させるために、どのような工夫が出来ると思いますか。

(1) どのような内容をみんなと一緒に学習したいですか、テーマなどを自由にお書きください。（教職員、行政関係者は、どのようなことを保護者に学んでほしいですか。）

(2) PTA活動における家庭教育支援の効果をあげるために、協力したい団体等がありましたら、お書きください。

御協力ありがとうございました。

市町における家庭教育支援事業に関する取組状況調査〔調査票1〕

資料2

御協力をお願い

本調査は、家庭教育支援の御担当の方が御回答ください。

調査に御協力いただき、ありがとうございます。

この調査は、栃木県内の市町の生涯学習担当課で行われている家庭教育支援事業に関する状況を把握し、今後の家庭教育支援の施策等に活用するためのものです。回答は統計的に分析します。それぞれの質問をよく読み、お答えください。

回答いただく際の注意点

- ・生涯学習担当課等が中心となって教育委員会で実施している平成29年度の家庭教育支援事業(今後、実施予定分も含む)についてお答えください。
- ・切れ目のない支援が行われているかを把握したいので、貴市町の他部局で行っているものについても把握している場合は、お答えください。
- ・公民館については、別途、各公民館等で御回答していただくことになっておりますので、記入の必要はありません。
- ・シリーズで行っているものは、全部で1とカウントしてください。(例)毎月行っているもの(12回実施)は、「1つ」と数える。
- ・記述(ブルー系色)は、できるだけ具体的に御記入をお願いします。
- ・選択(赤系色)は、プルダウンの選択肢から選んでください。該当する選択肢がない場合は、「その他」を選んで矢印「→」の示す記述欄に御記入をお願いします。
- ・選択肢の中で「他の世代の保護者も含めて行っている」とした場合、その世代の欄にも同じようにお答えください。
- ・黄色の欄は、調査用紙の選択肢(①～⑩)から選び、番号でお答えください。
- ・問1と問3の男女比については、研修全体を通しての男女比を全体が10になるようにお答えください。入力は、男を入れると女は自動入力になっています。

市町名		
回答担当部署		
回答者氏名		
回答者職名		
電話番号		
FAX番号		
E-mailアドレス		
家庭教育担当者数		(人)
家庭教育支援関係事業予算		(千円)

※生涯学習課の家庭教育支援事業に関する予算の総額を御記入願います。
(公民館等、出先機関の予算も含みます。)

貴市町での家庭教育支援事業についておたずねします。

問1 家庭教育支援事業として、**学習機会の提供**を行っていますか。それぞれの項目に当てはまる選択肢を選んでください。

※ 『学習機会の提供』とは、家庭教育をテーマとした学習講座・学級等の開催、出前講座等の実施、保護者や親子への交流の場の提供等の取組のことです。

☆回答例

	実施の有無	実施回数	(その他)	(内容・テーマ)	連携先	参加保護者の男女比
イ 乳児の保護者	行っている	その他 →	乳幼児	月齢に応じた、生活リズムの話	②・⑤・⑥	男 → 1 女 → 9

	実施の有無	実施回数	(その他)	(内容・テーマ)	連携先	参加保護者の男女比
ア 妊娠中の保護者(夫を含む)	選択	選択 →				男 → 女 → 10
イ 乳児の保護者	選択	選択 →				男 → 女 → 10
ウ 幼児の保護者	選択	選択 →				男 → 女 → 10
エ 小学生の保護者	選択	選択 →				男 → 女 → 10
オ 中学生の保護者	選択	選択 →				男 → 女 → 10
カ 高校生の保護者	選択	選択 →				男 → 女 → 10
キ 一般市町民(年齢問わず)	選択	選択 →				男 → 女 → 10

※ 男を入力すると、女は自動で入る

連携先の選択肢

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| ① 学校 | ⑤ 家庭教育支援団体 | ⑨ その他 |
| ② 保健所 | ⑥ 家庭教育オピニオンリーダー | ⑩ 特になし |
| ③ 保健福祉部局 | ⑦ 図書館 | ⑪ 把握していない |
| ④ 企業・事業所等 | ⑧ 幼稚園・保育園 | |

問2 家庭教育支援事業として、相談機会を設けていますか。それぞれの項目に当てはまる選択肢を選んでください。

☆回答例		実施の有無	連携先	主な方法・手段	相談員	(その他)	生涯学習課以外での実施
ウ	小学生の保護者	他の世代の保護者も含めて行っている	①・⑤	面接・面談	学校教育課職員	→	学校教育課 →

	実施の有無	連携先	主な方法・手段	相談員	(その他)	生涯学習課以外での実施
ア 乳児の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
イ 幼児の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
ウ 小学生の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
エ 中学生の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
オ 高校生の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
カ 障害がある子の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
キ 外国籍の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →
ク 貧困等の課題を抱える家庭の保護者	選択		選択	選択	→	選択 →

連携先の選択肢

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| ① 学校 | ⑤ 家庭教育支援団体 | ⑨ その他 |
| ② 保健所 | ⑥ 家庭教育オピニオンリーダー | ⑩ 特になし |
| ③ 保健福祉部局 | ⑦ 図書館 | ⑪ 把握していない |
| ④ 企業・事業所等 | ⑧ 幼稚園・保育園 | |

問3 家庭教育支援事業として、親子の体験活動、保護者同士の交流機会、異世代間の交流機会を行っていますか。それぞれの活動項目について当てはまる選択肢を選んでください。また、これらの活動を生涯学習課以外で行っている場合には、担当部課を、他の機関と連携して行っている場合には、連携先について下の選択肢の中から、いくつでも選んで記入してください。

☆回答例

	親子の体験活動（内容）	生涯学習課以外での実施	連携先	実施回数	参加保護者の男女比
ア 乳児の保護者	他の世代の →	保健福祉部局 →	⑪	年4回	男 → 5 女 → 5

※ 男を入力すると、女は自動で入る

	親子の体験活動（内容）	生涯学習課以外での実施	連携先	実施回数	参加保護者の男女比
ア 乳児の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
イ 幼児の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
ウ 小学生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
エ 中学生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
オ 高校生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10

	交流機会(保護者同士)(内容)	生涯学習課以外での実施	連携先	実施回数	参加保護者の男女比
ア 乳児の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
イ 幼児の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
ウ 小学生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
エ 中学生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
オ 高校生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10

	交流機会(異世代)(内容)	生涯学習課以外での実施	連携先	実施回数	参加保護者の男女比
ア 乳児の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
イ 幼児の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
ウ 小学生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
エ 中学生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10
オ 高校生の保護者	選択 →	選択 →		選択	男 → 女 → 10

連携先の選択肢

- | | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| ① 学校 | ⑤ 家庭教育支援団体 | ⑨ その他 |
| ② 保健所 | ⑥ 家庭教育オピニオンリーダー | ⑩ 特になし |
| ③ 保健福祉部局 | ⑦ 図書館 | ⑪ 把握していない |
| ④ 企業・事業所等 | ⑧ 幼稚園・保育園 | |

問4 生涯学習課として困難を抱える子育て中の家庭(貧困、障害、外国人など)に、特に行っている事業はありますか。

(具体的な内容)

- ☐ ア 行っている →
- ☐ イ 行っていない
- ☐ ウ 他部局で行っている

問5 貴市町では、次の人々に対して、家庭教育支援に関する事業や働きかけを行っていますか。(複数回答可)

- ☐ ア 若者(中・高・大学～20代前半)世代 (学習機会の提供、交流機会の提供、家庭教育関係の研修への参加呼びかけ等)
- ☐ イ 子育てを終えた世代 (学習機会の提供、交流機会の提供、家庭教育関係の研修への参加呼びかけ等)
- ☐ ウ 高齢者世代 (学習機会の提供、交流機会の提供、家庭教育関係の研修への参加呼びかけ等)
- ☐ エ 家庭教育オピニオンリーダーの団体 (スキルアップ等の研修実施、運営資金の補助等)
- ☐ オ 親学習プログラム指導者の団体 (スキルアップ等の研修実施、運営資金の補助等)
- ☐ カ その他 →
- ☐ キ 行っていない

問6 住民への家庭教育支援に関する情報提供には、どのようなものを利用していますか。(複数回答可)

- ☐ ア 広報誌
- ☐ イ チラシ
- ☐ ウ HP
- ☐ エ SNS等
- ☐ オ ケーブルテレビ
- ☐ カ タウン誌
- ☐ キ その他 →
- ☐ ク 情報提供は、行っていない

問7 貴市町で実施している、特色ある家庭教育支援事業を教えてください。

貴市町での家庭教育支援に関する施策や事業所との連携についておたずねします。

問8 家庭教育支援に関する施策を展開する上での課題は何ですか。(複数回答可)

- ☐ ア 事業予算が不足している
- ☐ イ 事業への参加者が少ない
- ☐ ウ 事業を展開するための情報が不足している
- ☐ エ 事業での指導者が不足、または今後、不足が見込まれる
- ☐ オ 事業の計画の作成・立案
- ☐ カ その他 →
- ☐ キ 特にない

問9 施策の立案や実施に際して必要な県の支援は何ですか。(複数回答可)

- ☐ ア 予算要求のための基礎データ等の情報提供
- ☐ イ 全県的な家庭教育支援に対する方針(条例等)の策定
- ☐ ウ 家庭教育支援に関する学習プログラムの提供
- ☐ エ 参加型学習の手法等の技術的な助言
- ☐ オ 家庭教育支援を推進する指導者の養成
- ☐ カ その他 →
- ☐ キ 特にない

問10 家庭教育支援に関する施策を展開する中で、企業・事業所等と連携した取組を行っていますか。

- ☐ ア 行っている
- ☐ イ 行っていない

問10-1 (問10でアと回答した市町がお答えください。)
どのような連携をしていますか。

- ☐ ア 企業・事業所等での学習機会の実施 (行政側からの講師の派遣等)
- ☐ イ 企業・事業所等での相談機会の実施
- ☐ ウ 行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣
- ☐ エ 企業・事業所等の専門性を生かした、市民への相談機会の実施
- ☐ オ 企業・事業所等を会場とした、家庭教育支援のための見学会の実施
- ☐ カ その他 →

問10-2 (問10でイと回答した市町がお答えください。)

企業・事業所等と連携した取組を行っていない理由は何ですか。(複数回答可)

- ☐ ア 必要性を感じていないため
- ☐ イ 必要性は感じているが予算がないため
- ☐ ウ 必要性は感じているが連携のための情報が不足しているため
- ☐ エ 必要性は感じているが連携のためのきっかけがないため
- ☐ オ 必要性は感じているが企業・事業所等の協力を得ることが難しいため
- ☐ カ その他 →

問10-3 (問10でイと回答した市町が答えください。)

貴市町では企業・事業所等と連携して、次のような取組を行ってみたいと思いますか。

- ☐ ア 企業・事業所等での学習機会の実施 (行政側からの講師の派遣等)
- ☐ イ 企業・事業所等での相談機会の実施
- ☐ ウ 行政が主催する学習機会の場で、専門性を生かした企業・事業所等からの講師派遣
- ☐ エ 企業・事業所等の専門性を生かした、市民への相談機会の実施
- ☐ オ 企業・事業所等を会場とした、家庭教育支援のための見学会の実施
- ☐ カ その他 →

問11 企業・事業所等との連携に関して、必要な県の支援は何ですか。(複数回答可)

- ☐ ア 連携可能な企業・事業所等の情報提供
- ☐ イ 企業・事業所等の家庭教育支援への協力を促すための方針(条例等)の策定
- ☐ ウ 連携の際の学習内容等に関する助言
- ☐ エ 連携活動を円滑に行うためのノウハウの提供
- ☐ オ 必要ない
- ☐ カ その他 →

御協力ありがとうございました。

全体を通して、家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていることなどを御自由に記入ください。

公民館における家庭教育支援事業に関する取組状況調査〔調査票2〕

資料3

調査に御協力いただき、ありがとうございます。

この調査は、栃木県内の各公民館等で行われている家庭教育支援事業に関する状況を把握し、今後の家庭教育支援の施策等に活用するためのものです。回答は統計的に分析します。それぞれの質問をよく読み、お答えください。

回答いただく際の注意点

- ・平成29年度の家庭教育支援事業についてお答えください。
- ・シリーズで行っているものは、全部で「1」とカウントしてください。(例)毎月行っているもの(12回実施)は、「1」と数える。
- ・内容・テーマ・回数、講師名、等は、できるだけ具体的に記入をお願いします。
- ・記述(ブルー系色)は、できるだけ具体的に記入をお願いします。
- ・選択(赤系色)は、プルダウンの選択肢から選んでください。

市町名		
施設名		
回答担当部署		
回答者氏名		
回答者職名		
電話番号		
FAX番号		
E-mailアドレス		
家庭教育担当者		(人)
家庭教育支援関係 事業予算		(千円)

※公民館の家庭教育支援事業に関する予算の総額を御記入願います。

貴公民館での家庭教育支援事業についておたずねします。

問1 家庭教育支援事業として、学習機会の提供を行っていますか。それぞれの項目に当てはまる選択肢を選んでください。『学習機会の提供』とは、家庭教育をテーマとした学習講座・学級等の開催、出前講座等の実施、保護者や親子への交流の場の提供等の取組のことです。
未実施のところは、空欄のままです。

実施の有無		(内容・テーマ・回数、講師名、等) 記入例: 親子ふれあい体操、1回、〇〇体操教室の△△先生、親学習支援チーム
ア	妊娠中の保護者(夫を含む)	
イ	乳児の保護者	
ウ	幼児の保護者	
エ	小学生の保護者	
オ	中学生の保護者	
カ	高校生の保護者	
キ	子育てを終えた世代	
ク	一般市町民(年齢問わず)	

問2 家庭教育支援事業として、相談機会を設けていますか。それぞれの項目に当てはまる選択肢を選んでください。
未実施のところは、空欄のままです。

実施の有無		(内容・テーマ・回数、講師名、等) 記入例: 公民館への来館による相談受付、毎月2回実施、〇〇市保健センター職員
ア	乳児の保護者	
イ	幼児の保護者	
ウ	小学生の保護者	
エ	中学生の保護者	
オ	高校生の保護者	
カ	障害がある子の保護者	
キ	外国人の保護者	
ク	貧困等の保護者	

問3 家庭教育支援事業として、親子の体験活動、保護者同士の交流機会、異世代間の交流機会を行っていますか。それぞれの活動項目に当てはまる選択肢を選んでください。
また、連携先があれば、御記入ください。

親子の体験活動		(内容・テーマ・回数、講師名、等) 記入例: 虫かご作り、1回、公民館職員
ア 乳児の保護者	選択	
イ 幼児の保護者	選択	
ウ 小学生の保護者	選択	
エ 中学生の保護者	選択	
オ 高校生の保護者	選択	

交流機会		(内容・テーマ・回数、講師名、等) 記入例: 夏休み子ども祭り、1回、家庭教育オピニオンリーダー
ア 乳児の保護者	選択	
イ 幼児の保護者	選択	
ウ 小学生の保護者	選択	
エ 中学生の保護者	選択	
オ 高校生の保護者	選択	

問4 貴公民館で実施している、特色ある家庭教育支援事業を教えてください。

--

御協力ありがとうございました。

全体を通して、家庭教育支援事業を進めるうえで日頃感じていることなどを御自由に記入ください。

--

家庭教育支援に関する実態調査

平成30（2018）年3月

栃木県総合教育センター生涯学習部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070
TEL 028-665-7206
FAX 028-665-7219